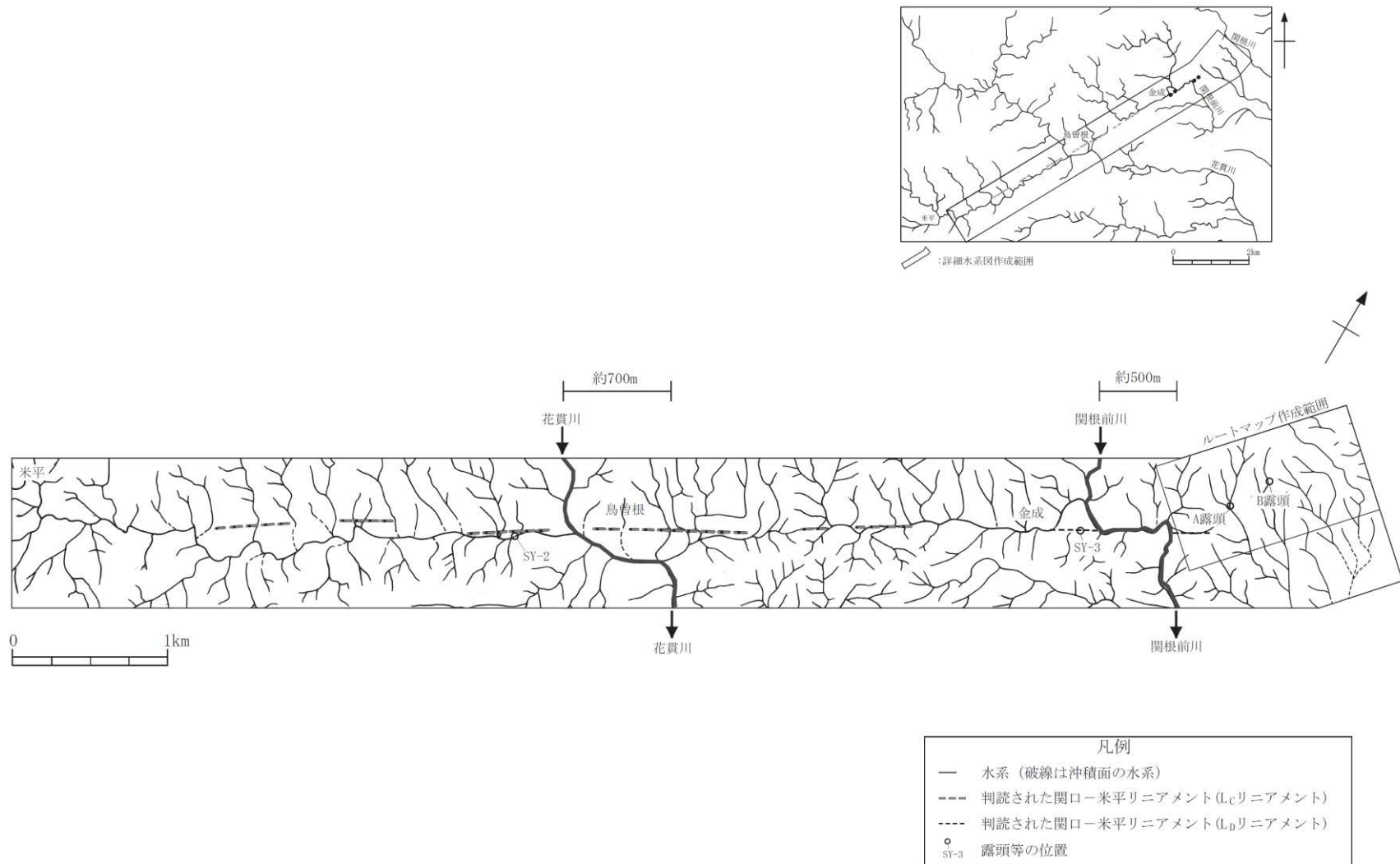
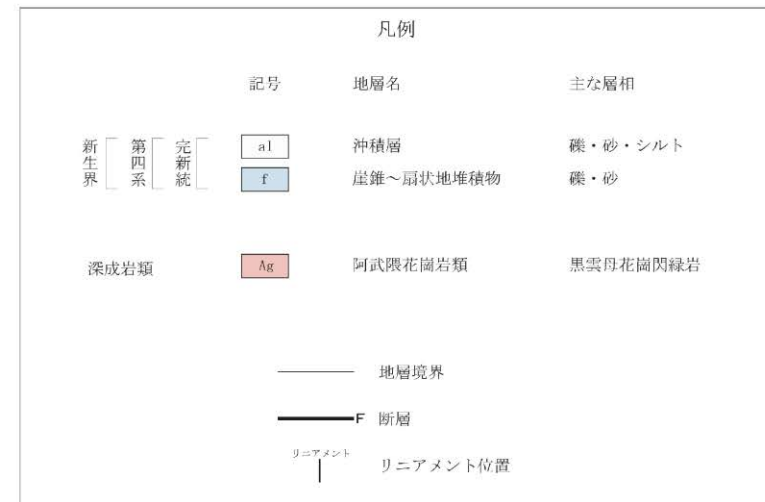
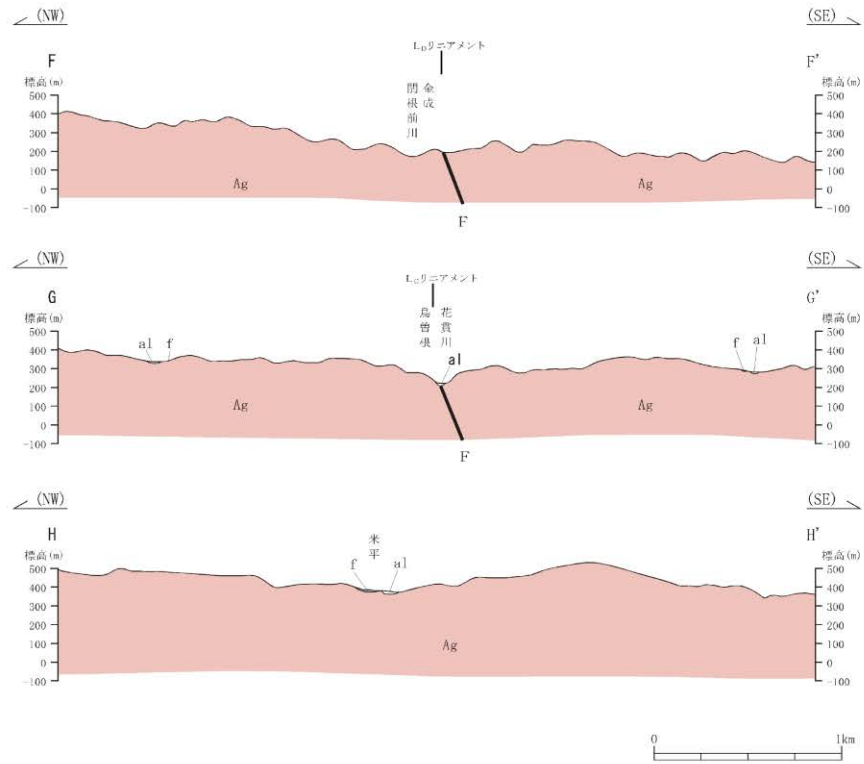


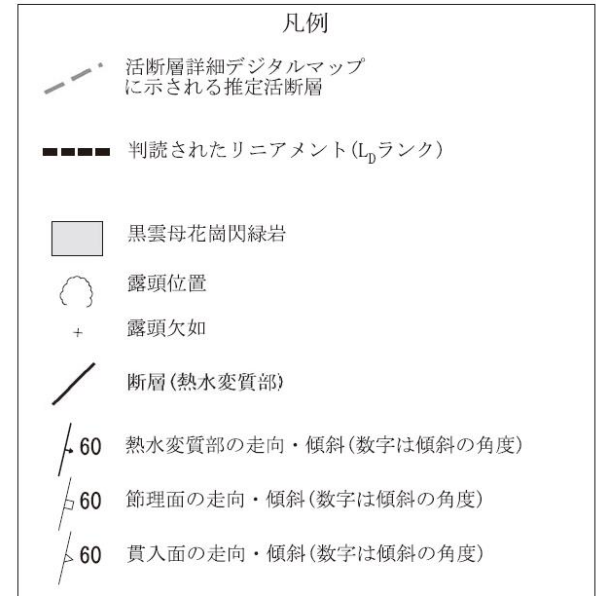
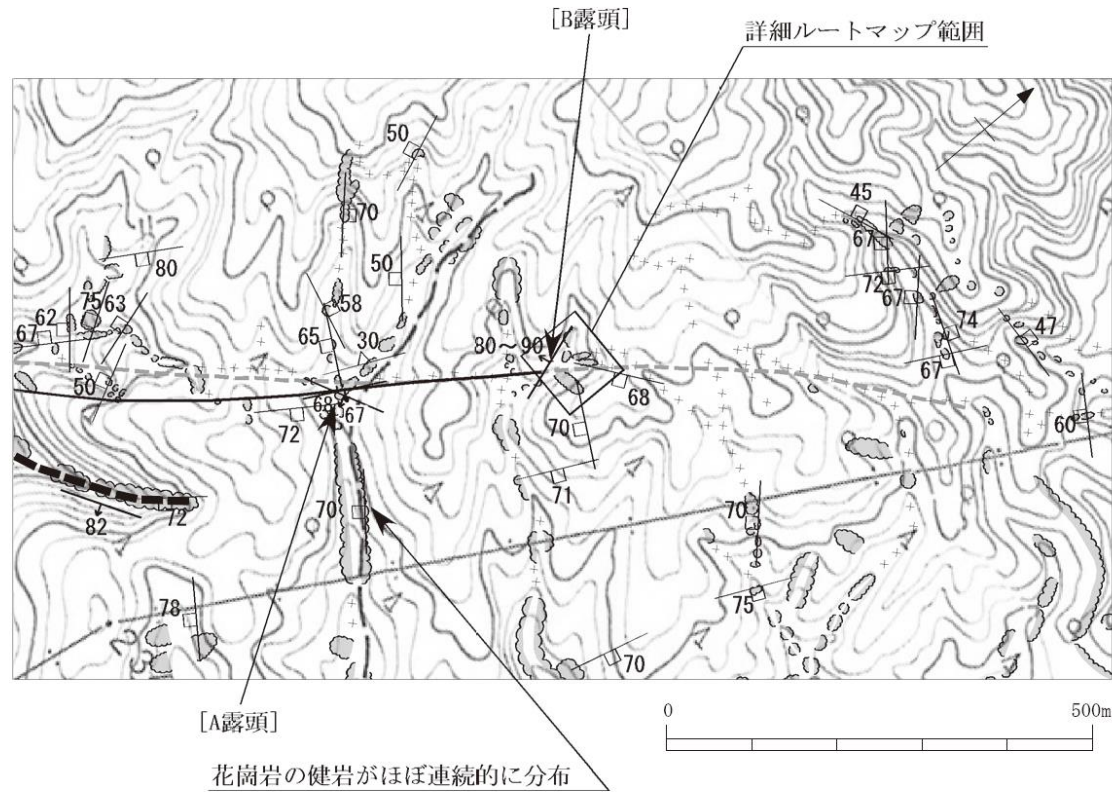
第 3. 2. 83 図 上和野付近のボーリング調査結果



第 3.2.84 図 関口-米平リニアメント周辺の水系図

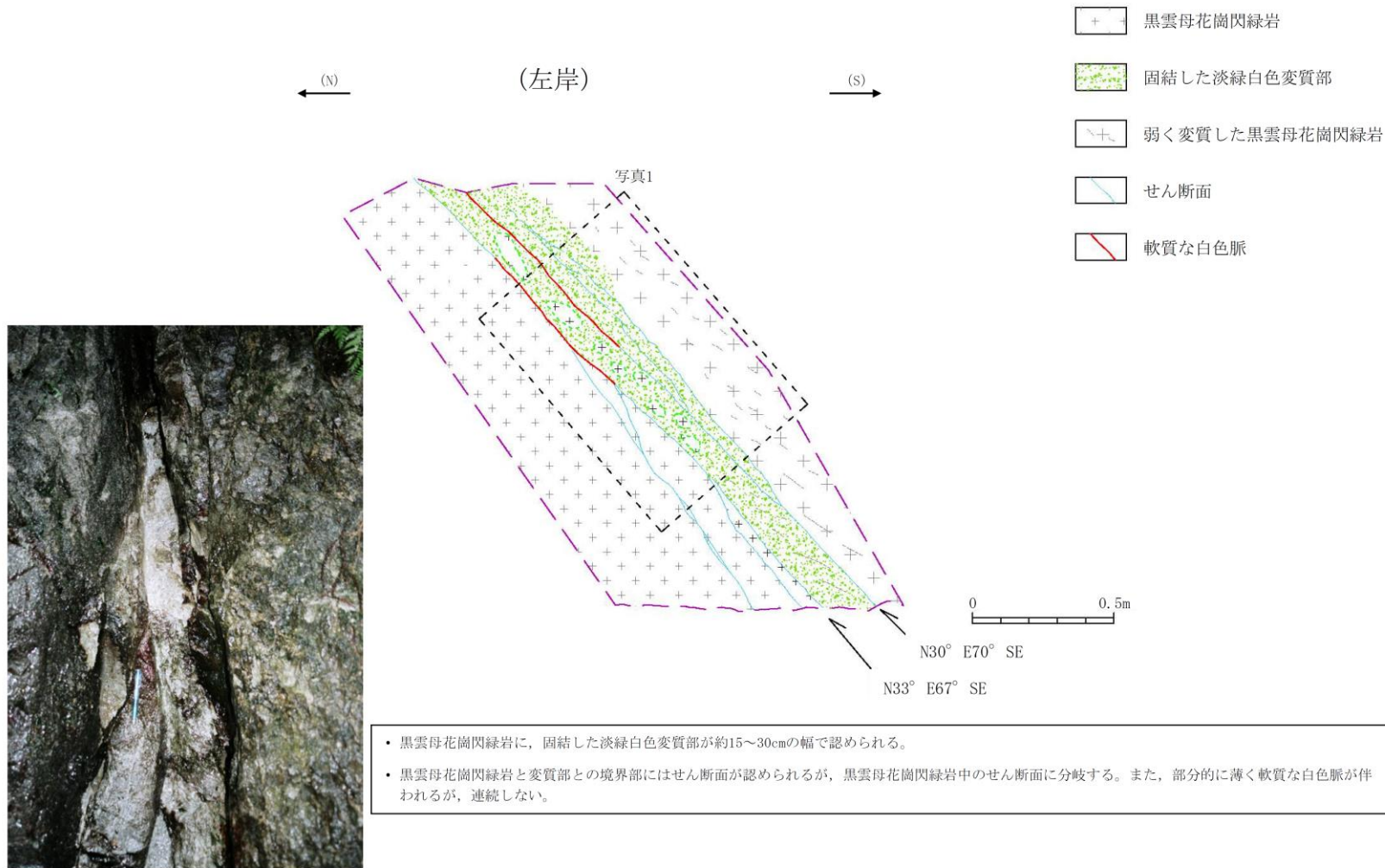


第 3. 2. 85 図 関ロ-米平リニアメント周辺の地質断面図

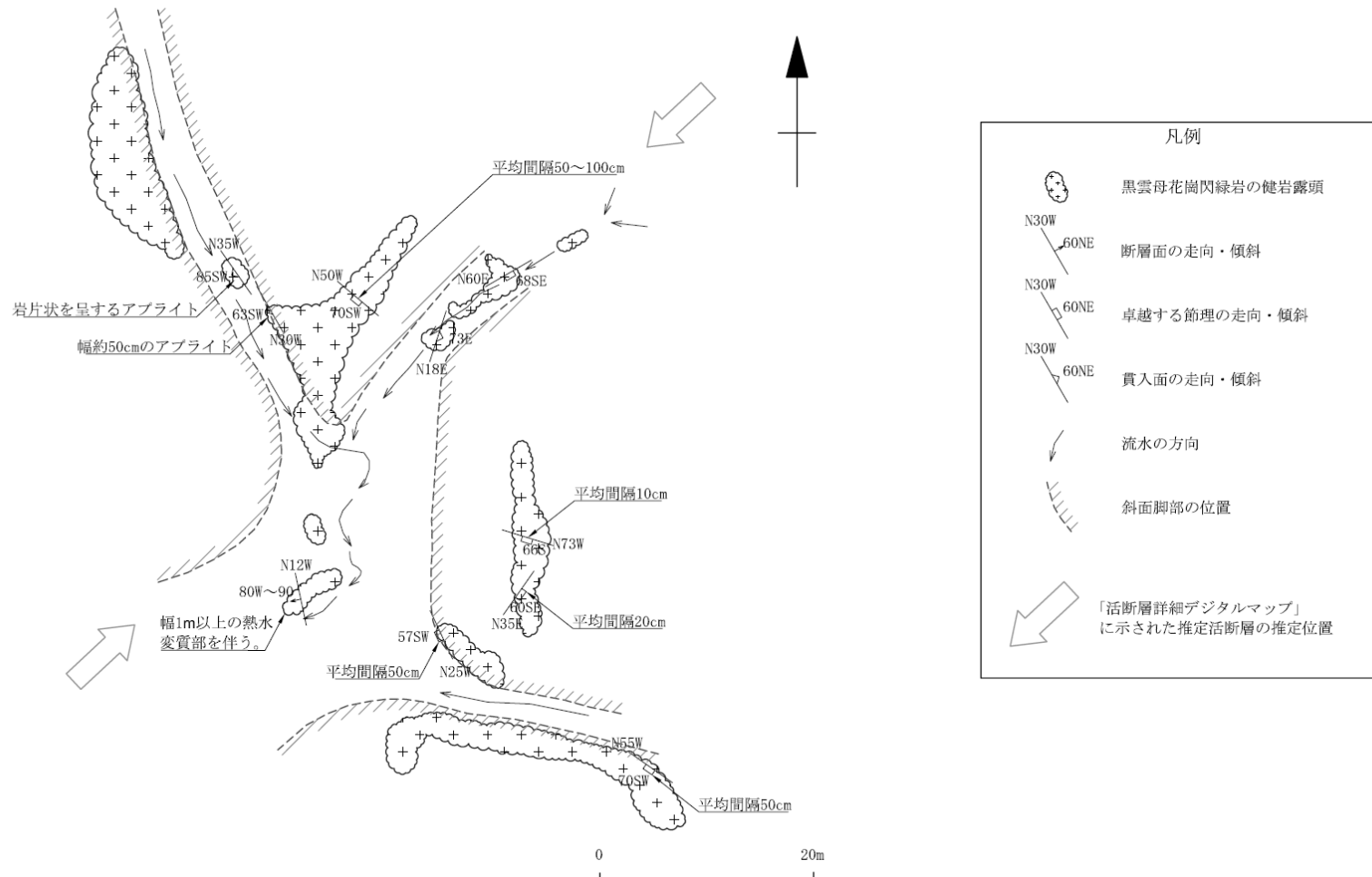


この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
 (承認番号 平26情複、第540号)
 本図面を第三者がさらに複製する場合は国土地理院長の承認を得なければならない。

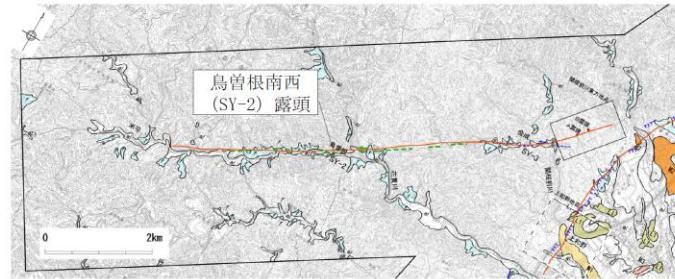
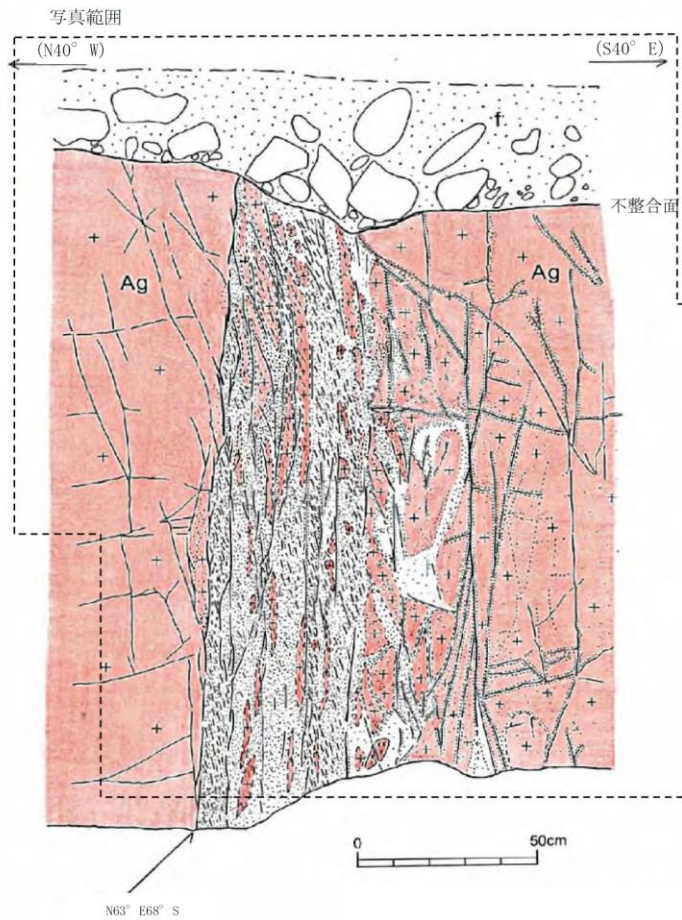
第 3. 2. 86 図 関根前川東方付近のルートマップ



第3.2.87図 露頭スケッチ (関根前川北東約400mのA露頭)

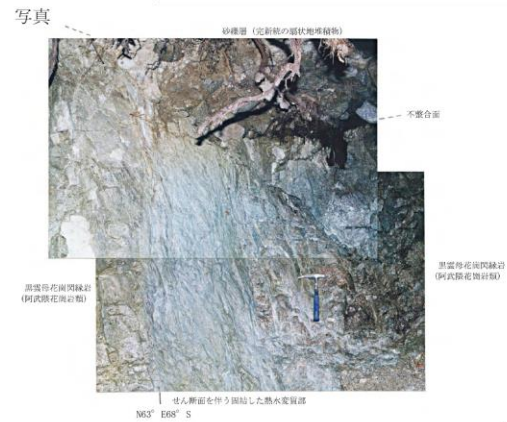


第 3. 2. 88 図 関根前川北東約 700mB 露頭付近のルートマップ



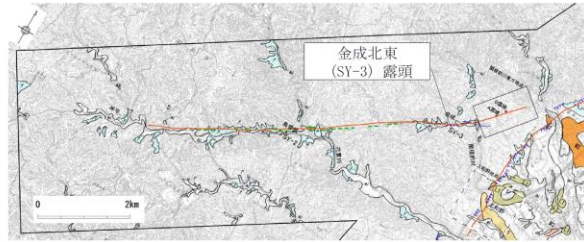
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）及び数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平26情復、第337号）及び（承認番号 平26情復、第540号）
本図面を第三者がさらに複製する場合は国土地理院の長の承認を得なければならない。

- 凡例
- 砂礫層（完新統の扇状地堆積物）
 - せん断面を伴う固結した熱水変質部
 - レンズ状部（黒雲母花崗閃緑岩）
 - 黒雲母花崗閃緑岩（阿武隈花崗岩類）
 - 熱水変質部を伴う節理
- N63° E68° S せん断面の走向・傾斜



- ・黒雲母花崗閃緑岩中に破碎部が認められる。
- ・最も顕著な破碎部は黒雲母花崗閃緑岩のレンズ状部からなるが、レンズ状部及びその周辺は熱水変質部に移り変わっており、熱水変質部は固結している。
- ・固結した熱水変質部には、鉛直方向の条線を伴う複数のせん断面が認められるが、連続するせん断面は認められない。
- ・固結した熱水変質部と黒雲母花崗閃緑岩の境界部にも、連続したせん断面は認められず、一部に漸移的な境界が認められる。
- ・破碎部の上位に完新統の扇状地堆積物があり、堆積物には変位は認められない。

第 3. 2. 89 図 露頭スケッチ（高萩市鳥曾根南西：Loc. SY-2）



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）及び数値地図25000（地図画像）を複製したものである。
 （承認番号 平26情復、第337号）及び（承認番号 平26情復、第540号）
 本図面を第三者がさらに複製する場合は国土地理院の長の承認を得なければならない。

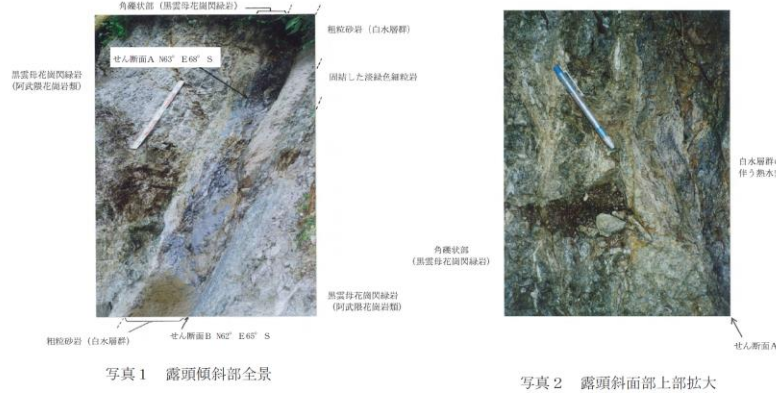
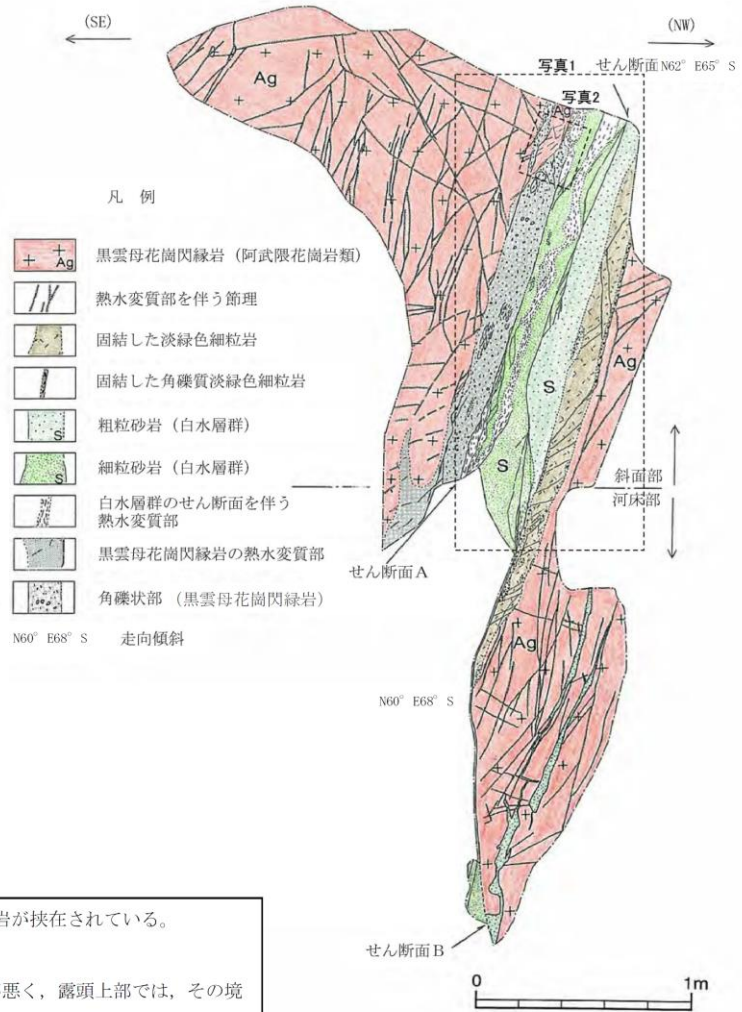


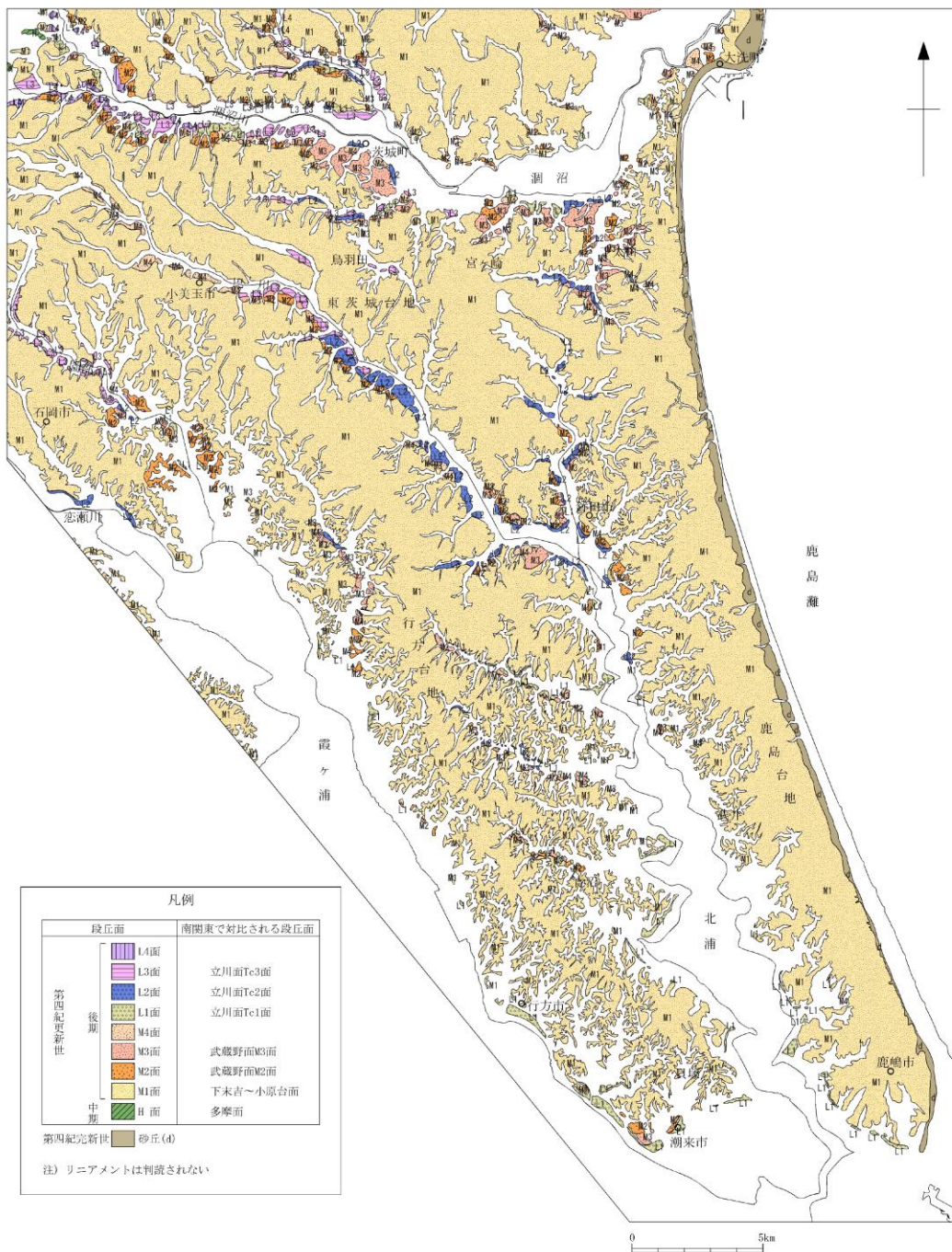
写真1 露頭傾斜部全景

写真2 露頭斜面部上部拡大

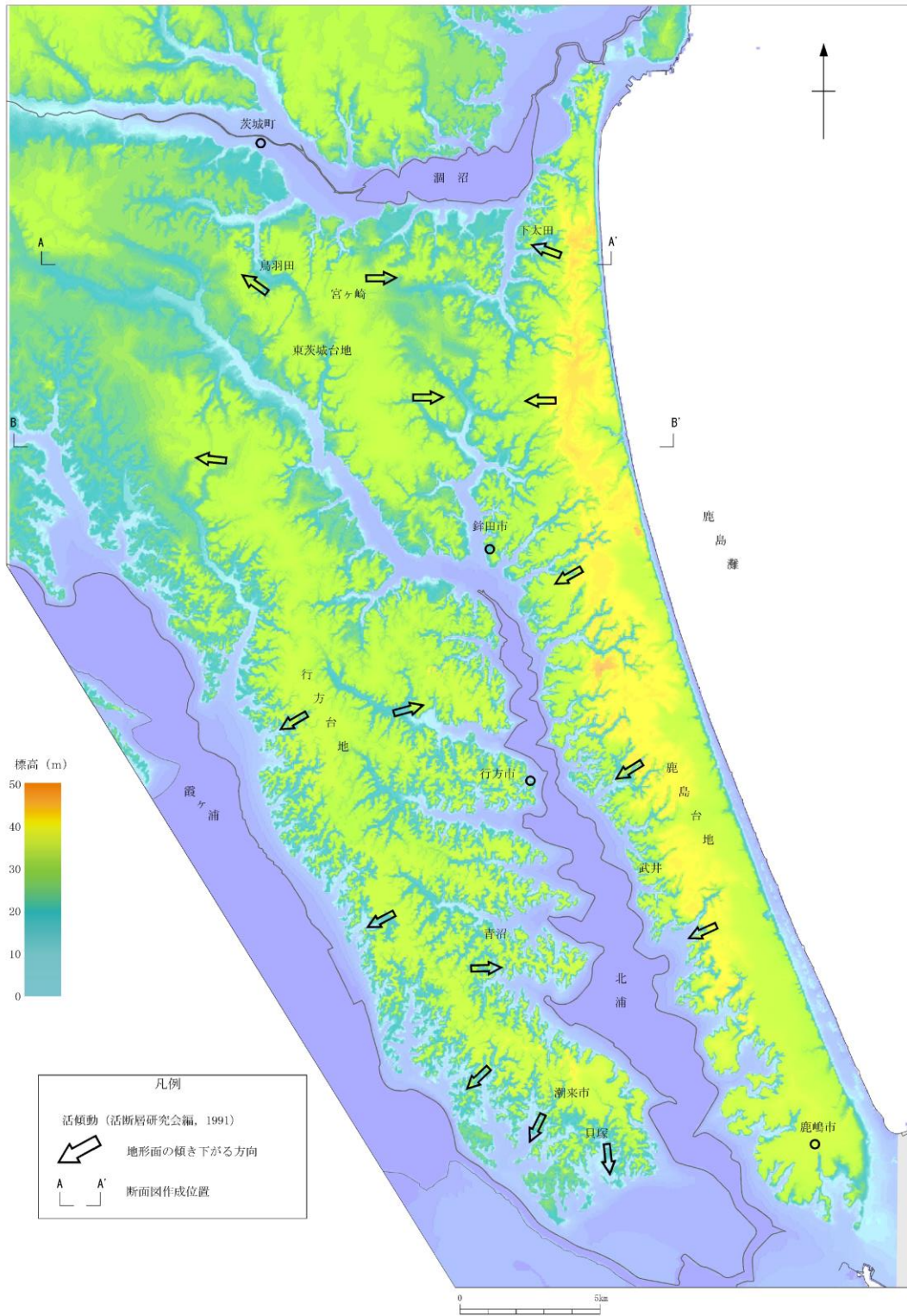
- 熱水変質を受けた黒雲母花崗閃緑岩中に、古第三系の白水層群と考えられる粗粒砂岩及び細粒砂岩が挟まれている。
- 粗粒砂岩及び細粒砂岩は急傾斜しており、この構造と調和的な熱水変質部が認められる。
- 熱水変質部と黒雲母花崗閃緑岩の角礫状部との境界部には、せん断面Aが認められるが、連続性が悪く、露頭上部では、その境界は漸移的である。
- 粗粒砂岩と細粒砂岩の境界にはせん断面Bが認められるが、連続性が悪く湾曲し、河床部ではその延長部は固結している。



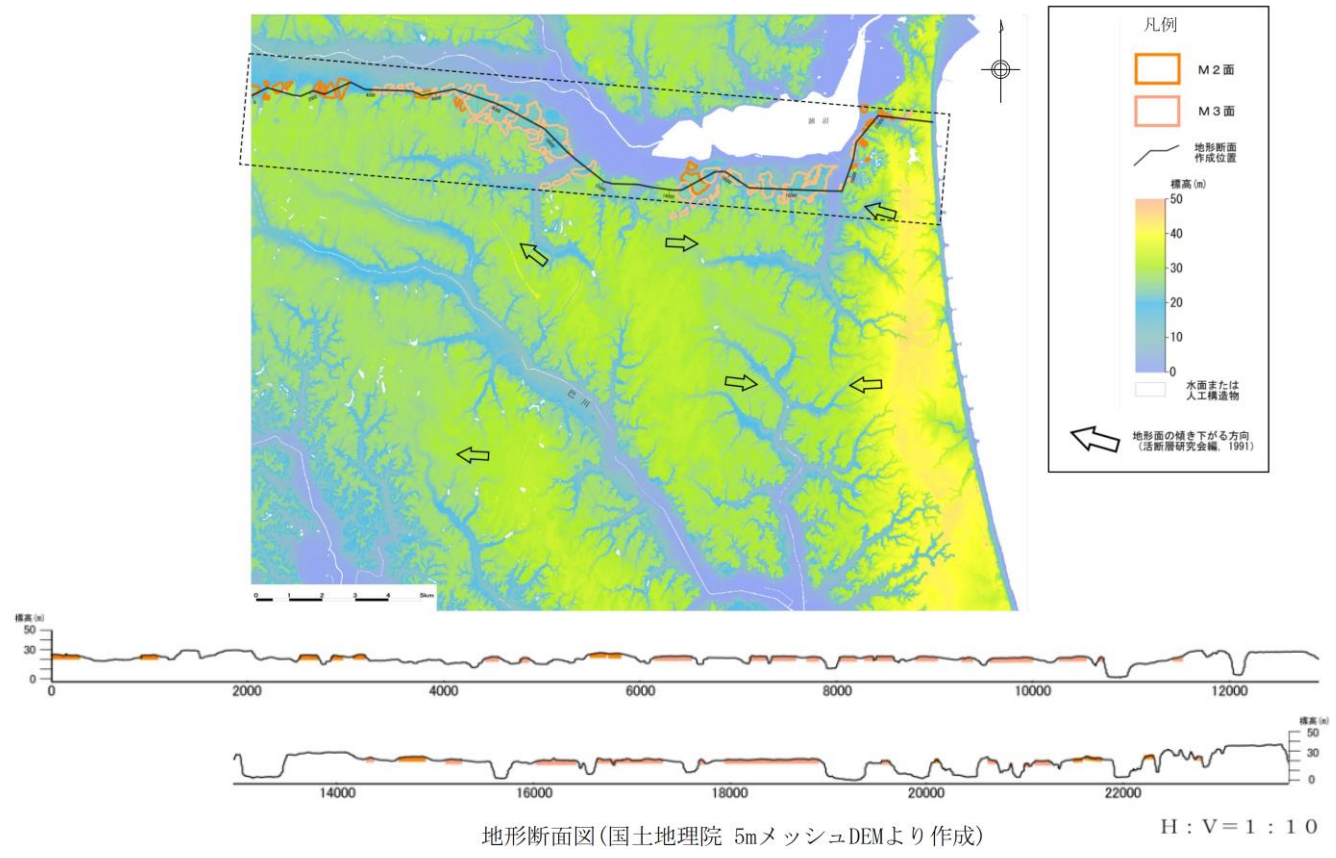
第 3. 2. 90 図 露頭スケッチ (高萩市金成北東 : Loc. SY-3)



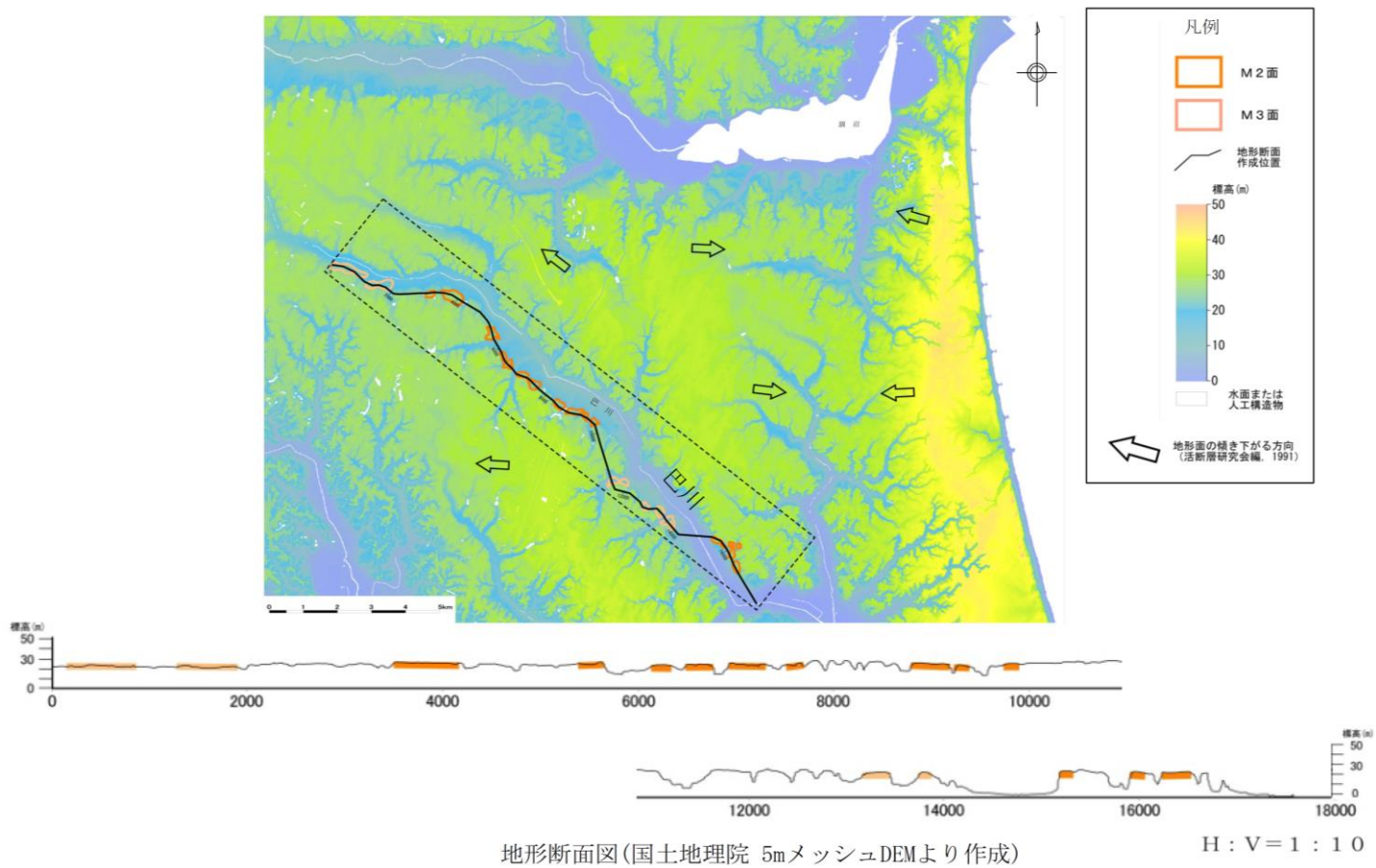
第 3.2.91 図 鹿島台地・行方台地周辺の活傾動周辺の変動地形的調査結果



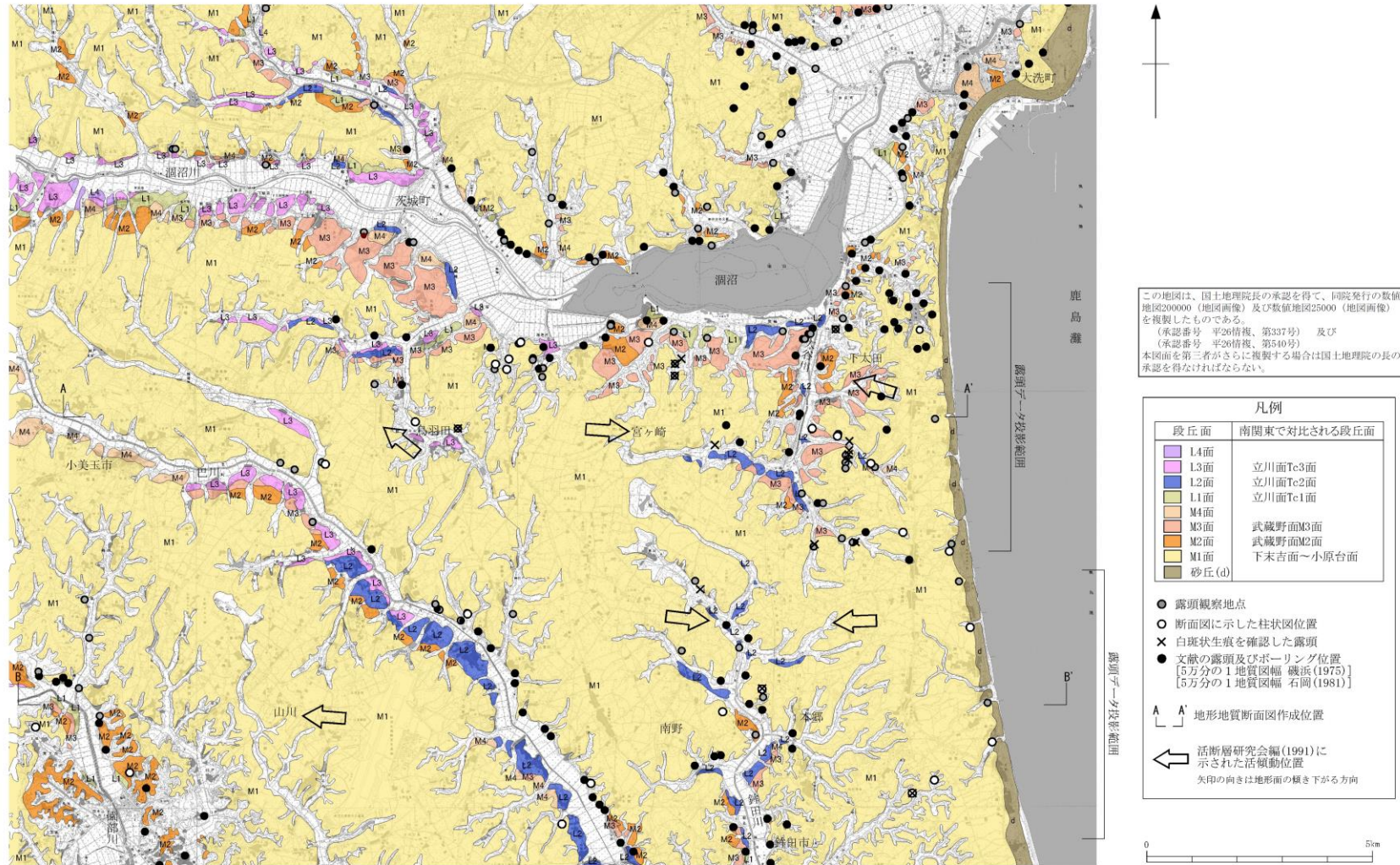
第 3. 2. 92 図 鹿島台地・行方台地周辺の活傾動周辺の地形面解析図



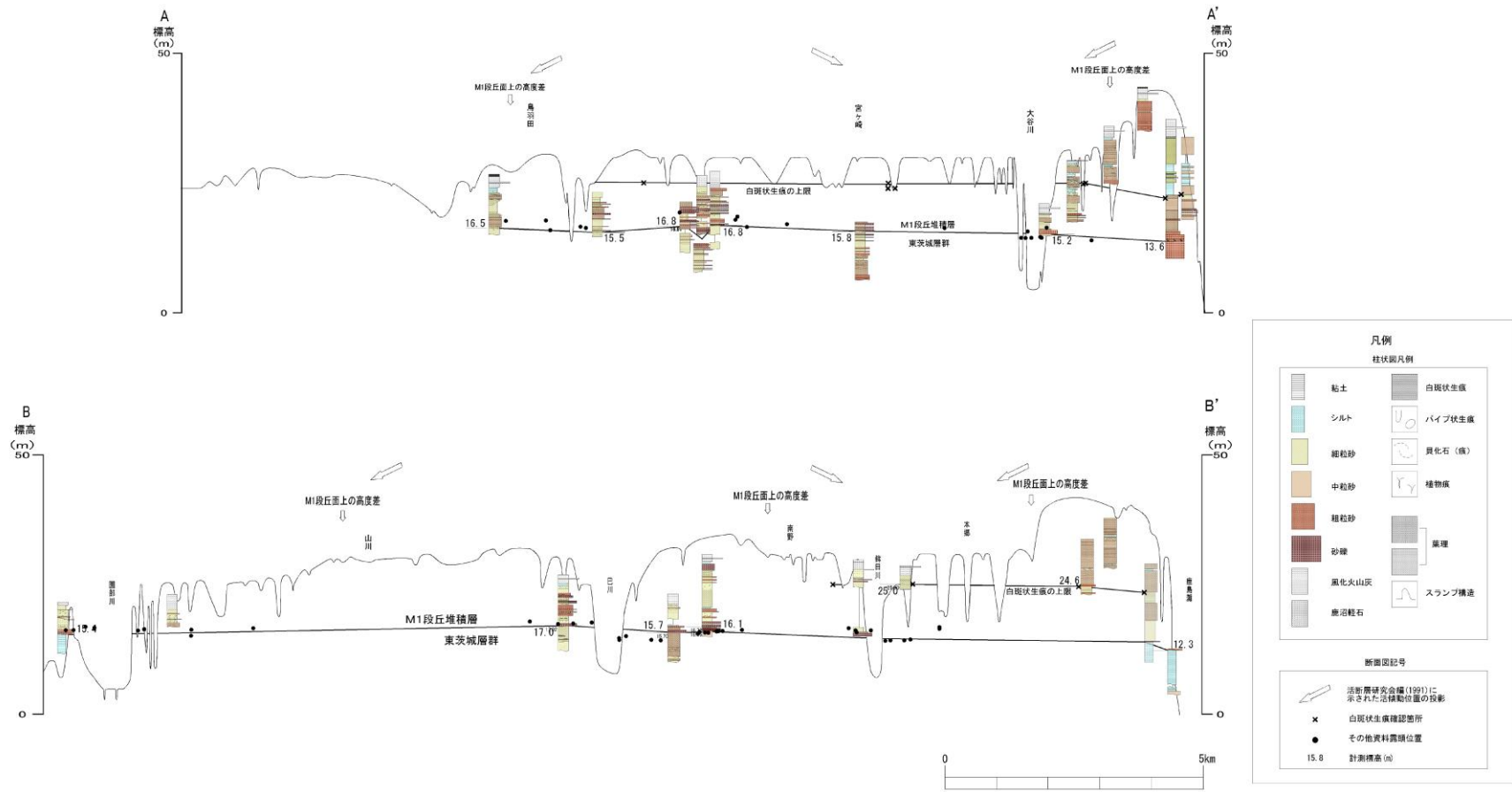
第 3. 2. 93 図(1) M2, M3 段丘面に関する調査結果 (1)



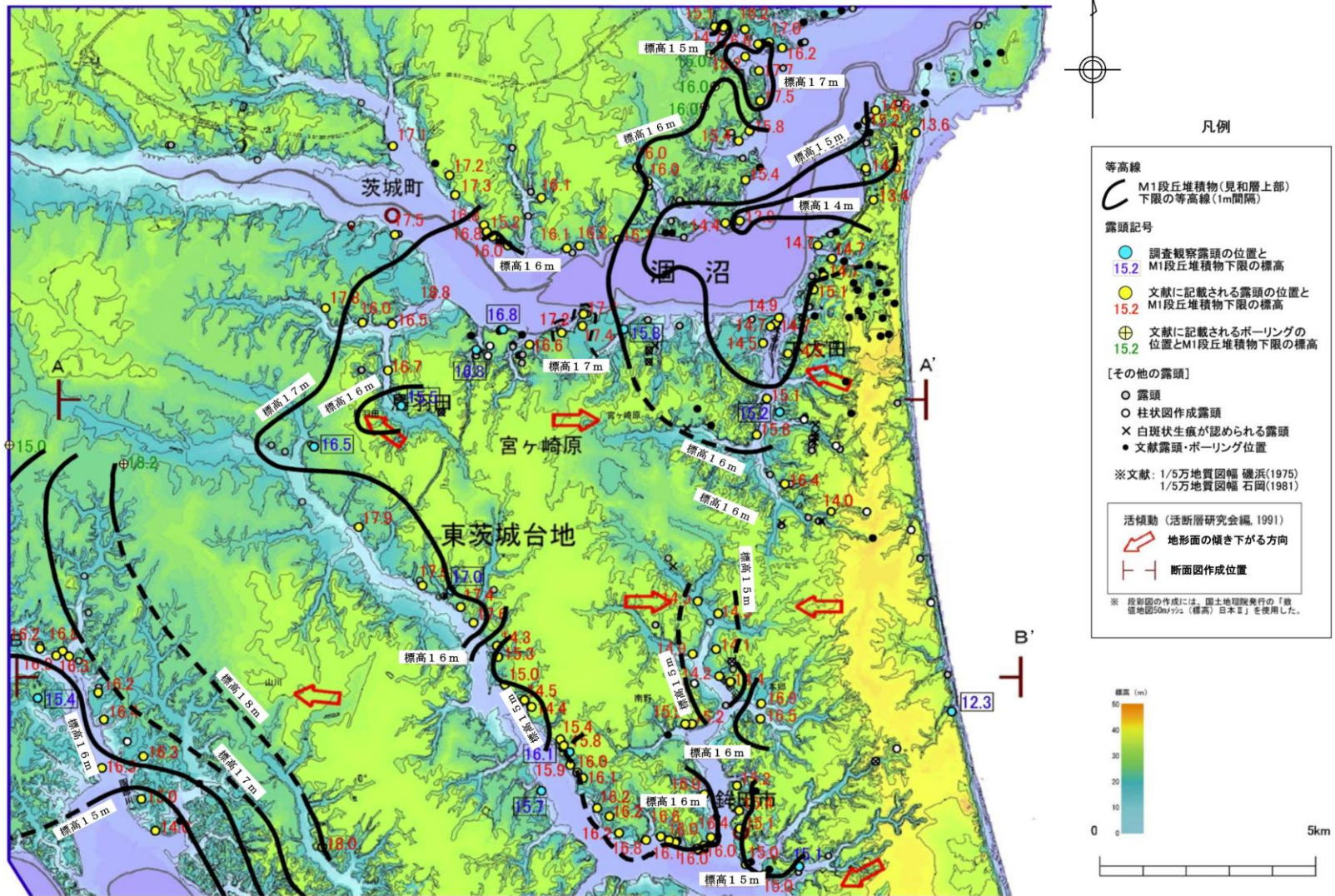
第 3. 2. 93 図(2) M2, M3 段丘面に関する調査結果 (2)



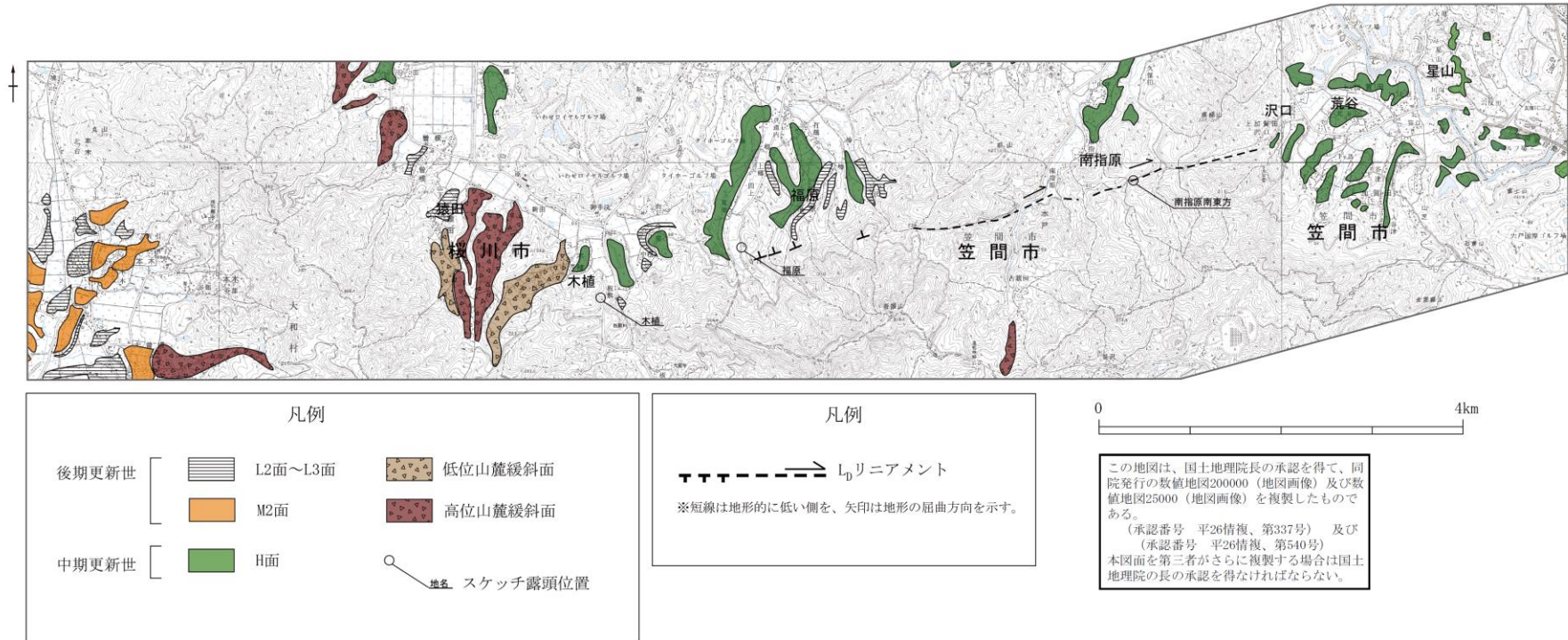
第 3. 2. 94 図 鹿島台地・行方台地周辺の活傾動周辺の地質調査位置図



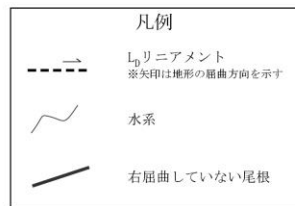
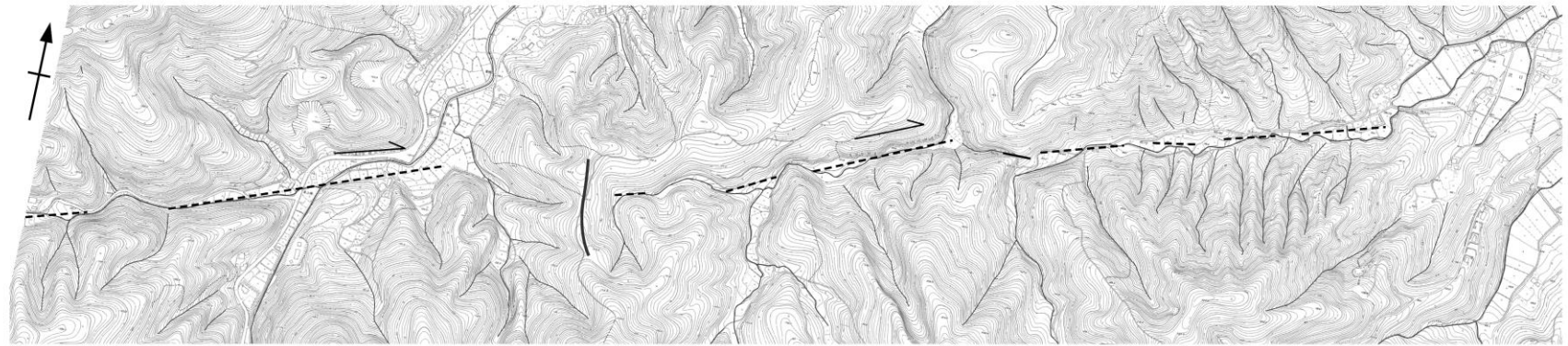
第 3. 2. 95 図 鹿島台地・行方台地周辺の活傾動周辺の地形及び地質断面図



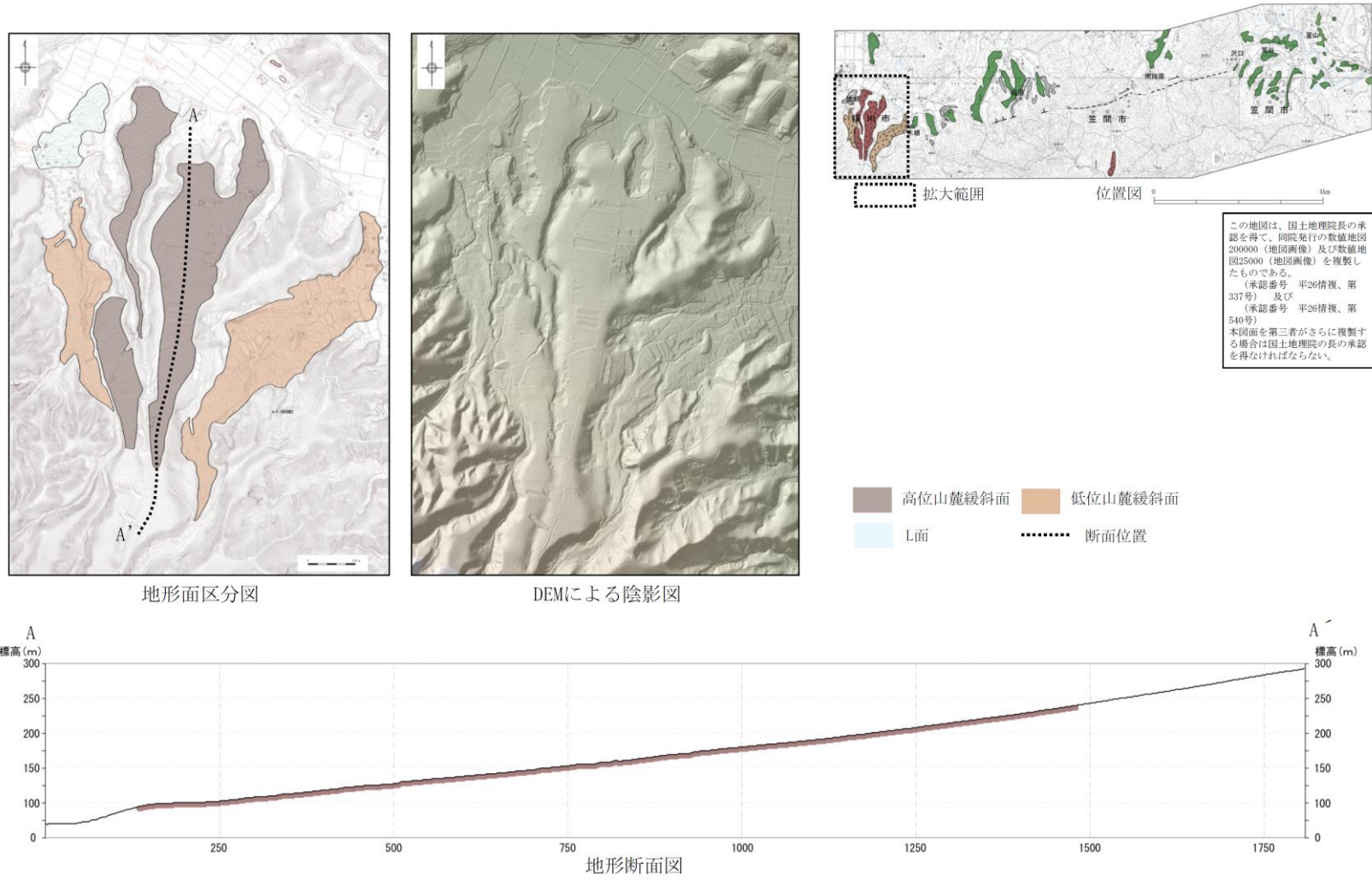
第 3. 2. 96 図 鹿島台地・行方台地周辺のM1段丘堆積物基底面に関する調査結果



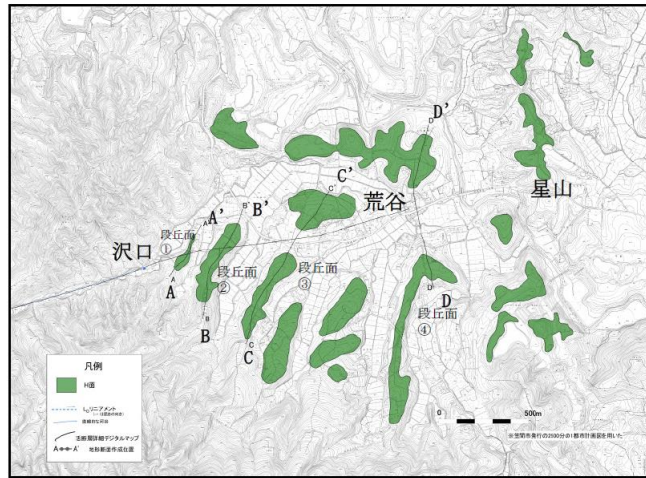
第 3. 2. 97 図 吾国山断層周辺の変動地形学的調査結果



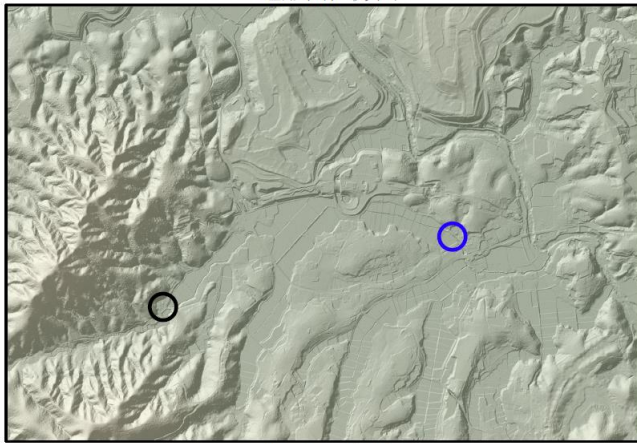
第 3. 2. 98 図 吾国山断層周辺の水系図



第 3. 2. 99 図 猿田付近の地形断面図

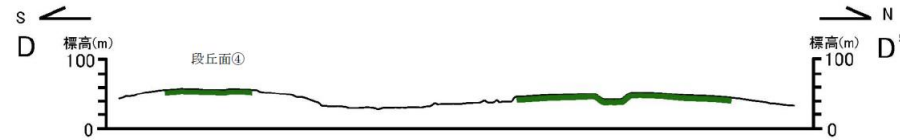
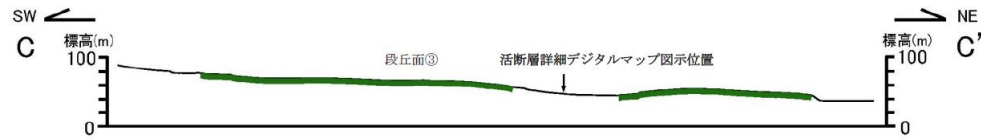
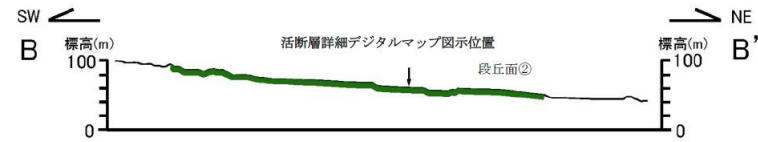
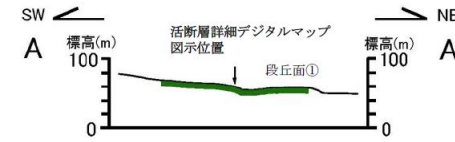


地形面区分図



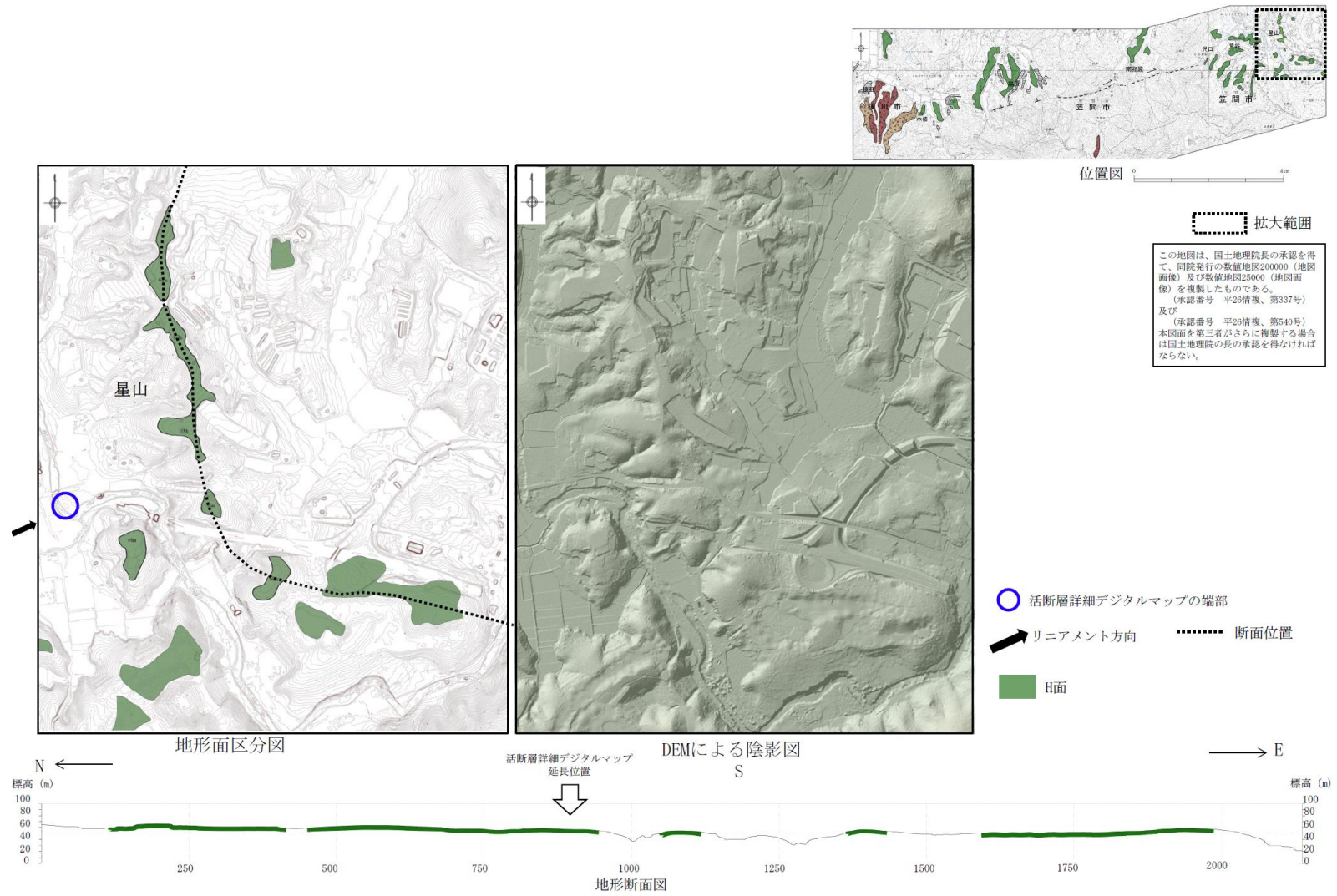
DEMによる陰影図

- 判読したリニアメントの端部
- 活断層詳細デジタルマップの端部

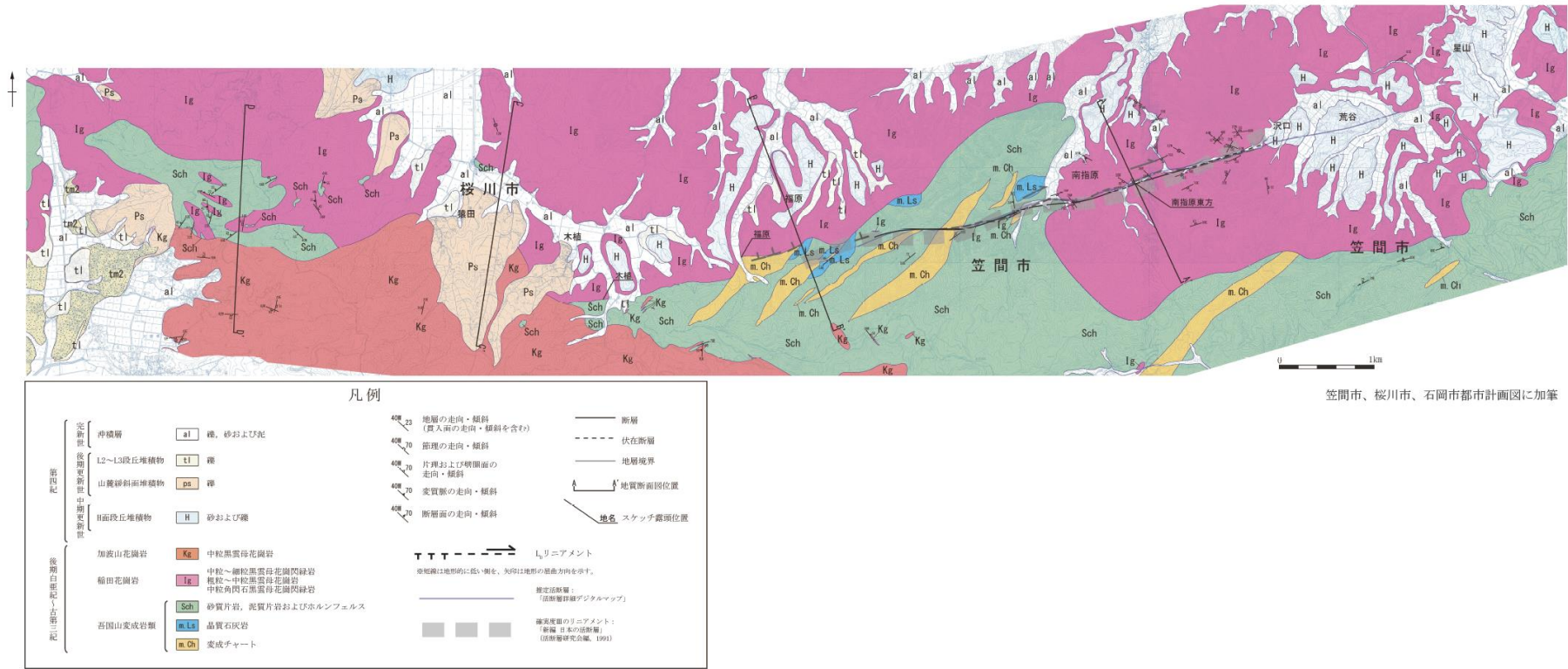


地形断面図

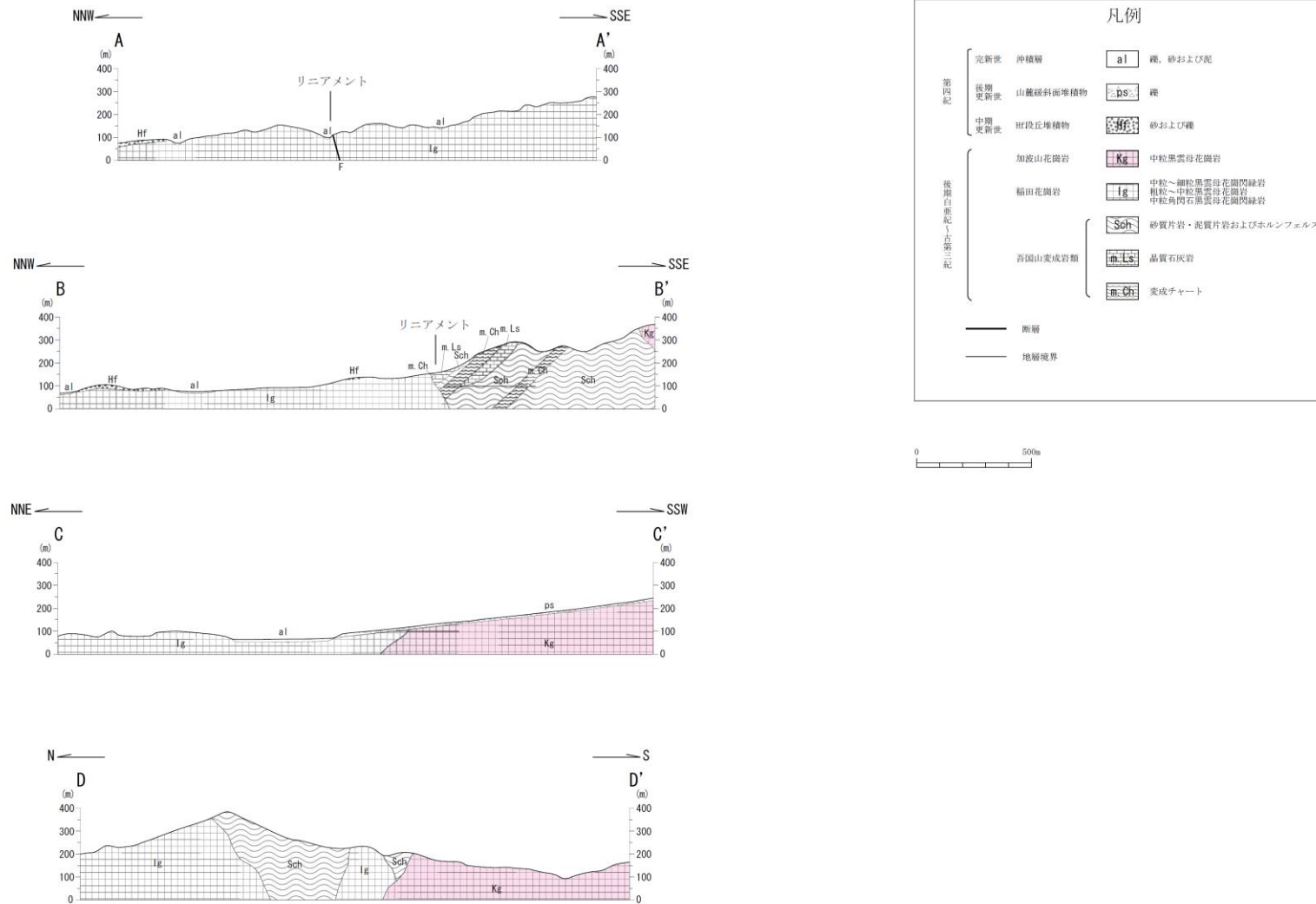
第 3. 2. 100 図(1) 変動地形学的調査結果 (沢口～星山)



第 3. 2. 100 図(2) 星山付近の地形断面図



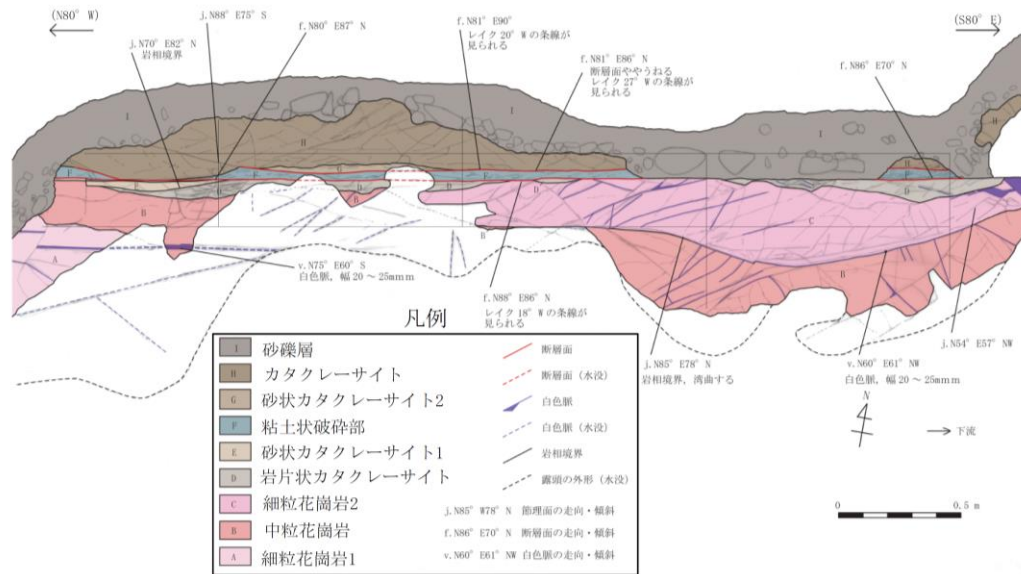
第 3. 2. 101 図 吾国山断層周辺の地質図



第 3. 2. 102 図 吾国山断層周辺の地質断面図



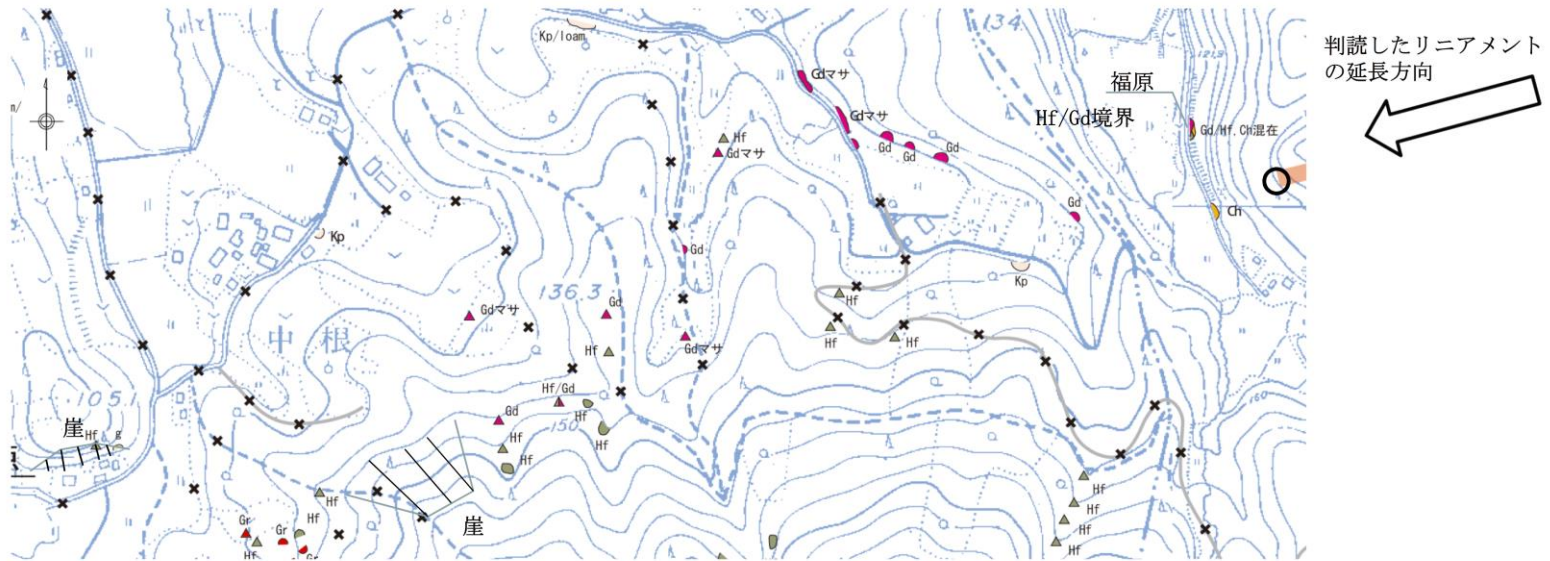
露頭全景写真



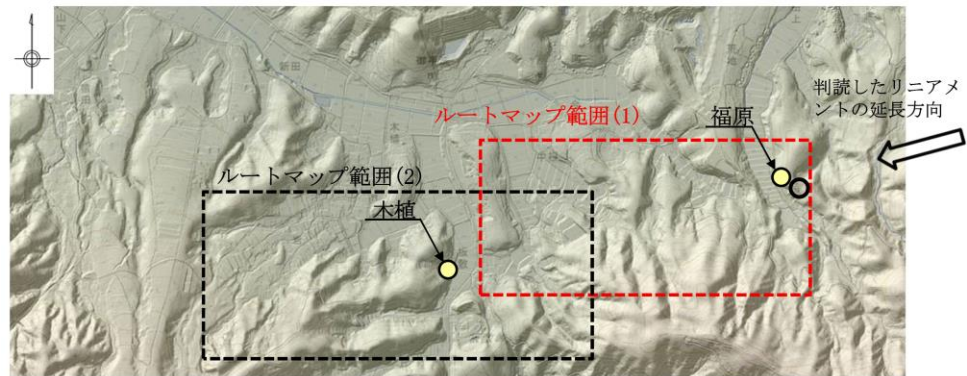
露頭スケッチ

- リニアメントの走向と調和的な断層破碎部 (N80° E 87° N) が分布する。
- 断層破碎部には、岩片状カタクレーサイト～粘土状破碎部が分布する。
- 粘土状破碎部は幅5cm前後で層厚が変化する。また、粘土状破碎部に沿って分布する断層面は、概ね平面的であるが連続性に乏しく、これらを切る新期の断層面は認められない。
- 上載地層との関係は確認できない。

第 3. 2. 103 図 露頭スケッチ (南指原東方)



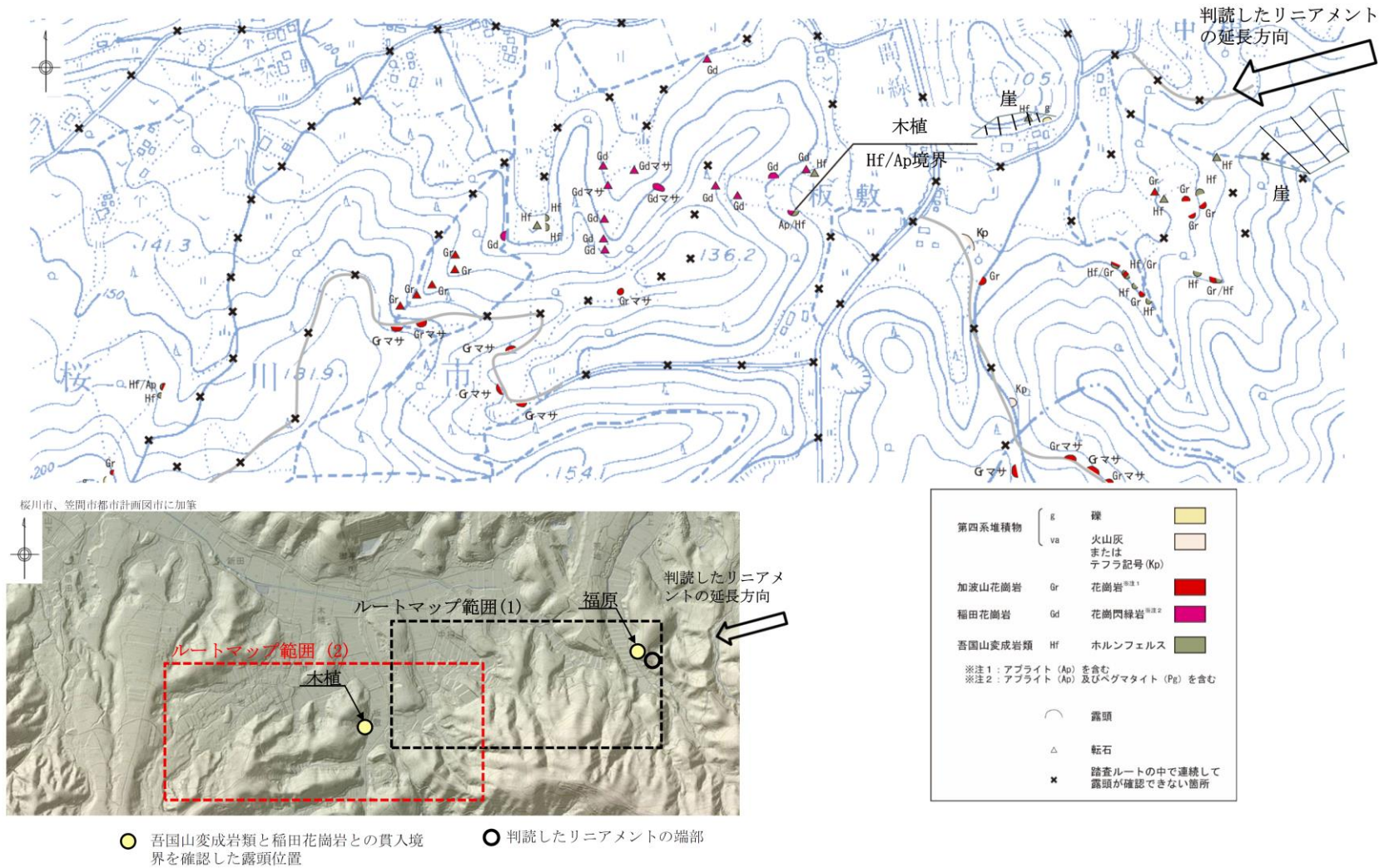
桜川市、笠間市都市計画図市に加筆



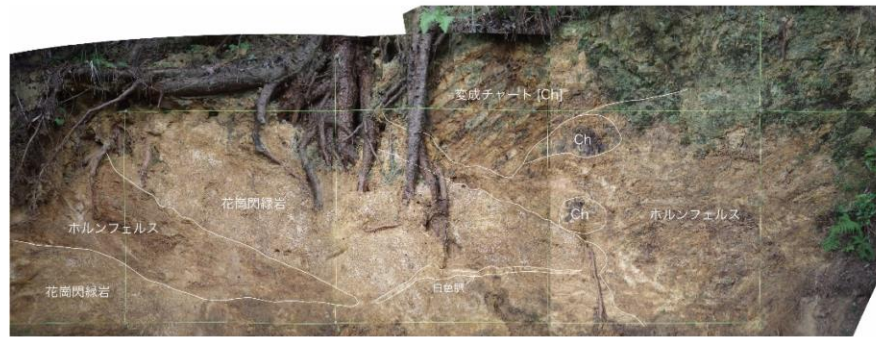
● 吾国山変成岩類と稲田花崗岩との貫入境界を確認した露頭位置
 ○ 判読したリニアメントの端部

第四系堆積物	ls	礫	
	loam	ローム	
	va	火山灰 または テフラ記号 (Kp)	
加波山花崗岩	Gr	花崗岩 ^{※1}	
稲田花崗岩	Gd	花崗閃緑岩 ^{※2}	
吾国山変成岩類	Hf	ホルンフェルス	
	Ch	変成チャート	
※注1：アフライト (Ap) を含む ※注2：アフライト (Ap) 及びペグマタイト (Pg) を含む			
		露頭	
		転石	
		踏査ルートの中で連続して露頭が確認できない箇所	

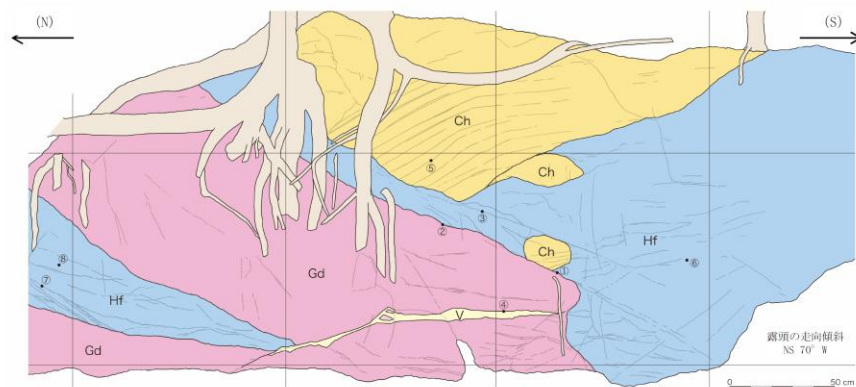
第 3. 2. 104 図(1) 猿田～福原付近のルートマップ (1)



第 3. 2. 104 図(2) 猿田～福原付近のルートマップ (2)



露頭全景写真



- | | | | |
|------------------|-------------|-------------------|----------------------|
| ① 1:N52° E44° SE | 貫入面, 密着, 固結 | ⑤ 4:N32° W41° NE | 変成チャートの層理面 |
| ② 1:N58° E40° SE | 貫入面, 密着, 固結 | ⑥ 0:N2° E54° E | ホルンフェルス (泥質岩起源) の面構造 |
| ③ 3:N43° E22° SE | 割れ目 | ⑦ 4:N64° E56° SE | 花崗岩質脈 |
| ④ 4:V:NS 66° E | 白色脈 | ⑧ 16:N48° W25° SW | ホルンフェルス (泥質岩起源) の面構造 |

- | | |
|----|---------|
| Ch | 変成チャート |
| Hf | ホルンフェルス |
| V | 白色脈 |
| Gd | 花崗閃緑岩 |

- ホルンフェルス (泥質岩起源) 及び変成チャートに、稲田花崗岩の花崗閃緑岩が貫入している。
- ホルンフェルスがブロック状に花崗閃緑岩に取り込まれている。
- 貫入面の方向は概ねNE-SW走向で、中角で南東に傾斜している。
- 貫入面は密着・固結し、凹凸に富む。
- 露頭は風化が著しい。

露頭スケッチ

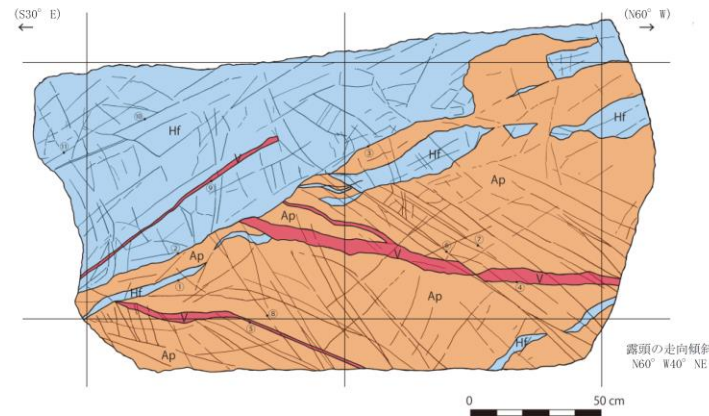
第3.2.105 図 露頭スケッチ (福原)



露頭全景写真



笠間市、桜川市、石岡市都市計画図に加筆



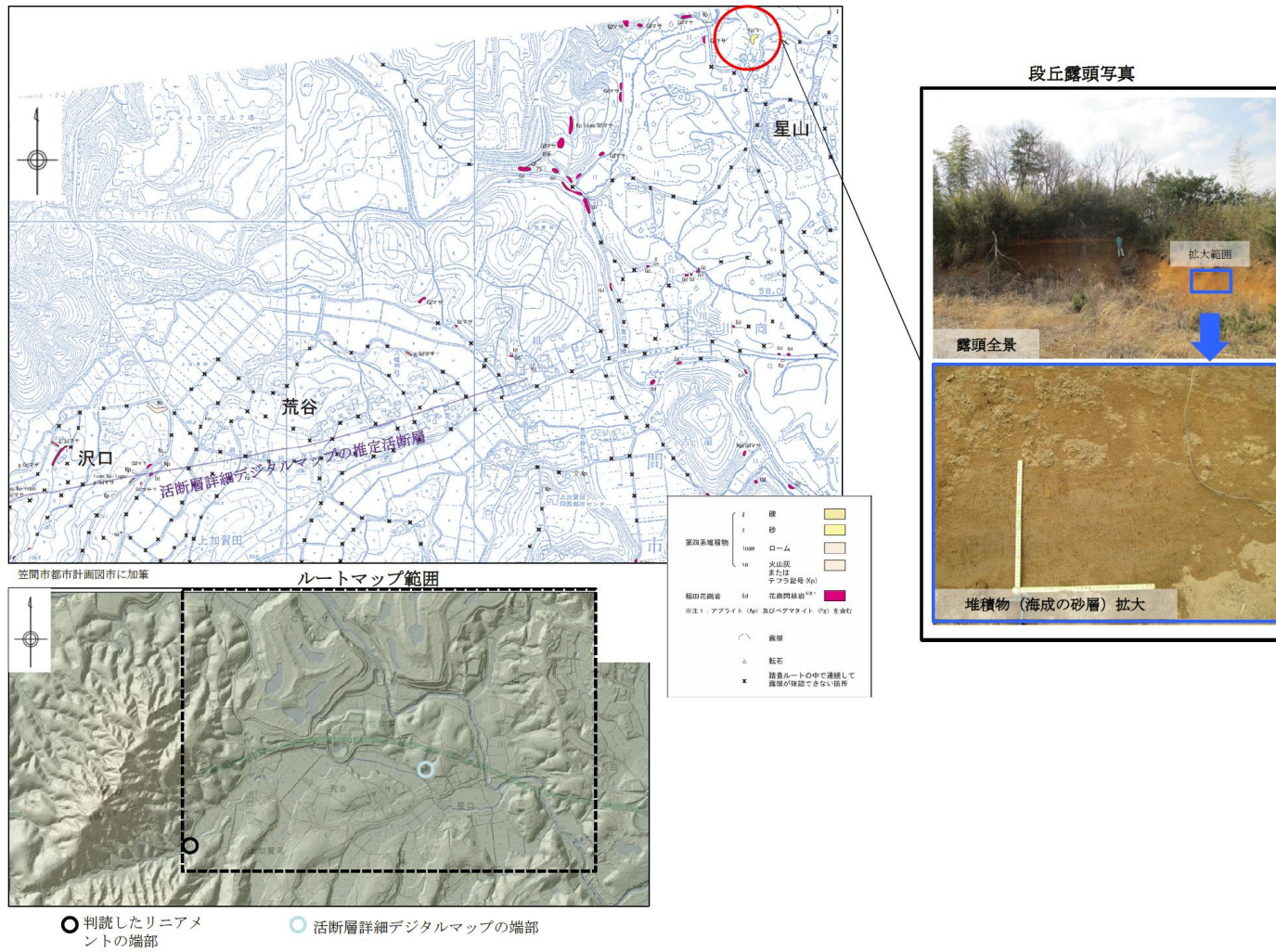
露頭の走向傾斜
N60° W40° NE

① i:N86° E66° S	貫入面, 密着, 固結	⑥ mf:N14° E82° W	小断層, 脈をみかけ12cm以下	■	ホルンフェルス
② i:N80° E50° S	貫入面, 密着, 固結	⑦ j:N18° E86° W	割れ目	■	花崗岩質岩脈
③ i:N82° E62° S	貫入面, 密着, 固結	⑧ j:N6° W 60° E	割れ目	■	アプライト (細粒花崗岩)
④ v:N48° W20° SW	石英脈 (ペグマタイト質)	⑨ j:N80° E54° S	花崗岩質岩脈		
⑤ v:N22° W62° S	花崗岩質岩脈	⑩ v:N80° W50° S	白色脈, 軟質, 片理面とはほぼ平行		
		⑪ To:N88° E76° S	片理面		

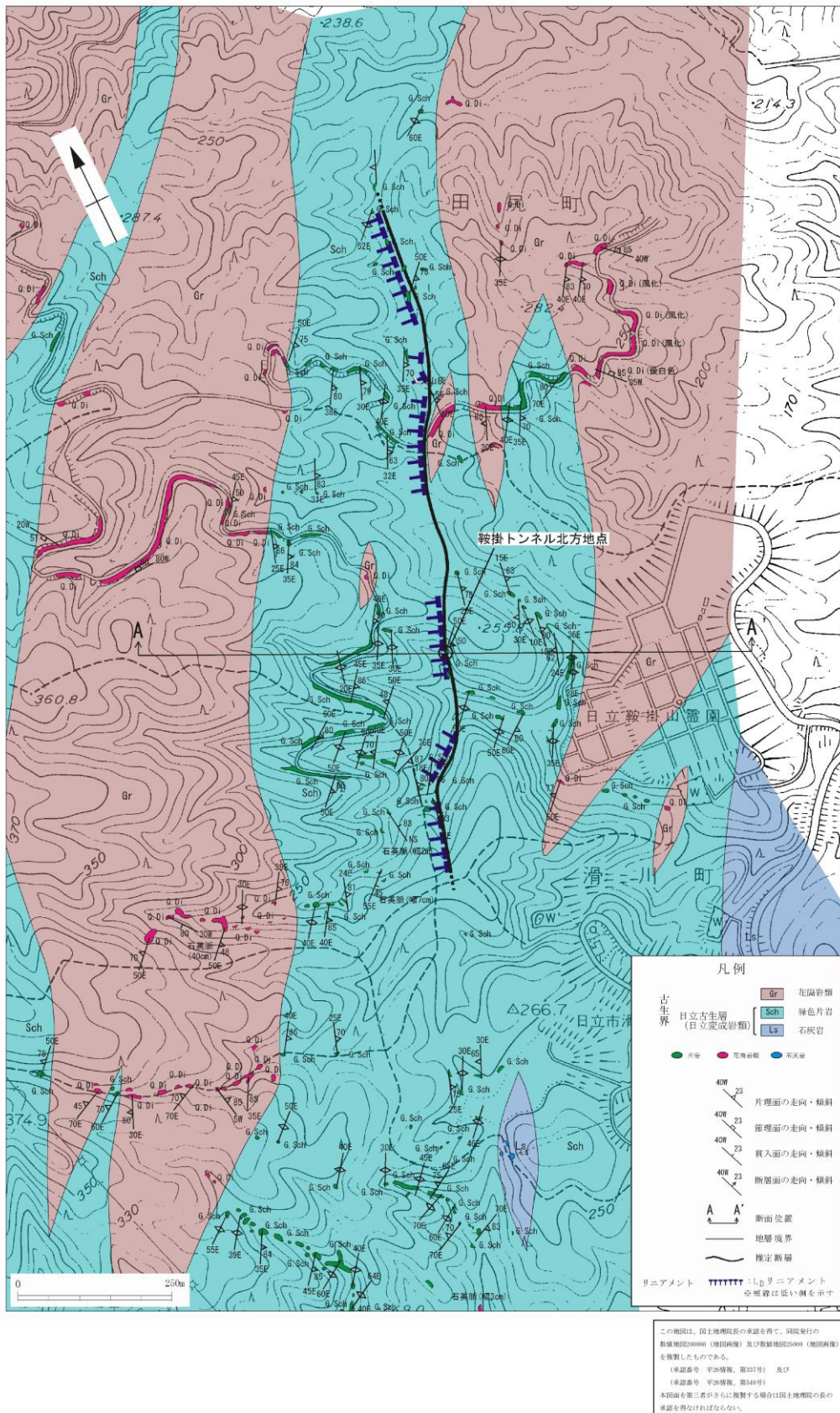
- ホルンフェルス (泥質岩起源) とアプライト (細粒花崗岩) との貫入境界が認められる。
- アプライト中にホルンフェルスがブロック状に取り込まれている。
- 貫入境界の方向は概ねN80° E50° Sである。
- 貫入面は密着・固結し凹凸に富む。

露頭スケッチ

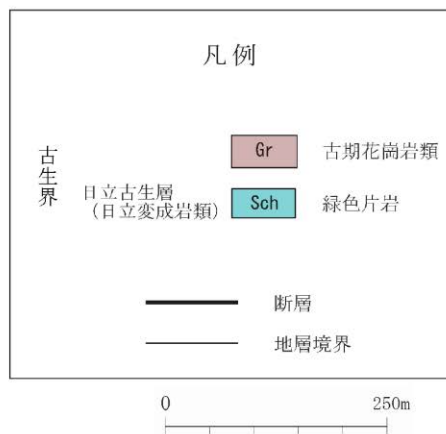
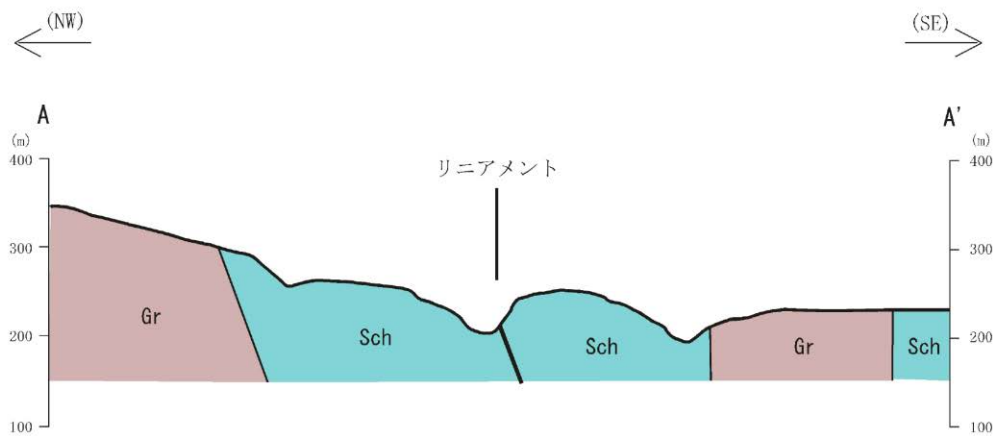
第 3.2.106 図 露頭スケッチ (木植)



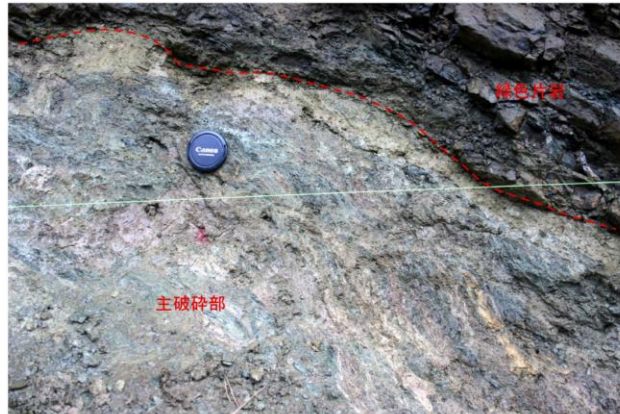
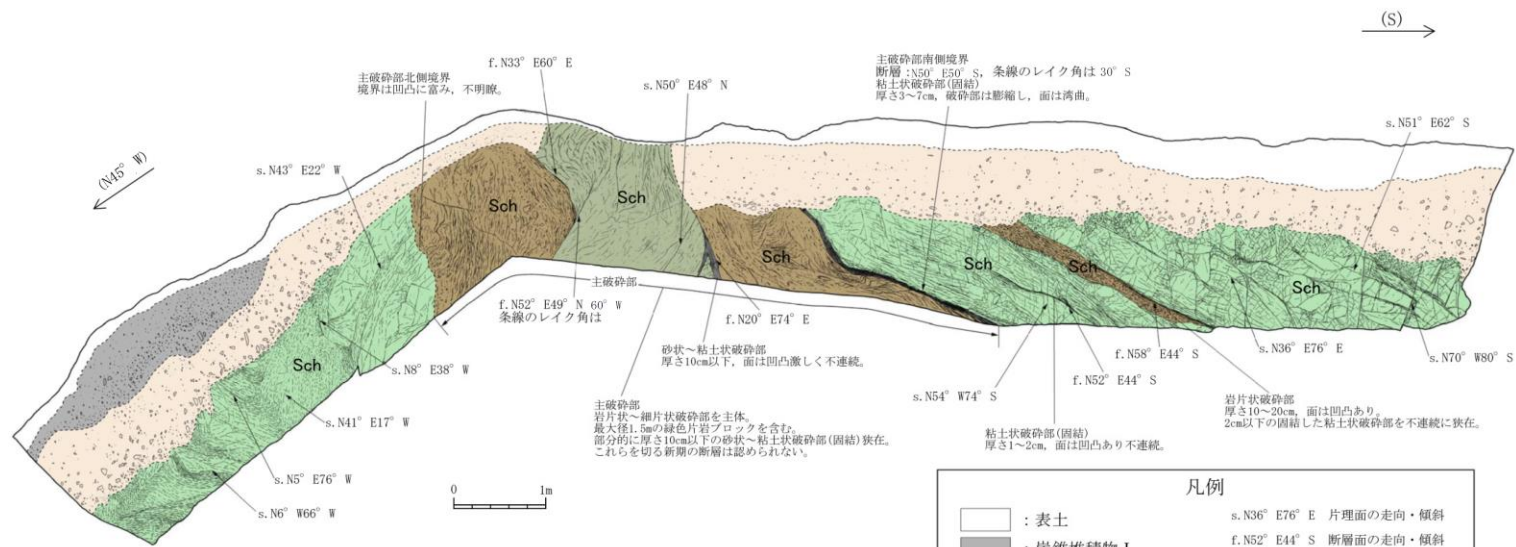
第 3. 2. 107 図 沢口～星山付近のルートマップ



第 3.2.108 図 日上市宮田町付近リニアメント周辺の地質図



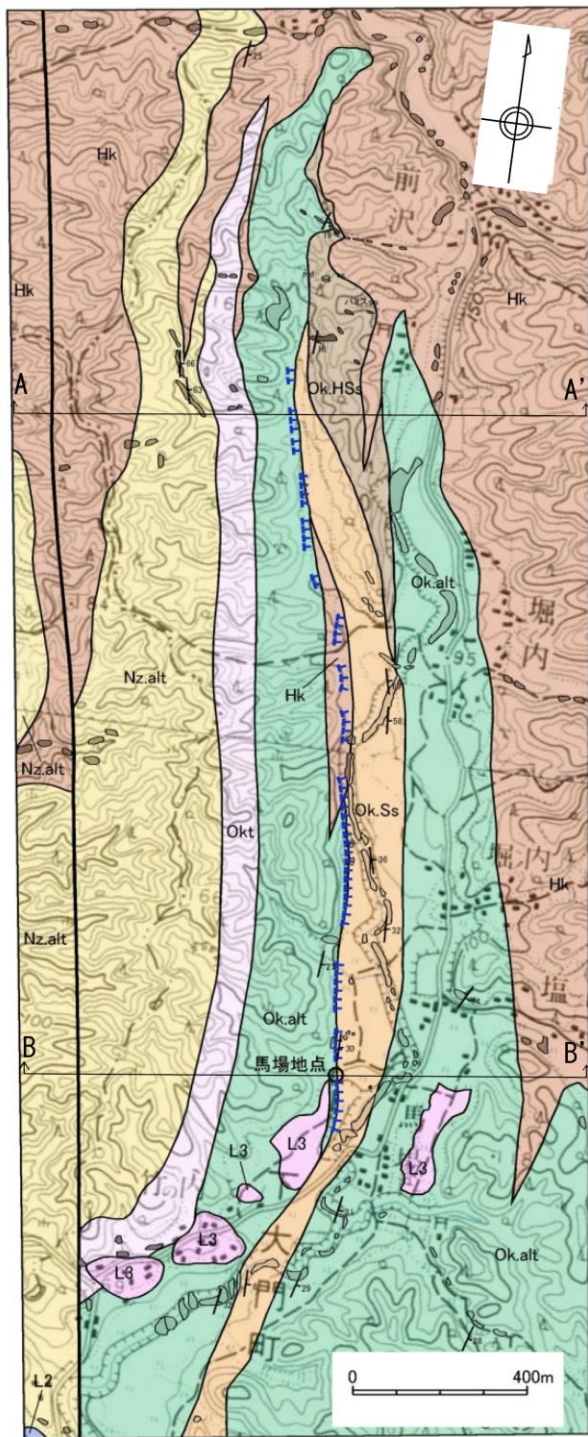
第 3. 2. 109 図 日立市宮田町付近リニアメント周辺の地質断面図



主破砕部南側境界付近の破砕部の状況

- リニアメントが通過する鞍部直下において断層が認められる。
- 断層面は平面的ではなく、破砕部は固結している。
- これらを切る新期の断層は認められない。

第 3. 2. 110 図 露頭スケッチ (鞍掛トンネル北方)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、四角実行の
 数値地図200000（地質図集）及び数値地図25000（地質図集）
 を複製したものである。
 （承認番号 平26地質、第337号） 及び
 （承認番号 平26地質、第340号）
 本図集を第三者がさらに複製する場合は国土地理院長の
 承認を得なければならない。

凡例

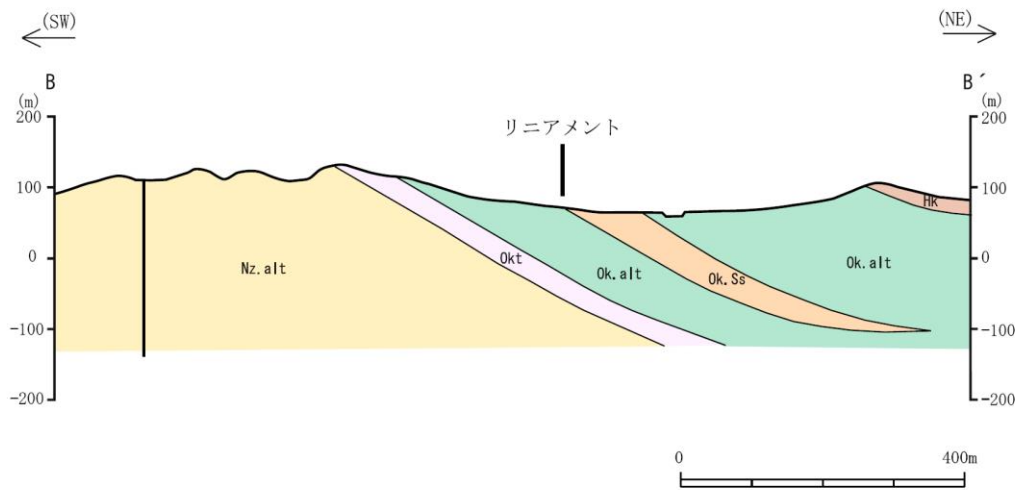
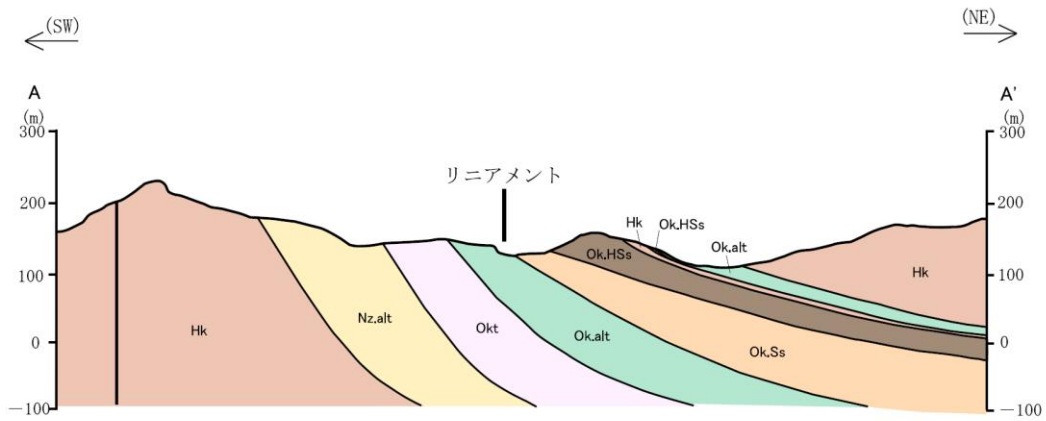
第四系更新統 新第三系中新統 新生界	L3	L3段丘堆積物	礫、砂	
	L2	L2段丘堆積物	礫、砂	
	Hk	東金砂山層	礫岩・砂岩	
	Ok.alt	大門層・互層	金砂郷層群 砂岩泥岩互層	
	Ok.Ss	大門層・砂岩		砂岩
	Ok.HSs	大門層・硬質砂岩		砂岩（硬質）
	Okt	大門層・凝灰岩		凝灰岩
	Nz.alt	西染層・互層	砂岩泥岩互層	

礫岩・砂岩 砂岩泥岩互層（大門層） 砂岩	砂岩（硬質） 砂岩泥岩互層（西染層）
----------------------------	-----------------------

—— 地層境界 —— 断層	層理面の走向・傾斜 断面位置
------------------	-------------------

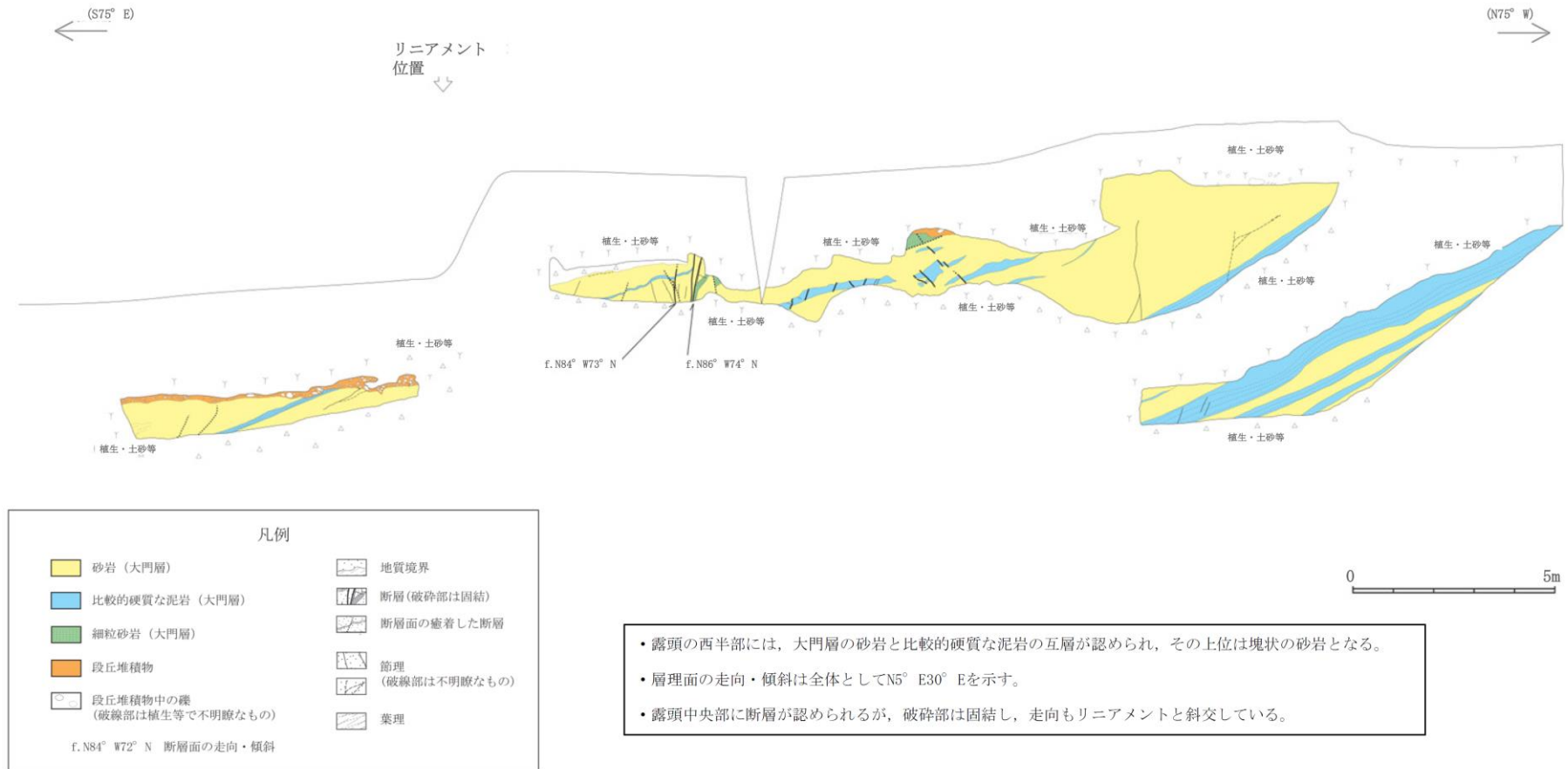
リニアメント
 TTTTTTTT : L₂リニアメント
 ※短線は低い側を示す

第 3.2.111 図 常陸太田市下大門町付近リニアメント周辺の地質図

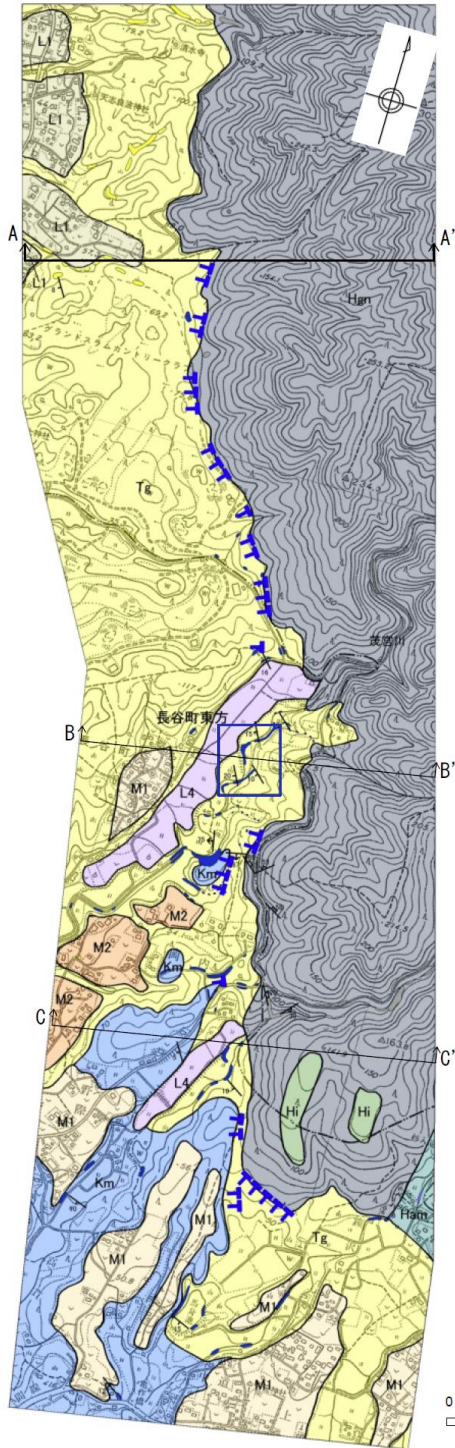


凡例			
新第三系中新統	Hk	東金砂山層	礫岩・砂岩
	Ok.alt	大門層・互層	砂岩泥岩互層
	Ok.Ss	大門層・砂岩	金砂岩
	Ok.HSs	大門層・硬質砂岩	砂岩（硬質）
	Okt	大門層・凝灰岩	凝灰岩
	Nz.alt	西染層・互層	砂岩泥岩互層
	—	地層境界	
	—	断層	

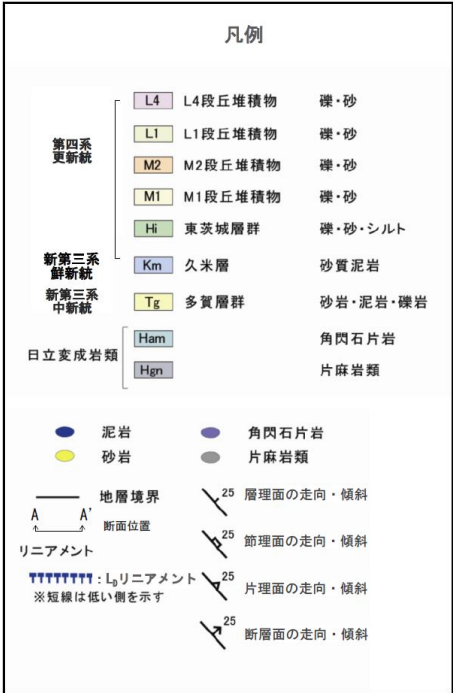
第 3. 2. 112 図 常陸太田市下大門町付近リニアメント周辺の地質断面図



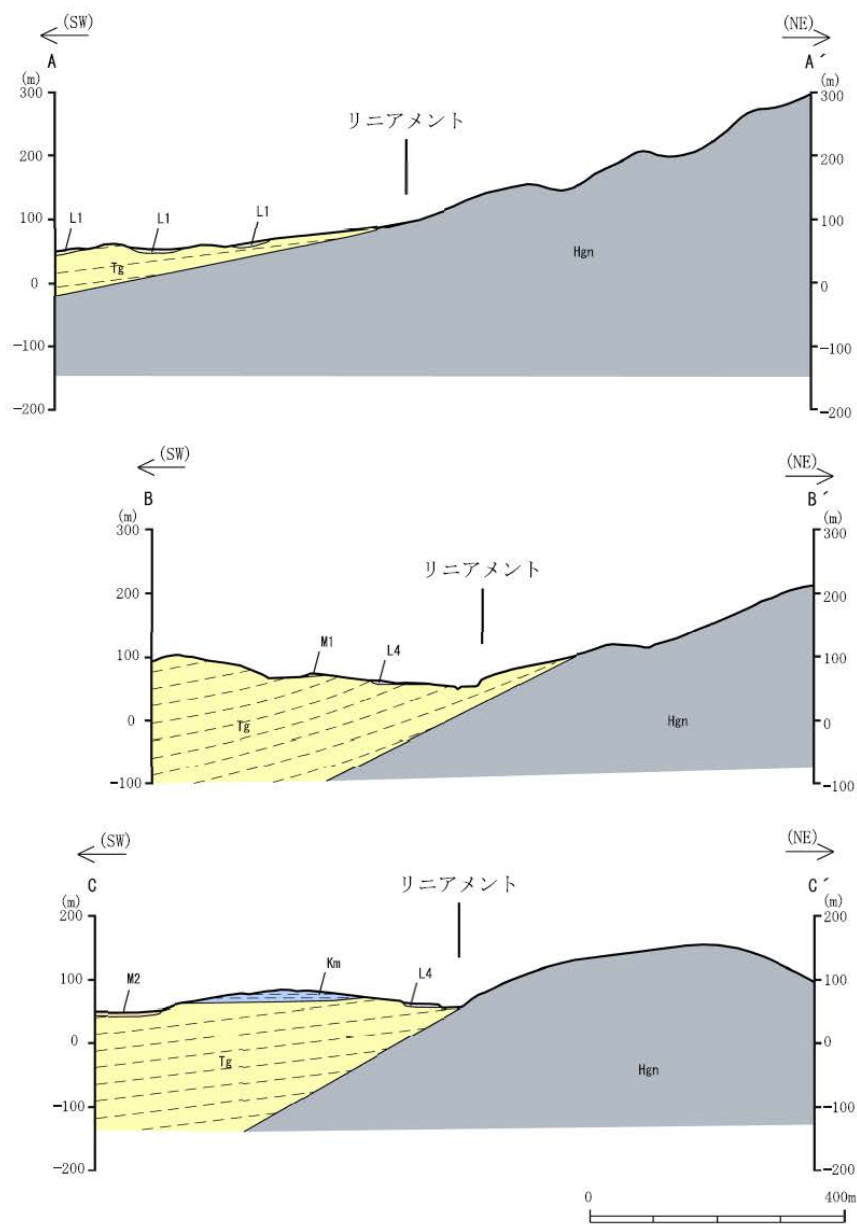
第 3. 2. 113 図 露頭スケッチ (常陸太田市馬場)



この地図は、国土院院長の承認を得て、国民旅行の
 重要地質図(20000:地形図集)及び重要地質図(2000:地形図集)
 を複製したものである。
 (国土地理院 地形図集 2000) 及び
 (国土地理院 地形図集 20000)
 本図は複製されたものから複製する場合は国土院院長の承認
 を得なければならぬ。

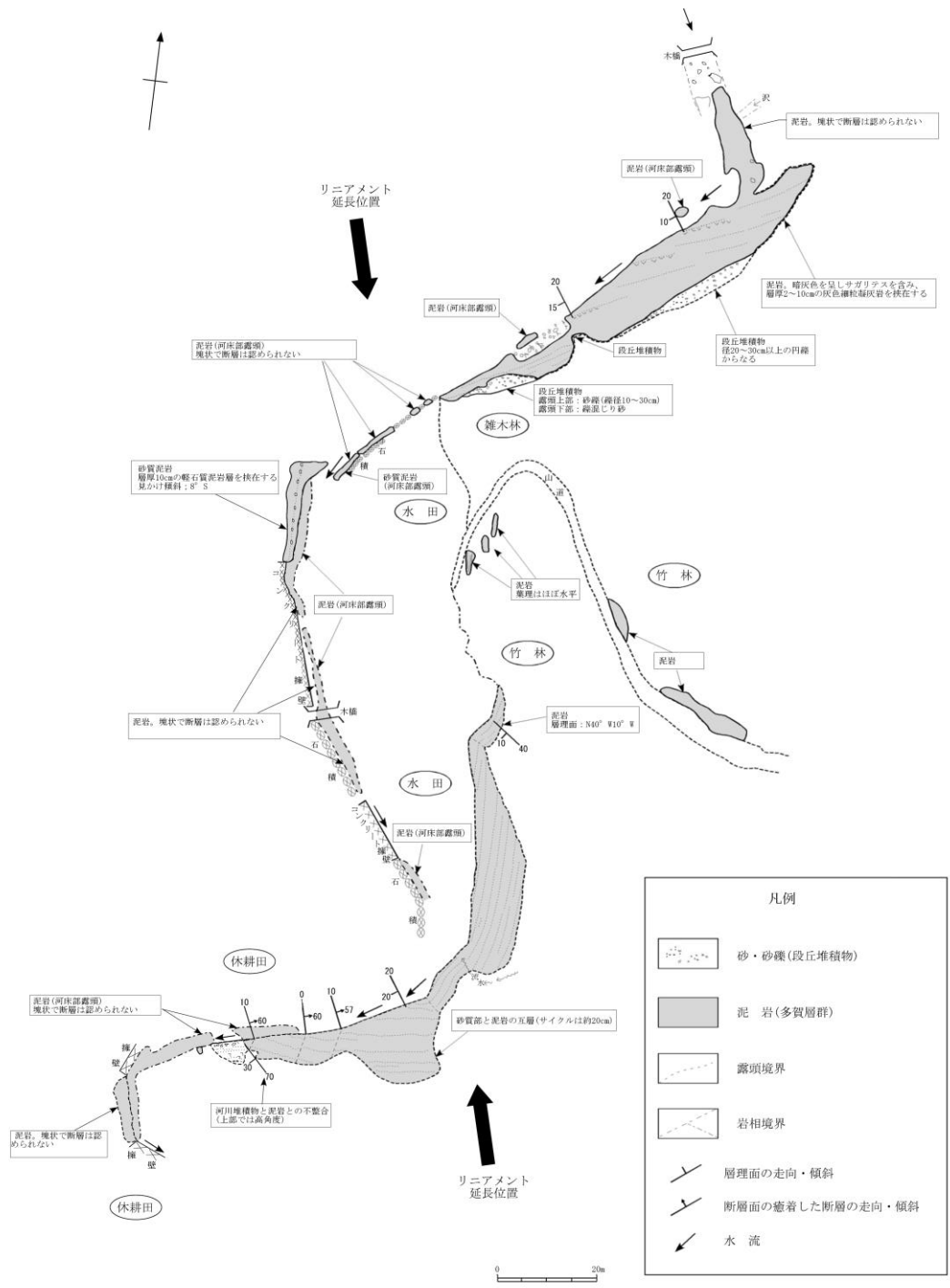


第 3. 2. 114 図 常陸太田市長谷町付近リニアメント周辺の地質図

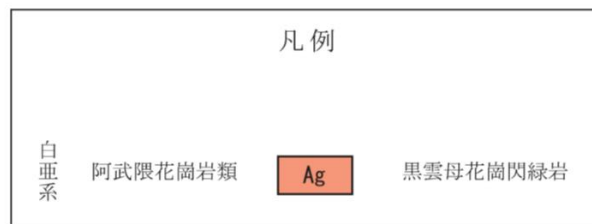
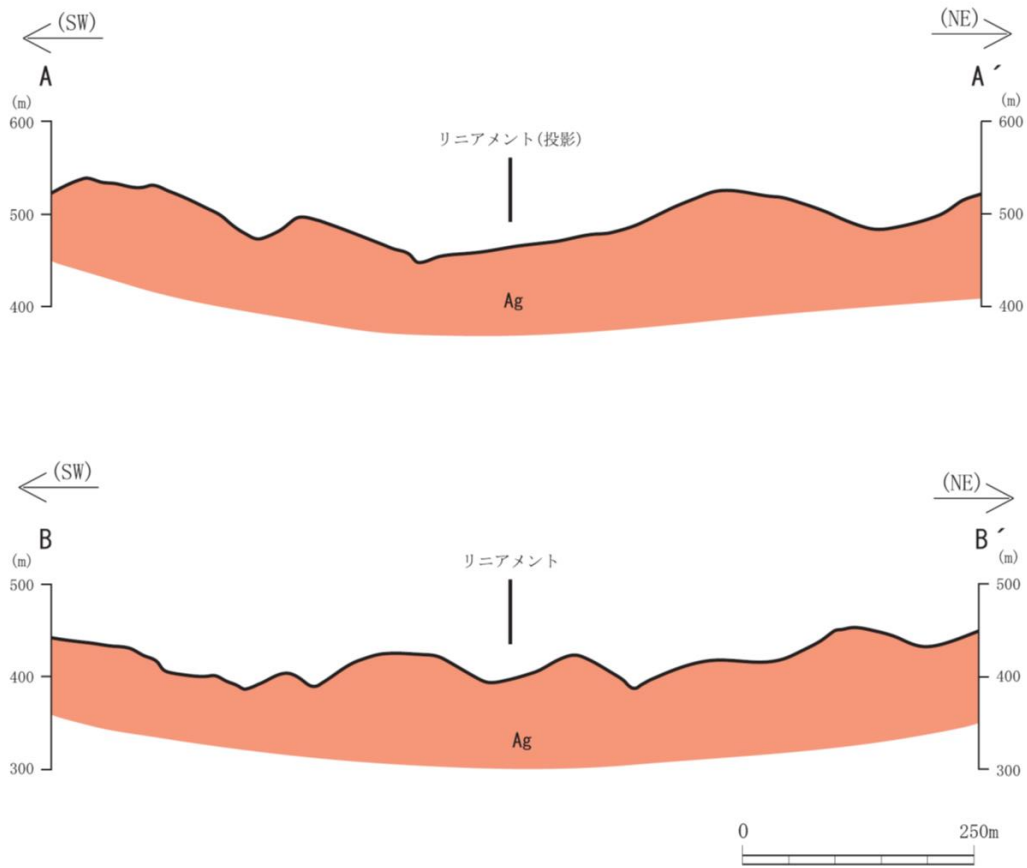


凡例	
第四系 更新統	L4 L4段丘堆積物 礫・砂
	L1 L1段丘堆積物 礫・砂
	M2 M2段丘堆積物 礫・砂
	M1 M1段丘堆積物 礫・砂
新第三系 中新統	Km 久米層 砂質泥岩
	Tg 多賀層群 砂岩・泥岩・礫岩
日立変成岩類	Hgn 片麻岩類
—	地層境界
- - -	層理面

第 3.2.115 図 常陸太田市長谷町付近リニアメント周辺の地質断面図



第 3. 2. 116 図 常陸太田市長谷町東方のルートマップ



第 3.2.118 図 豎破山南西付近リニアメント周辺の地質断面図

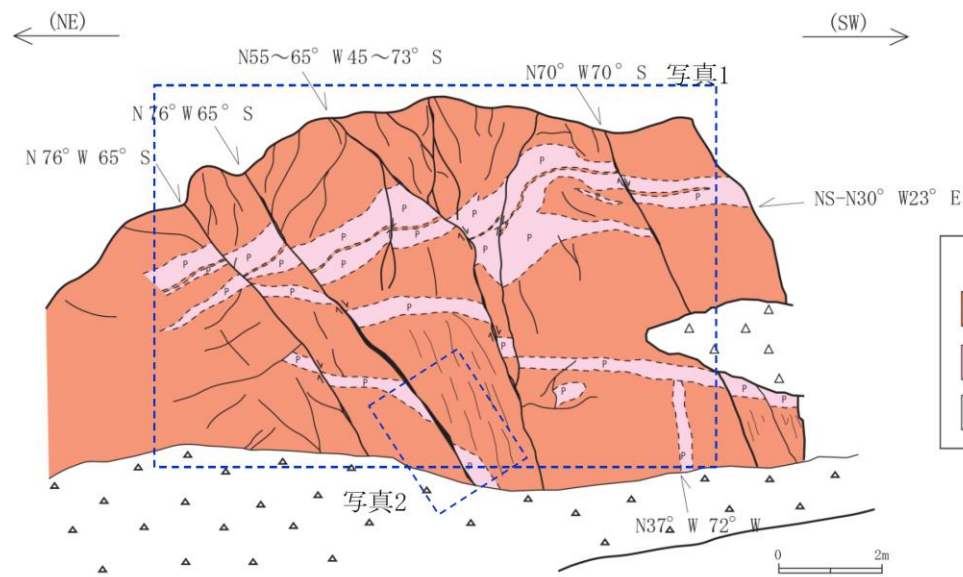


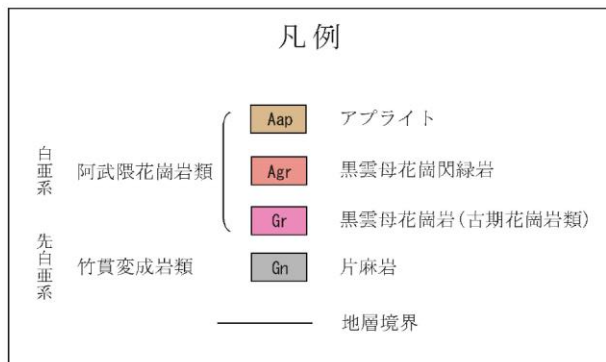
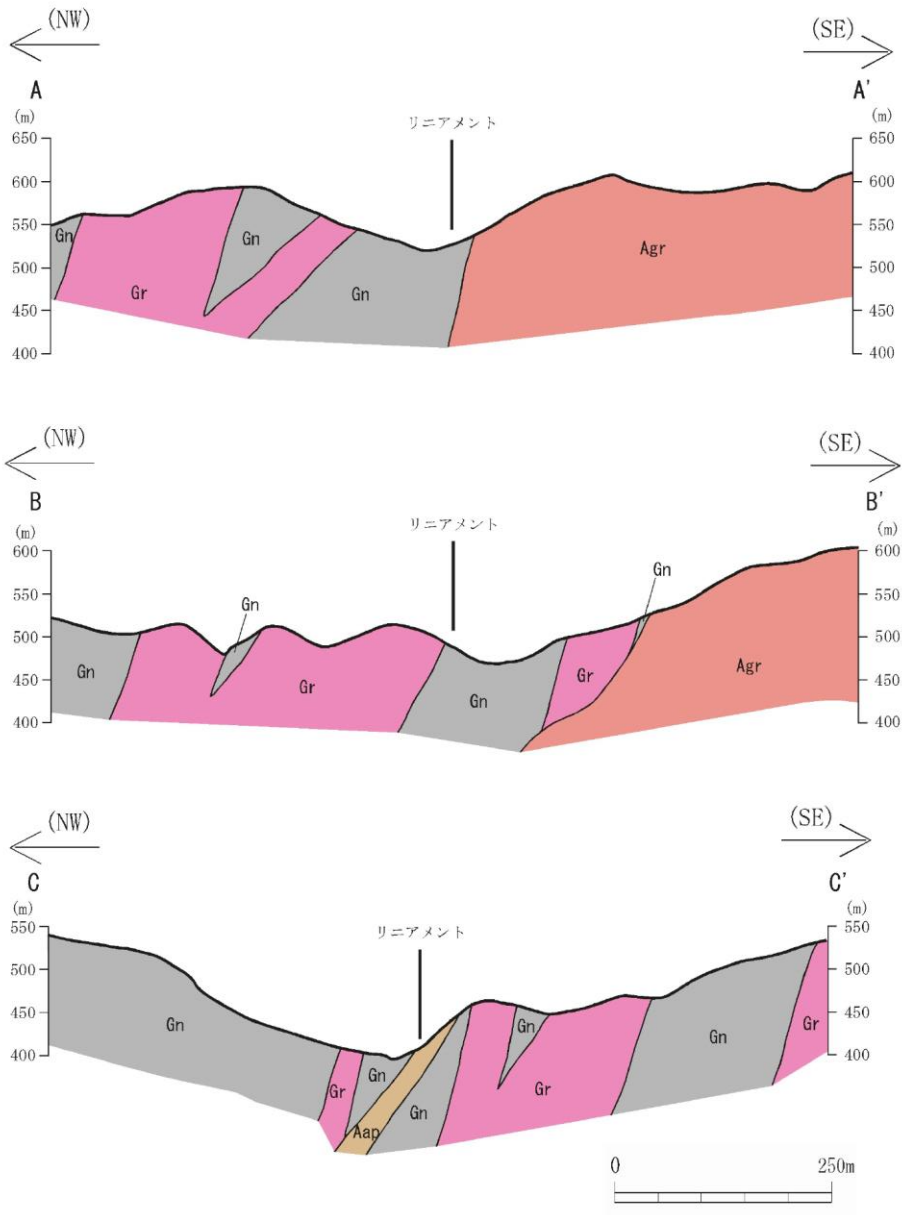
写真2 小断層 (N76 ° W65° S) の拡大写真



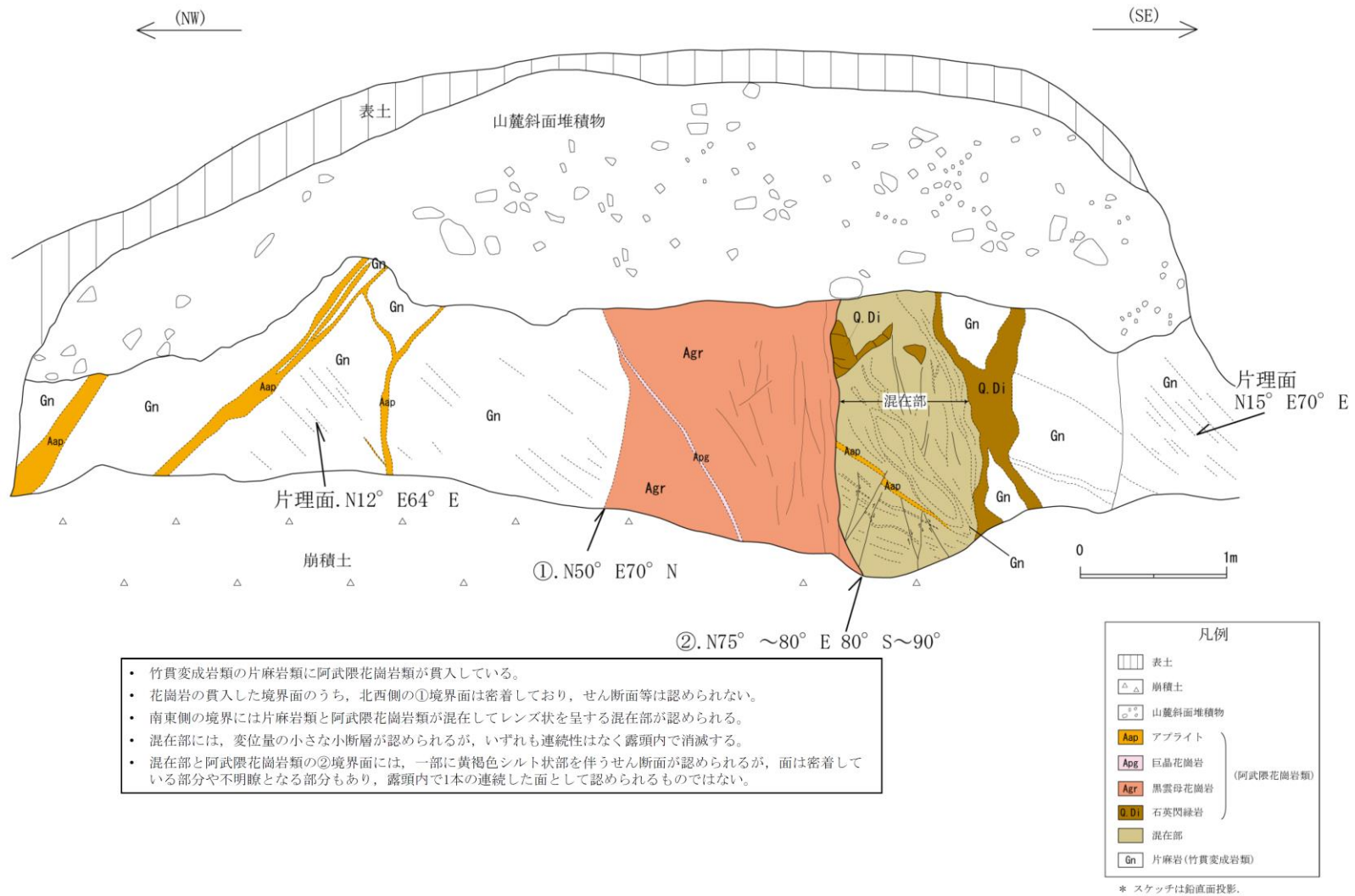
写真1 露頭

- 阿武隈花崗岩類の中粒～粗粒花崗閃緑岩中に貫入する極粗粒花崗岩に、小規模な断層が数条認められるが、いずれも変位は小さい。
- これらの断層には淡黄灰白色を呈する熱水変質脈が網目状に認められる。
- この熱水変質脈は、幅10cm程度以下で、ほとんどは固結しており、一部に不明瞭なせん断面が認められるが、長く連続するものは認められない。

第3.2.119 図 露頭スケッチ (豎破山西方)

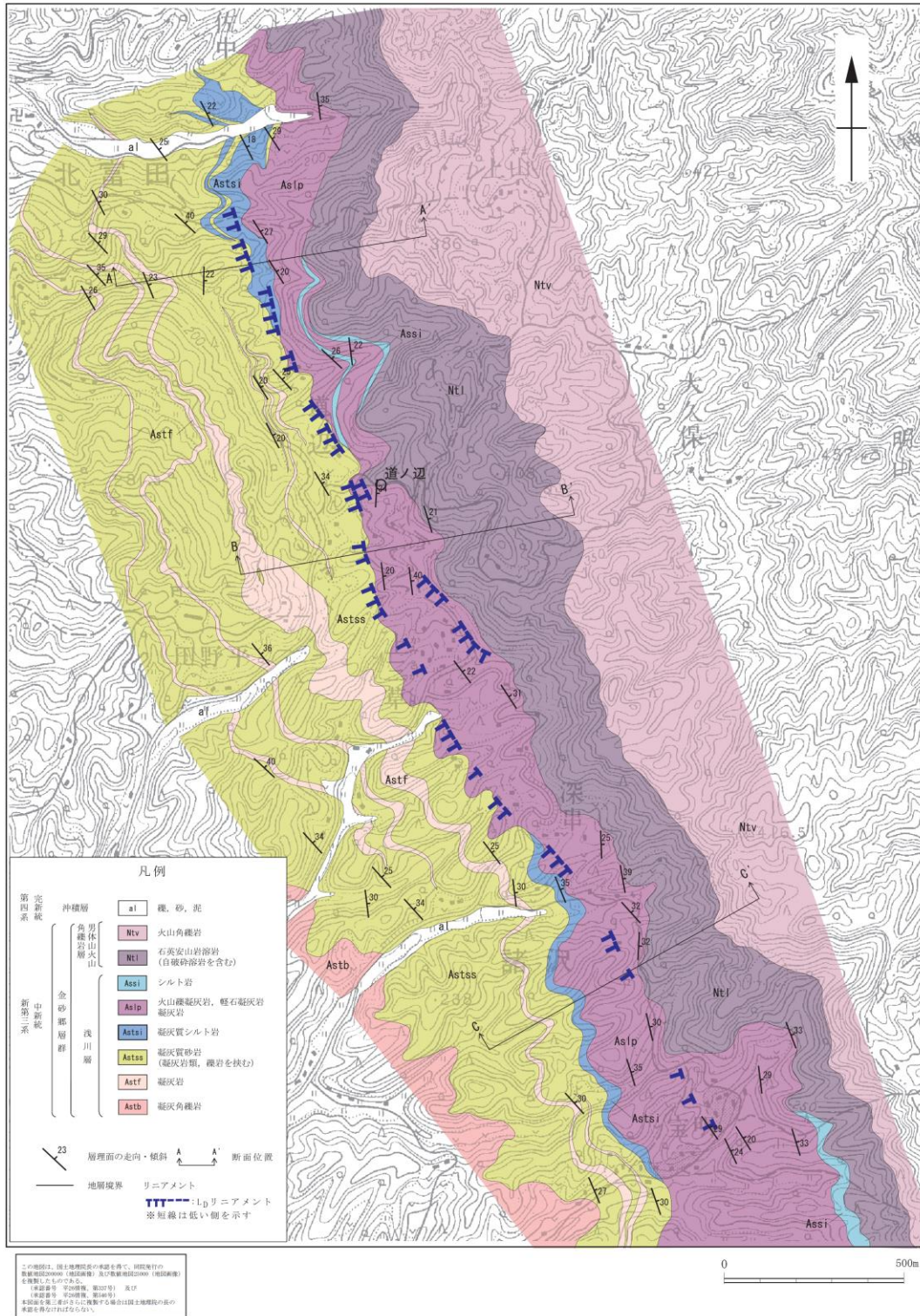


第 3.2.121 図 常陸太田市小中町東方付近リニアメント周辺の地質断面図

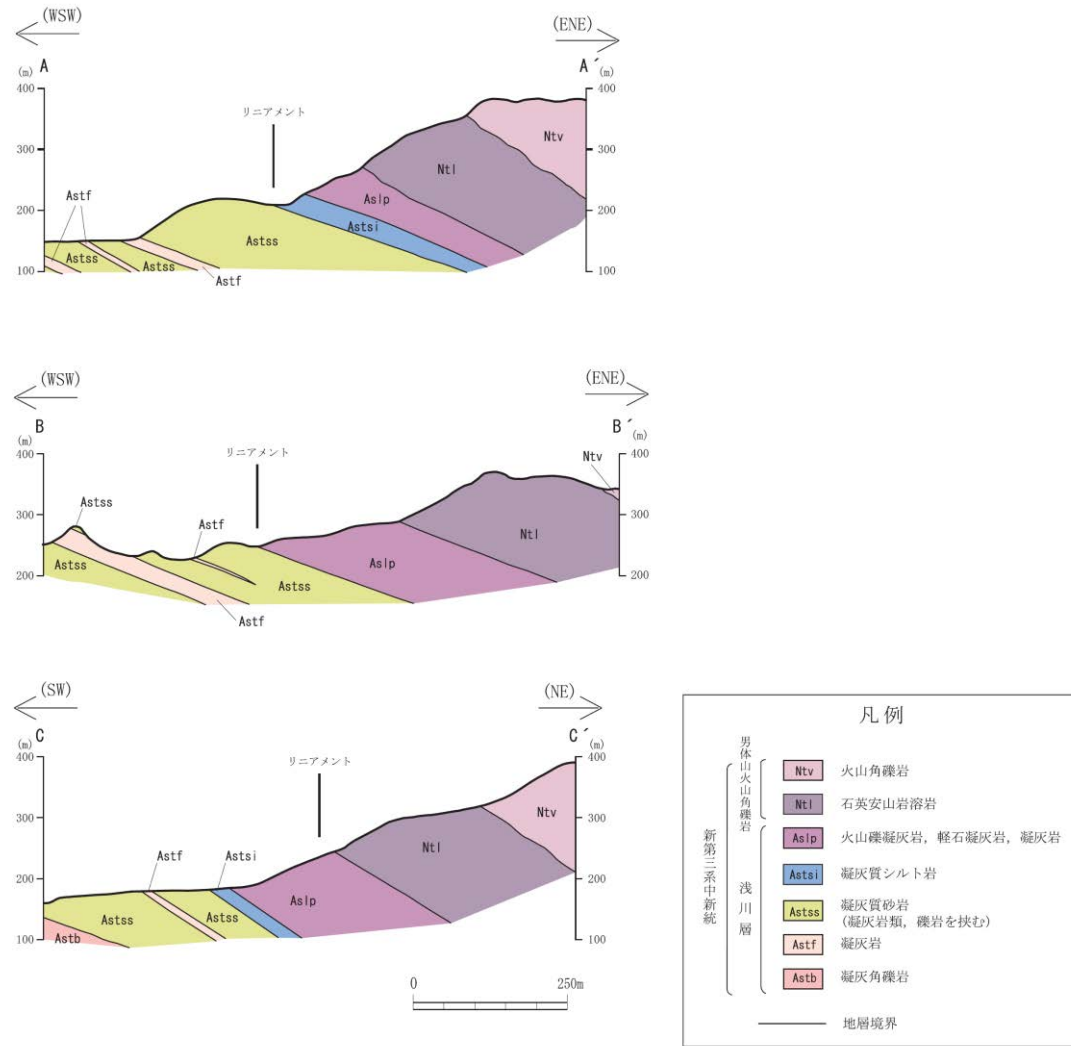


- 竹貫変成岩類の片麻岩類に阿武隈花崗岩類が貫入している。
- 花崗岩の貫入した境界面のうち、北西側の①境界面は密着しており、せん断面等は認められない。
- 南東側の境界には片麻岩類と阿武隈花崗岩類が混在してレンズ状を呈する混在部が認められる。
- 混在部には、変位量の小さな小断層が認められるが、いずれも連続性はなく露頭内で消滅する。
- 混在部と阿武隈花崗岩類の②境界面には、一部に黄褐色シルト状部を伴うせん断面が認められるが、面は密着している部分や不明瞭となる部分もあり、露頭内で1本の連続した面として認められるものではない。

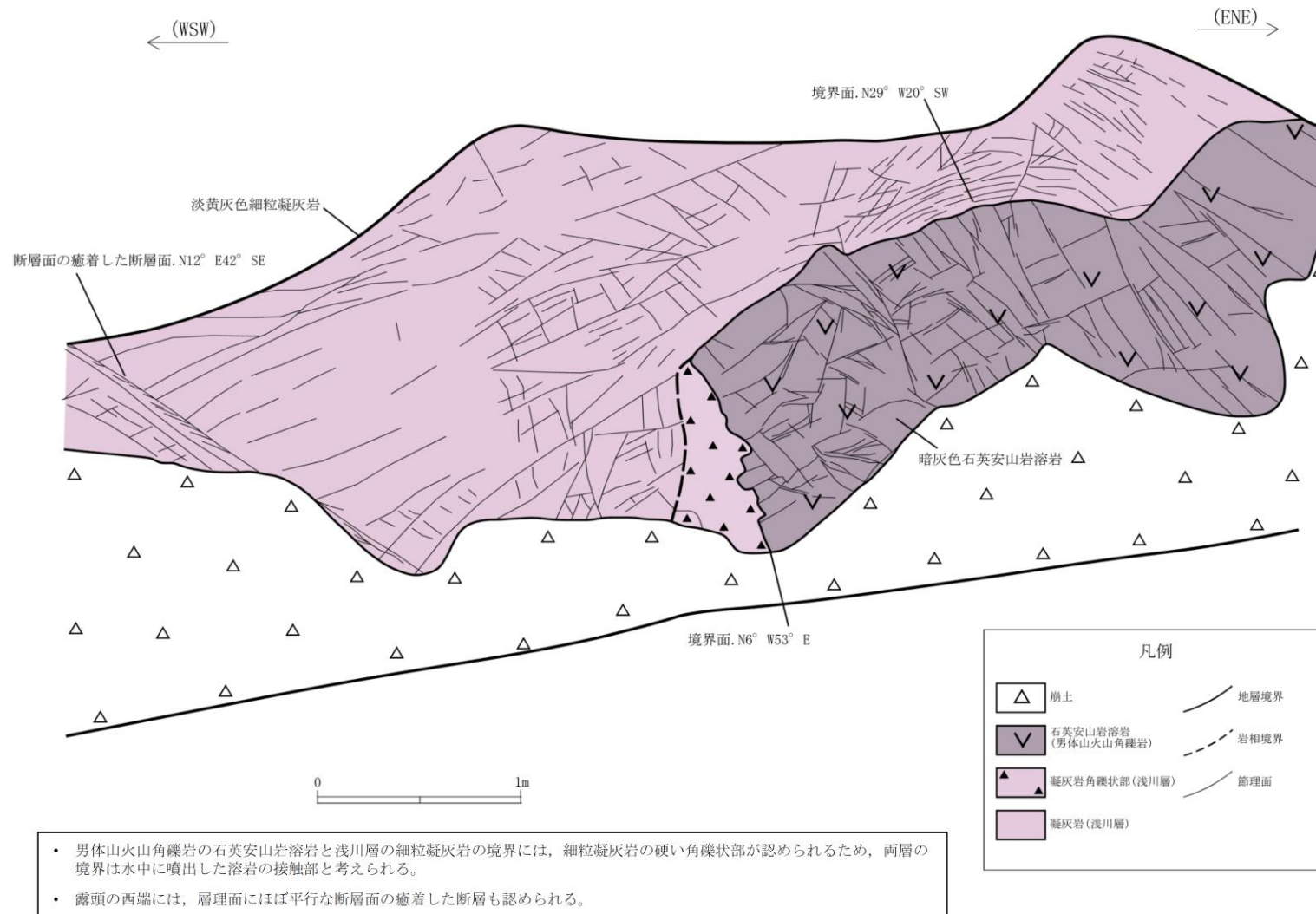
第 3. 2. 122 図 露頭スケッチ (常陸太田市小中町東方)



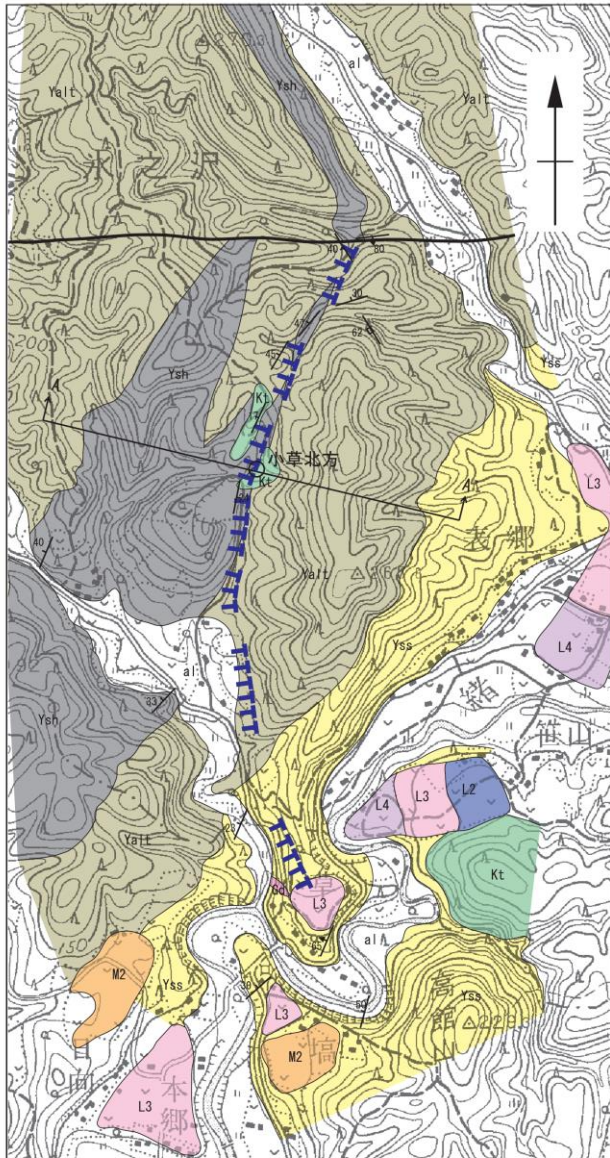
第 3. 2. 123 図 久慈郡大子町北富田付近リニアメント周辺の地質図



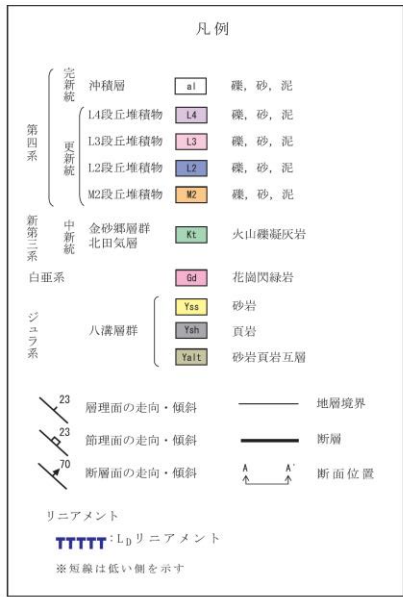
第 3. 2. 124 図 久慈郡太子町北富田付近リニアメント周辺の地質断面図



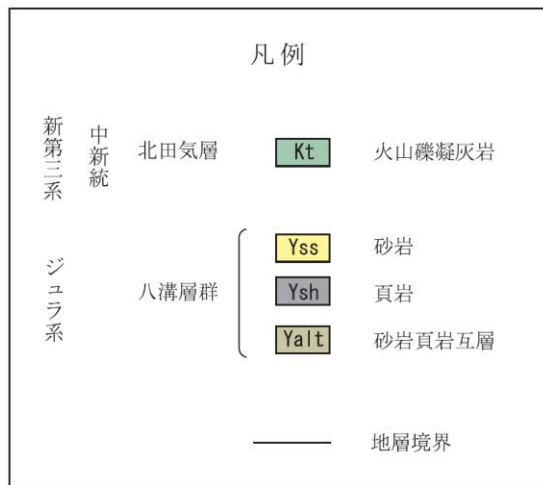
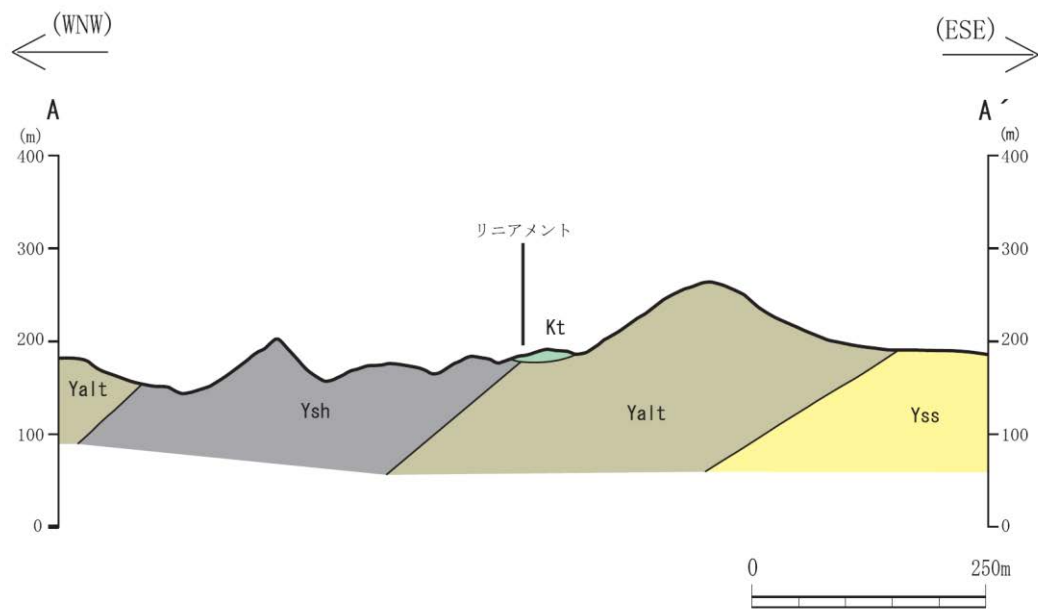
第 3. 2. 125 図 露頭スケッチ (久慈郡太子町道ノ辺)



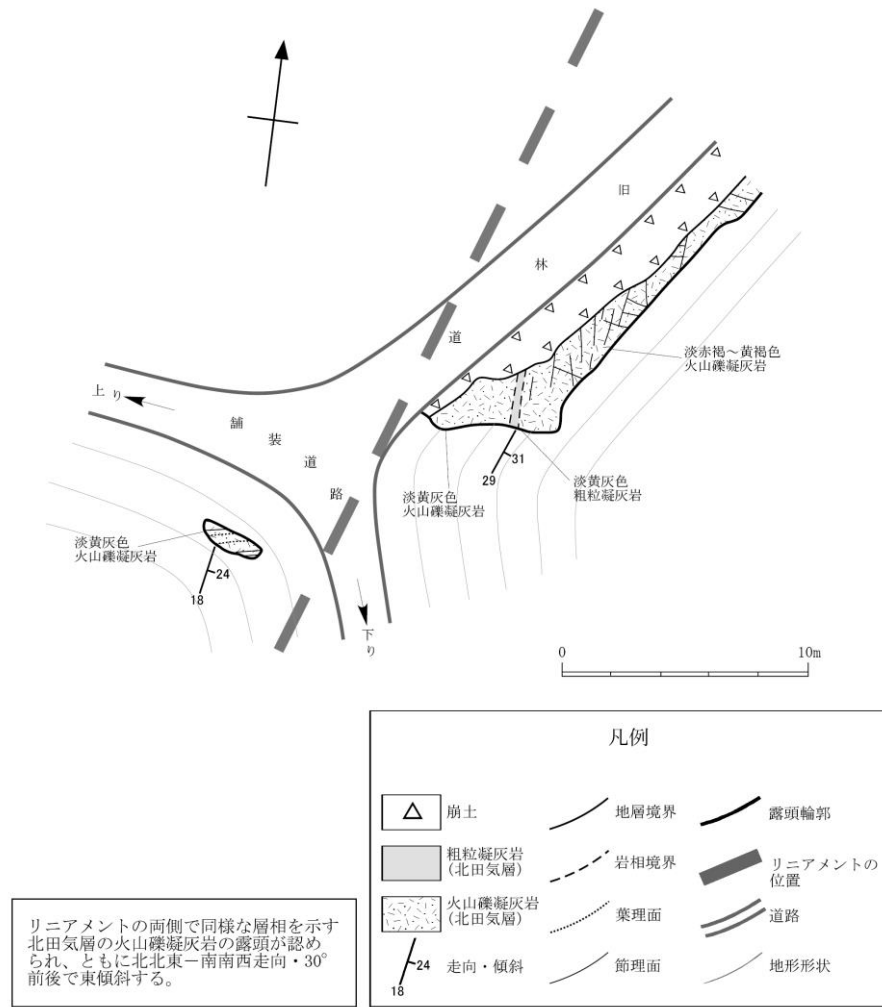
この地図は、国土院院長の承認を経て、同院発行の
 標準地形図(1:50,000) (地形図番号) 及び地質図(1:50,000) (地質図番号)
 を用いて作成したものである。
 ※本図は、地形図、地質図、及び
 本図を基に作成されたもので、地形図、地質図
 の承認を失った場合には、地形図、地質図の承認
 を失ったものと見做す。



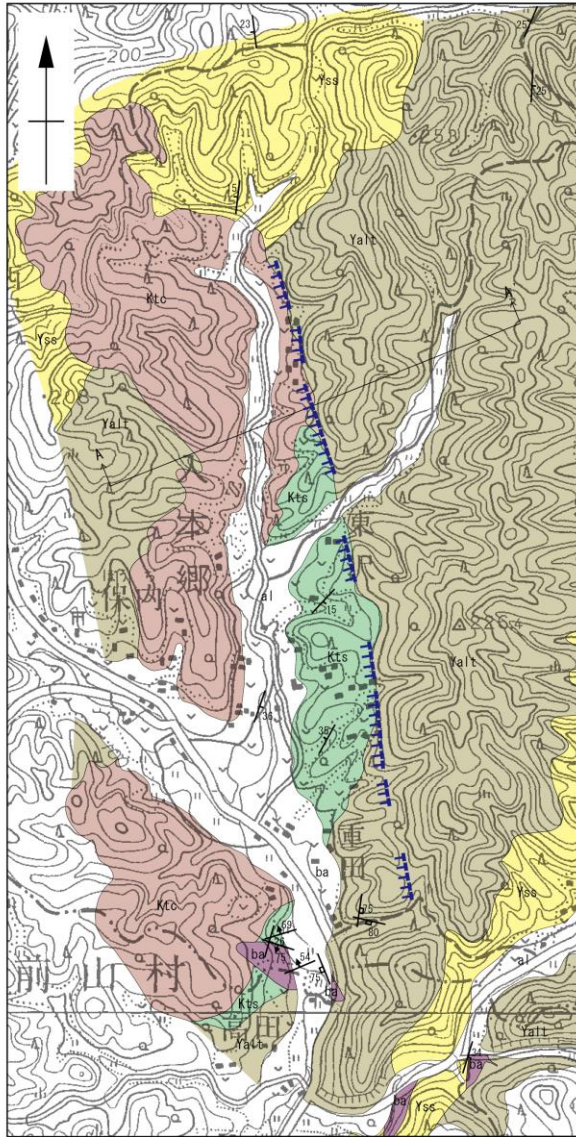
第 3. 2. 126 図 常陸大宮市氷之沢付近リニアメント周辺の地質図



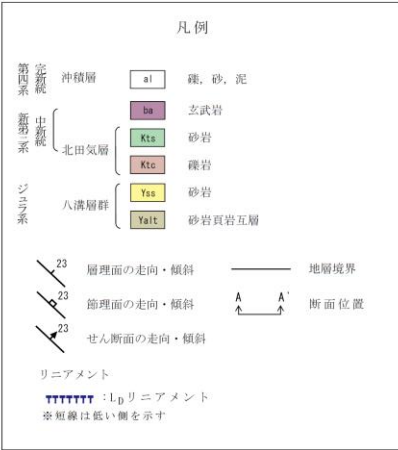
第 3. 2. 127 図 常陸大宮市氷之沢付近リニアメント周辺の地質断面図



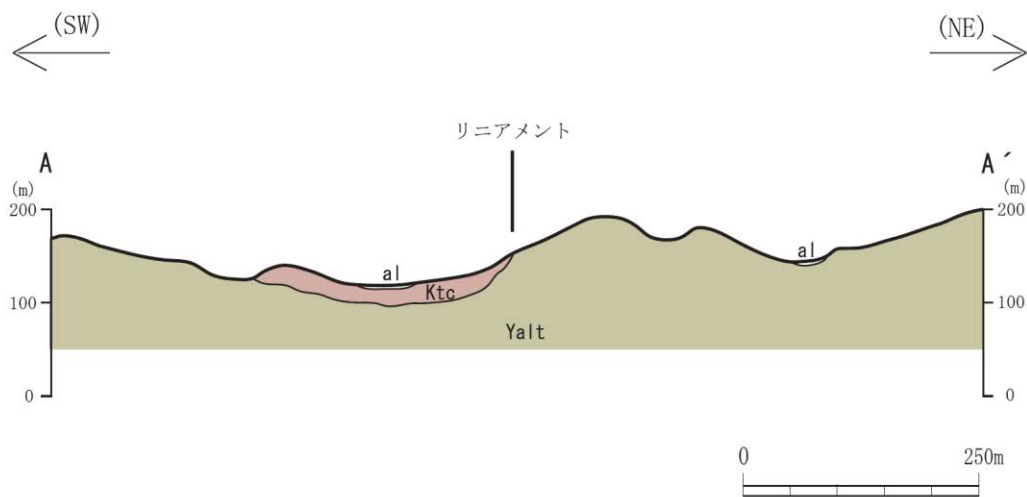
第 3. 2. 128 図 常陸大宮市小草北方付近の拡大ルートマップ



この地図は、国土庁院長の承認を得て、国土庁の
 測量法第26条の1第2項第2号に基づき作成されたものである。
 ※本図面を第三者がさらに複製する場合は国土庁の長の
 承認を得なければならない。

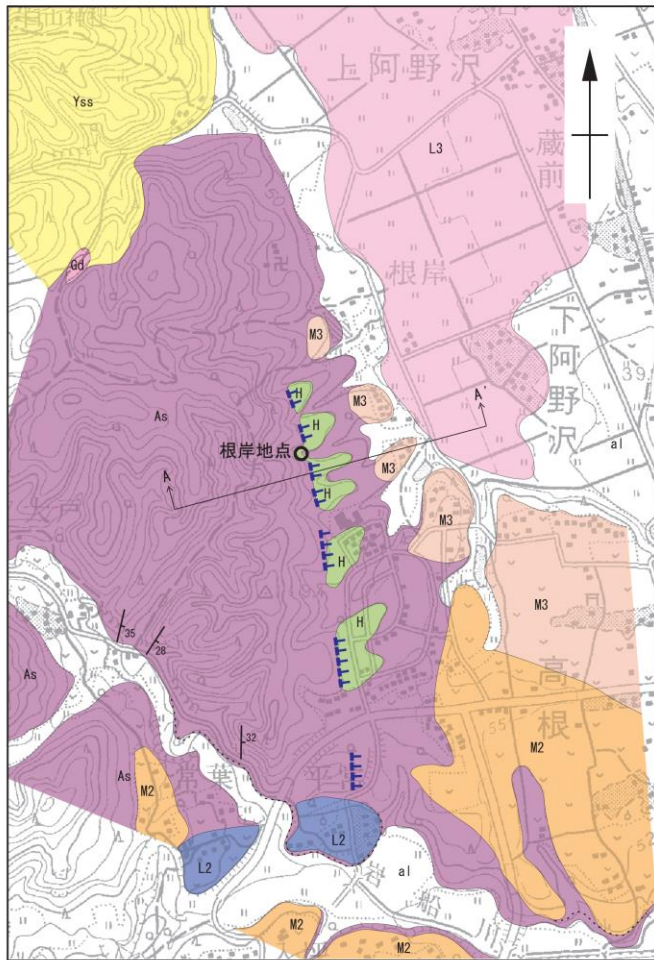


第 3. 2. 129 図 常陸大宮市入本郷付近リニアメント周辺の地質図

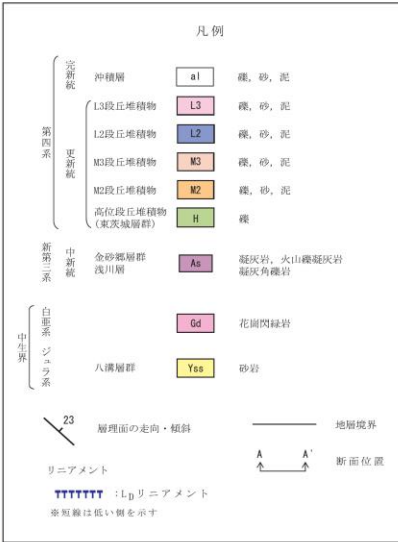


凡例			
第四系	完新統	沖積層	al 礫, 砂, 泥
新第三系	中新統	北田気層	Ktc 礫岩
ジュラ系		八溝層群	Yalt 砂岩頁岩互層
			— 地層境界

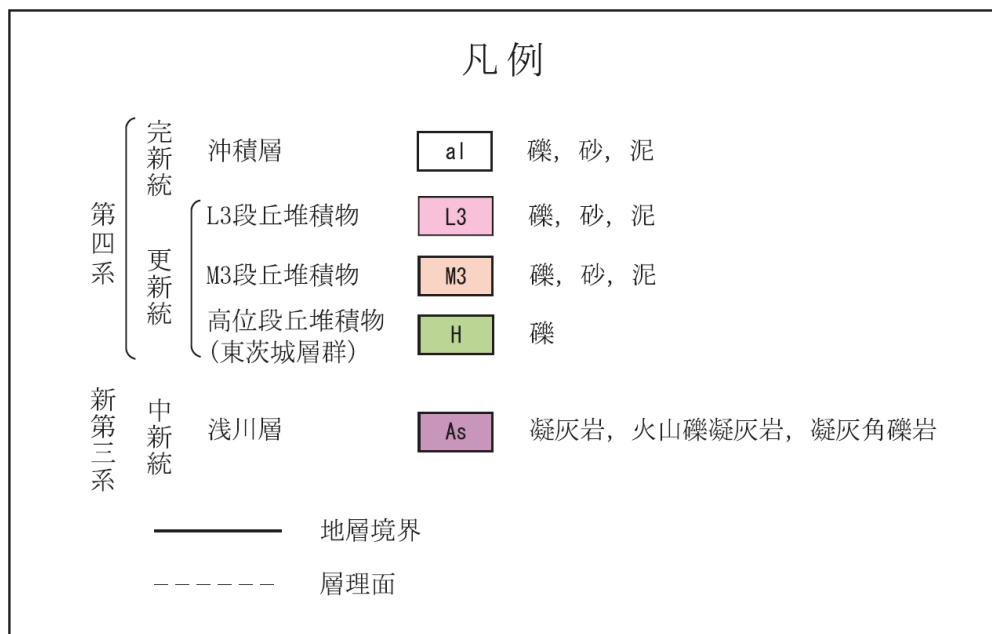
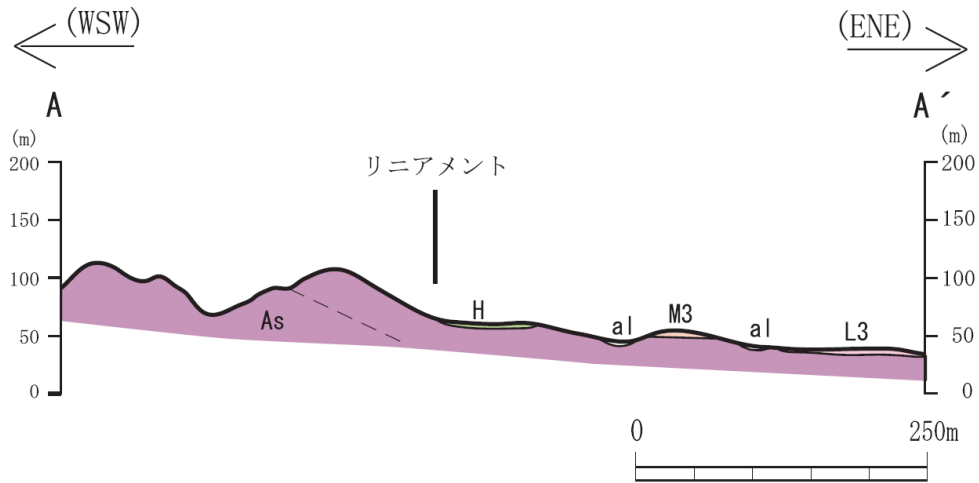
第 3. 2. 130 図 常陸大宮市入本郷付近リニアメント周辺の地質断面図



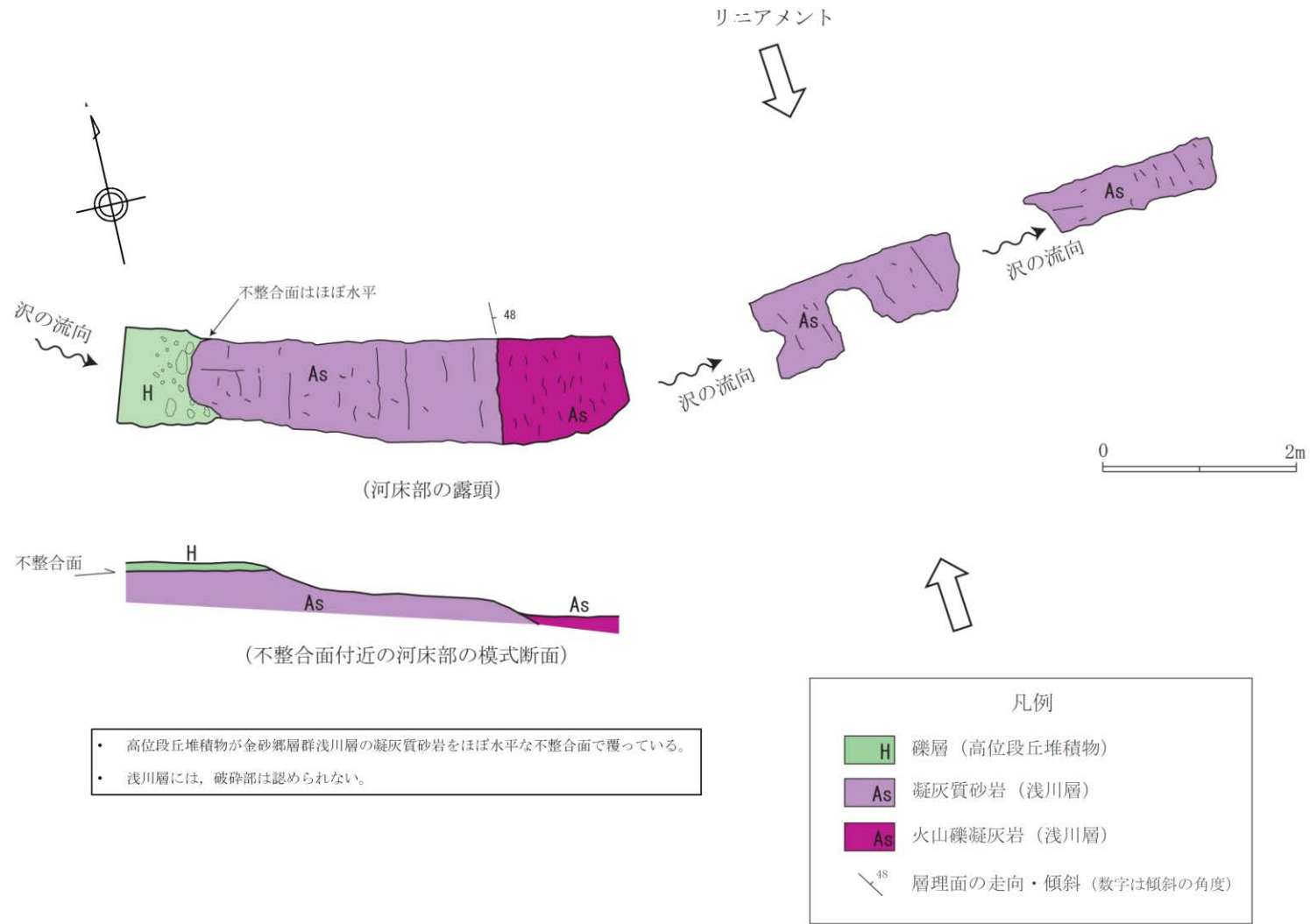
この地図は、国土地理院長の承認を得て、防災資料の
 審議第1200000（地理院発）及び第1200000000（地理院発）
 を掲載したものである。
 （国土地理院 審議第1200000 及び
 本図面を第三巻のみに複製する場合は国土地理院の長の
 承認を得なければならない。）



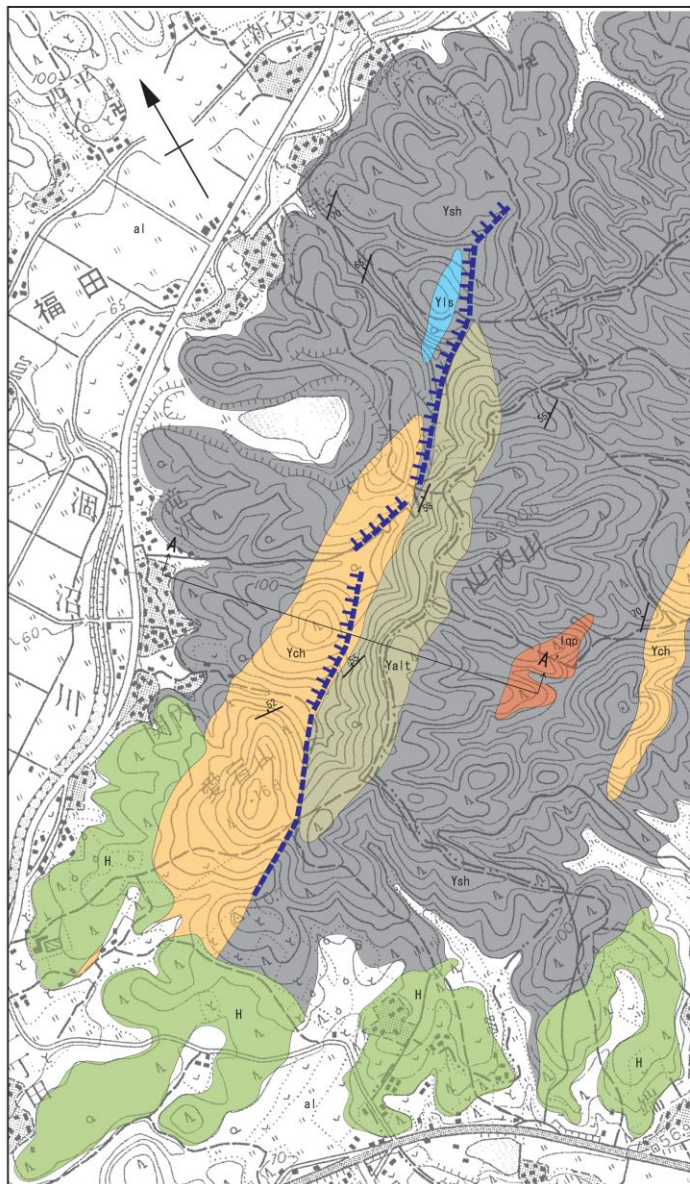
第 3. 2. 131 図 東茨城郡城里町高根付近リニアメント周辺の地質図



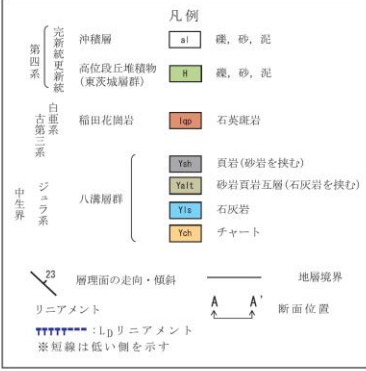
第 3. 2. 132 図 東茨城郡城里町高根付近リニアメント周辺の地質断面図



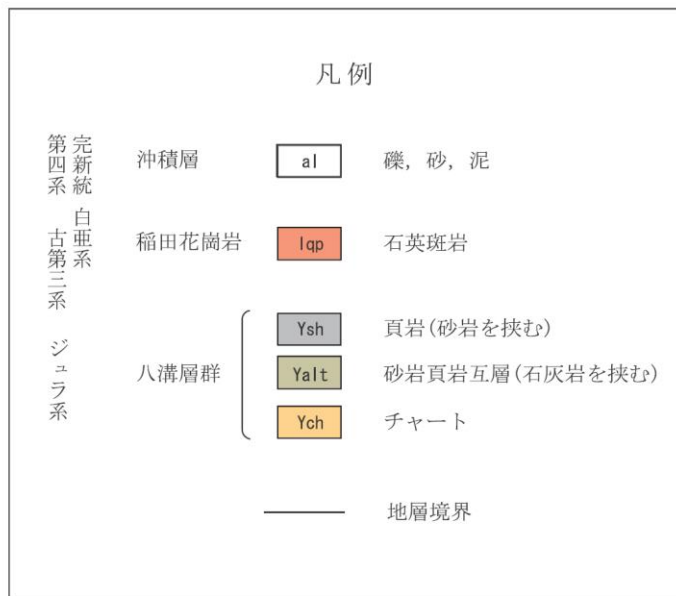
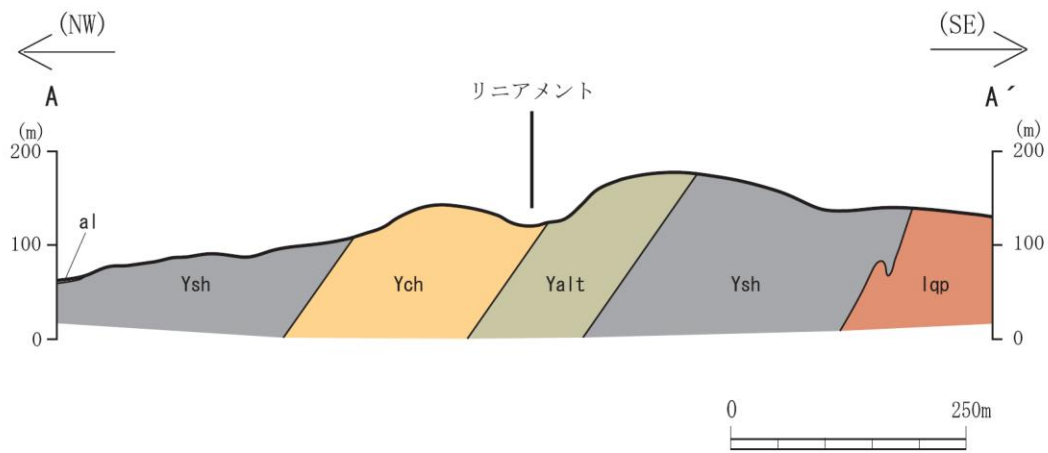
第 3. 2. 133 図 露頭スケッチ (東茨城郡城里町根岸)



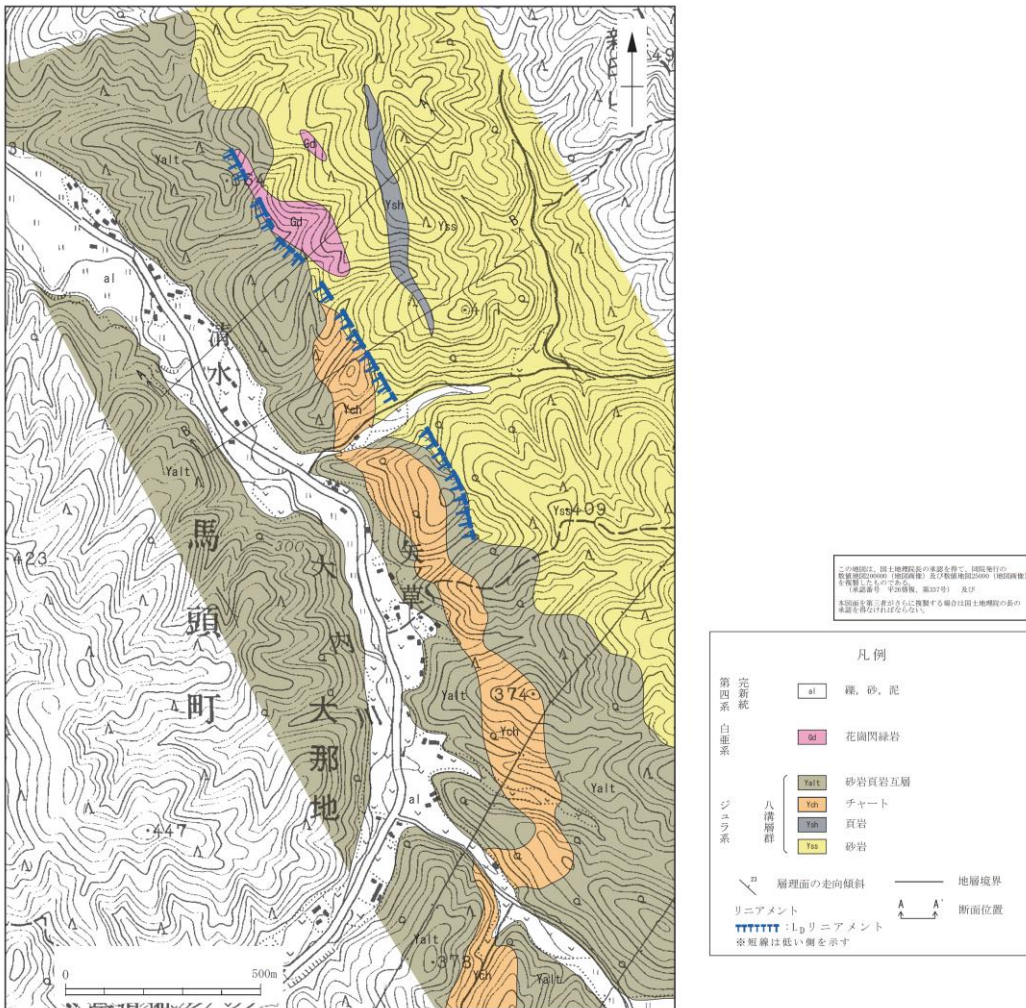
この地図は、国土院院長の承認を得て、国院発行の
 数値地形図200000（地形図線）及び数値地形図25000（地形図線）
 を複製したものである。
 （承認番号 国土院領、第333号） 及び
 本図面を第三者がさらに複製する場合は国土院院長の
 承認を得なければならない。



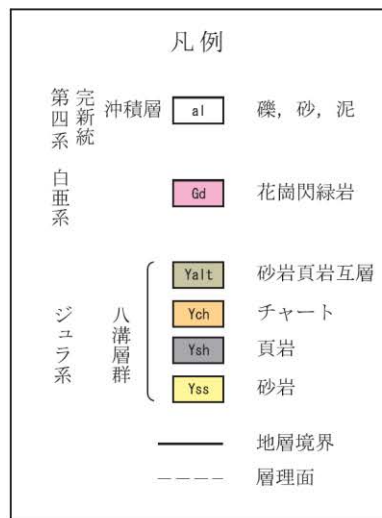
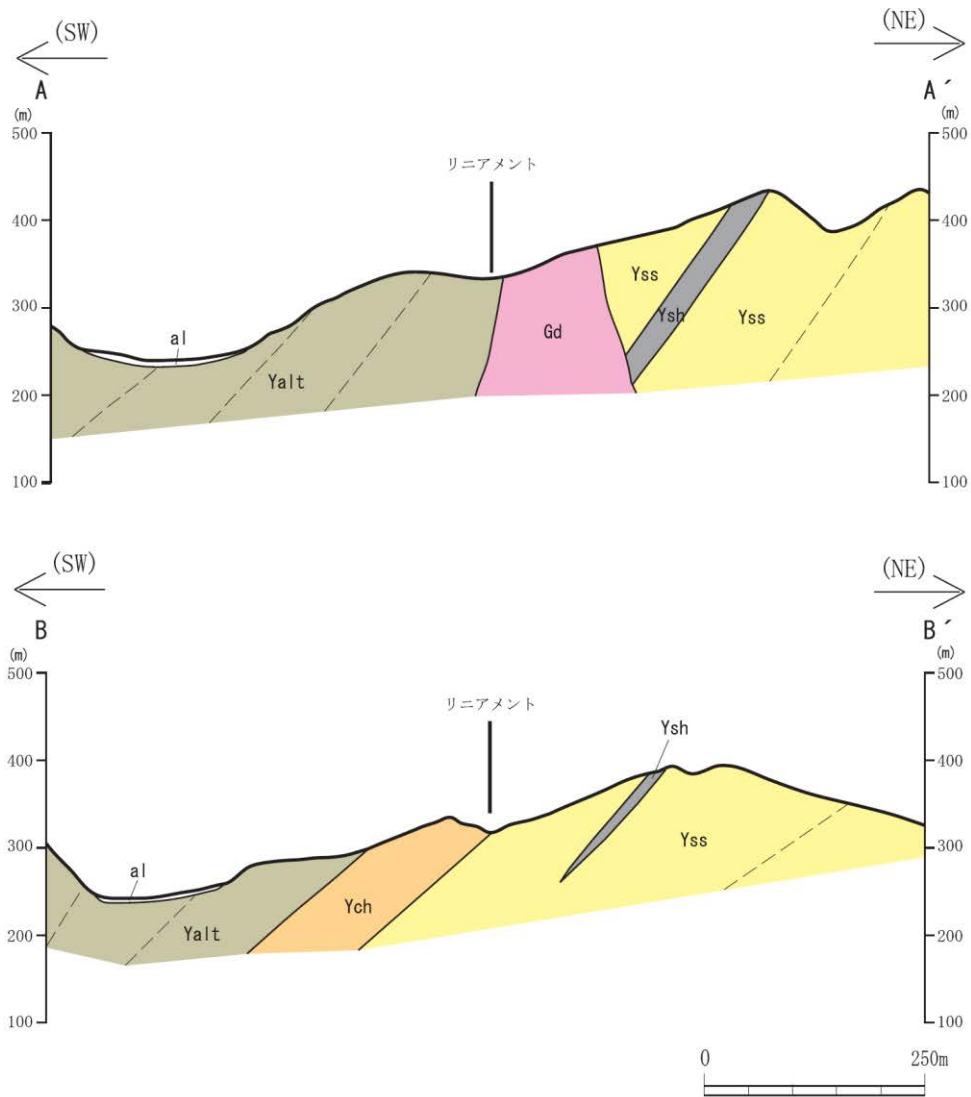
第 3. 2. 134 図 笠間市福田南方付近リニアメント周辺の地質図



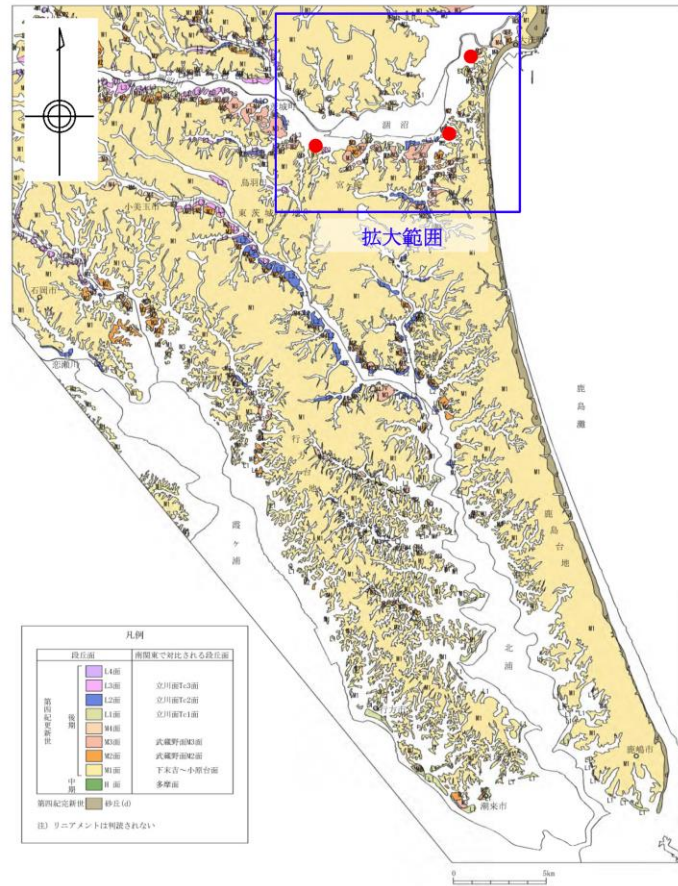
第 3. 2. 135 図 笠間市福田南方付近リニアメント周辺の地質断面図



第 3. 2. 136 図 栃木県那珂川町大那地付近リニアメント周辺の地質図

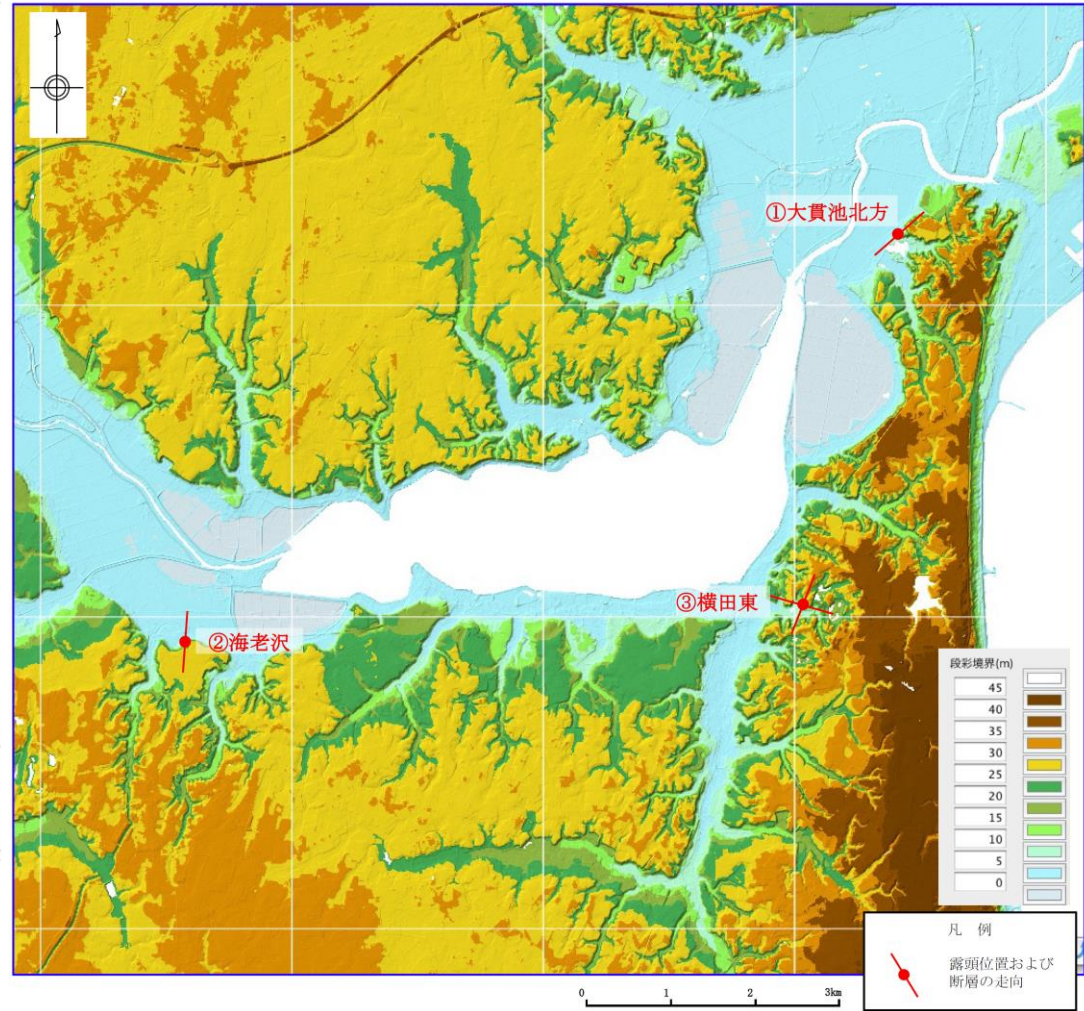


第 3. 2. 137 図 栃木県那珂川町大那地付近リニアメント周辺の地質断面図



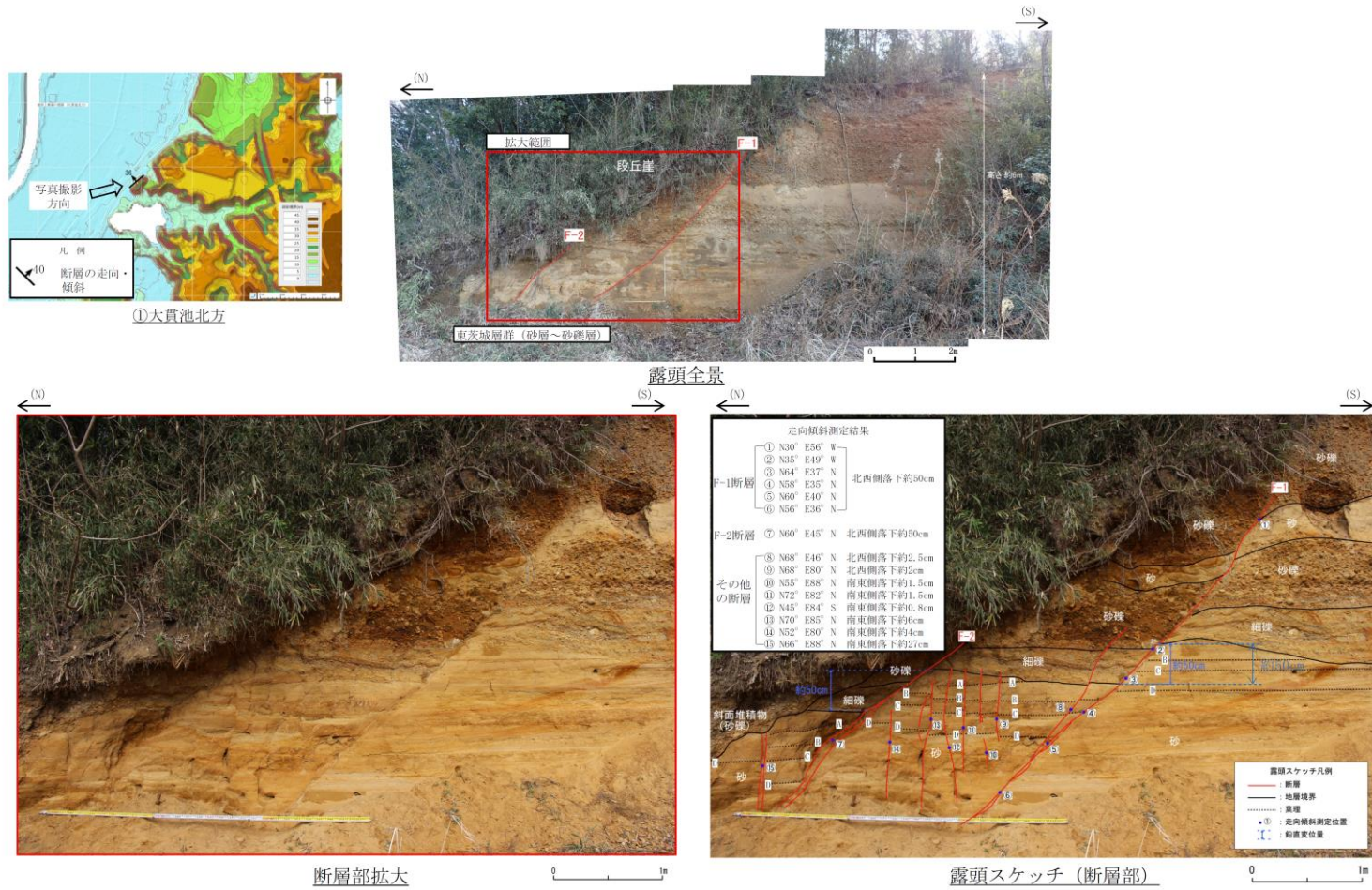
変動地形学的調査結果

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）及び数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平26情複、第337号）及び（承認番号 平26情複、第540号）
 本図面を第三者がさらに複製する場合は国土地理院の長の承認を得なければならない。



各露頭位置及び断層の走向（国土地理院による10mメッシュDEMに基づく段彩陰影図）

第 3. 2. 138 図 澗沼付近の変動地形学的調査結果



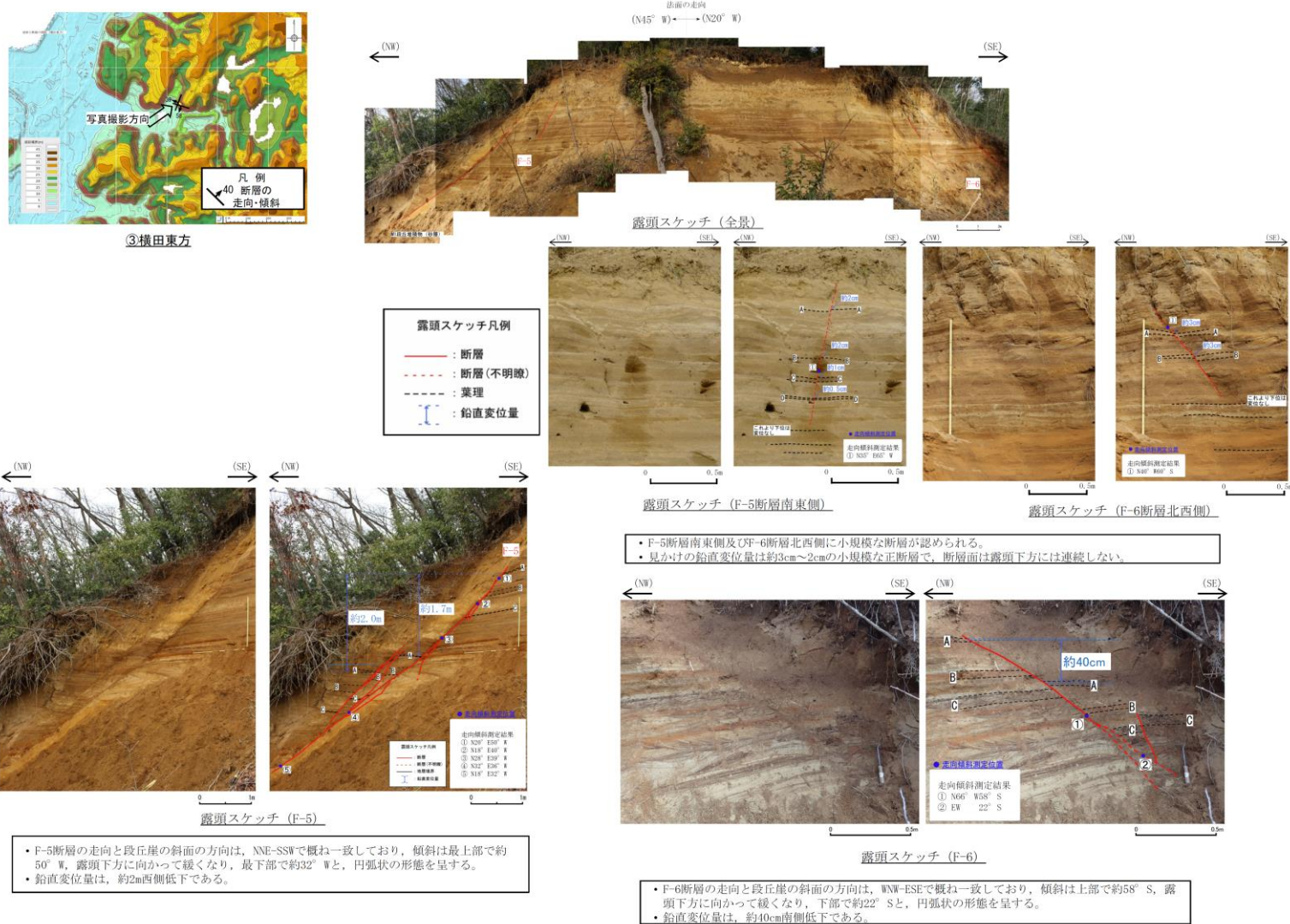
- F-1及びF-2断層の走向と段丘崖の斜面の方向は、NE-SWで概ね一致しており、傾斜は最上部で約56° W、露頭下方に向かって緩くなり、最下部で約36° Nと、円弧状の形態を呈する。
- F-1及びF-2断層の鉛直変位量はいずれの対比基準面についても概ね同様で、約50cm北西側低下であり、変位の累積性は認められない。
- また、これらの断層の上盤側には、ほぼ同様な走向で主に高角度傾斜の小規模な断層が多数認められる。これらの断層は主に南東側落下数cmの変位を示し、幅1mm程度開口している部分もあり、上端、下端はF-1及びF-2断層を越えて連続しない。
- F-1断層とF-2断層間の砂層の葉理構造は、これらの断層によってF-1断層に向かって階段状に低下していることから、F-1断層とF-2断層間に見られる小規模な断層は、上盤が南東側に傾き下る回転により形成されたものと推測される。

第 3. 2. 139 図 露頭スケッチ (大貫池北方)

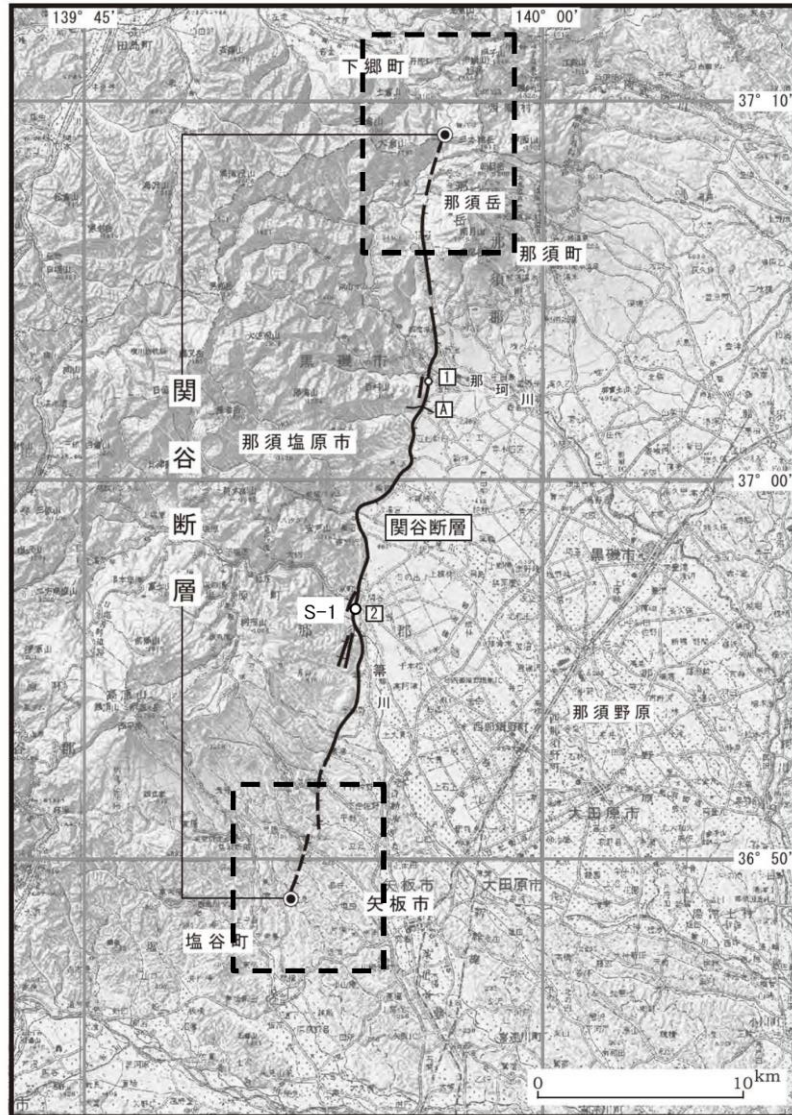


- 露頭の西端にF-3及びF-4断層が認められる。
- F-3及びF-4断層は段丘崖の斜面表層部に位置し、斜面の傾斜方向へ変位する正断層である。
- F-3及びF-4断層の走向と段丘崖の斜面の方向はN-S方向で概ね一致しており、傾斜は上部で約38° W、露頭下方に向かって緩くなり、下部で約34° Wと円弧状の形態を呈する。
- 鉛直変位量は約25cm西側低下である。

第3.2.140 図 露頭スケッチ (海老沢)



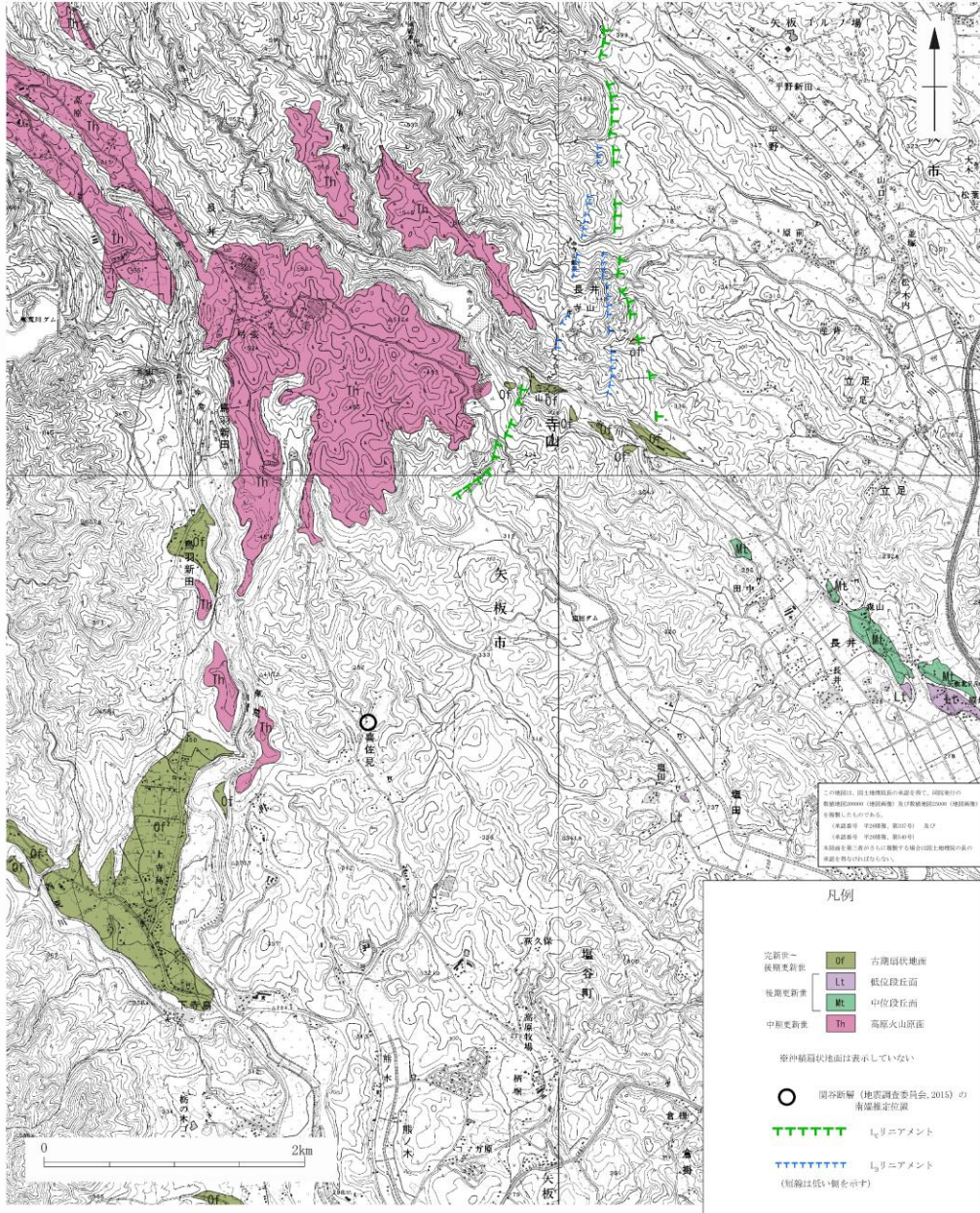
第3.2.141 図 露頭スケッチ (横田東方)



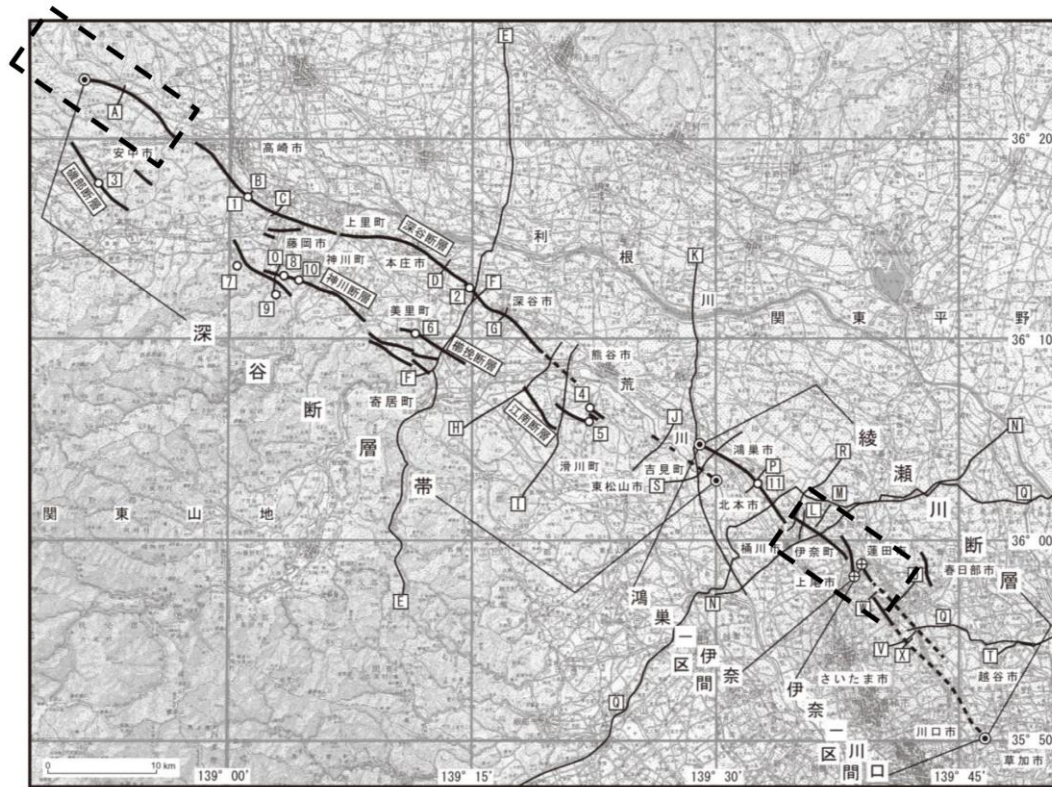
- ①~②: 「関谷断層の長期評価(一部改訂)(2015)」に記載された調査地点
(1: 百村地点、2: 関谷地点)
- △: 「関谷断層の長期評価(一部改訂)(2015)」に記載された反射法弾性波探査測線
- : 「関谷断層の長期評価(一部改訂)(2015)」による断層帯の北端と南端

凡例	
●	スケッチ箇所
△	変動地形調査範囲
S-1	地点番号

第 3. 2. 142 図 関谷断層調査位置図 (「地震調査委員会」(2015)に一部加筆)

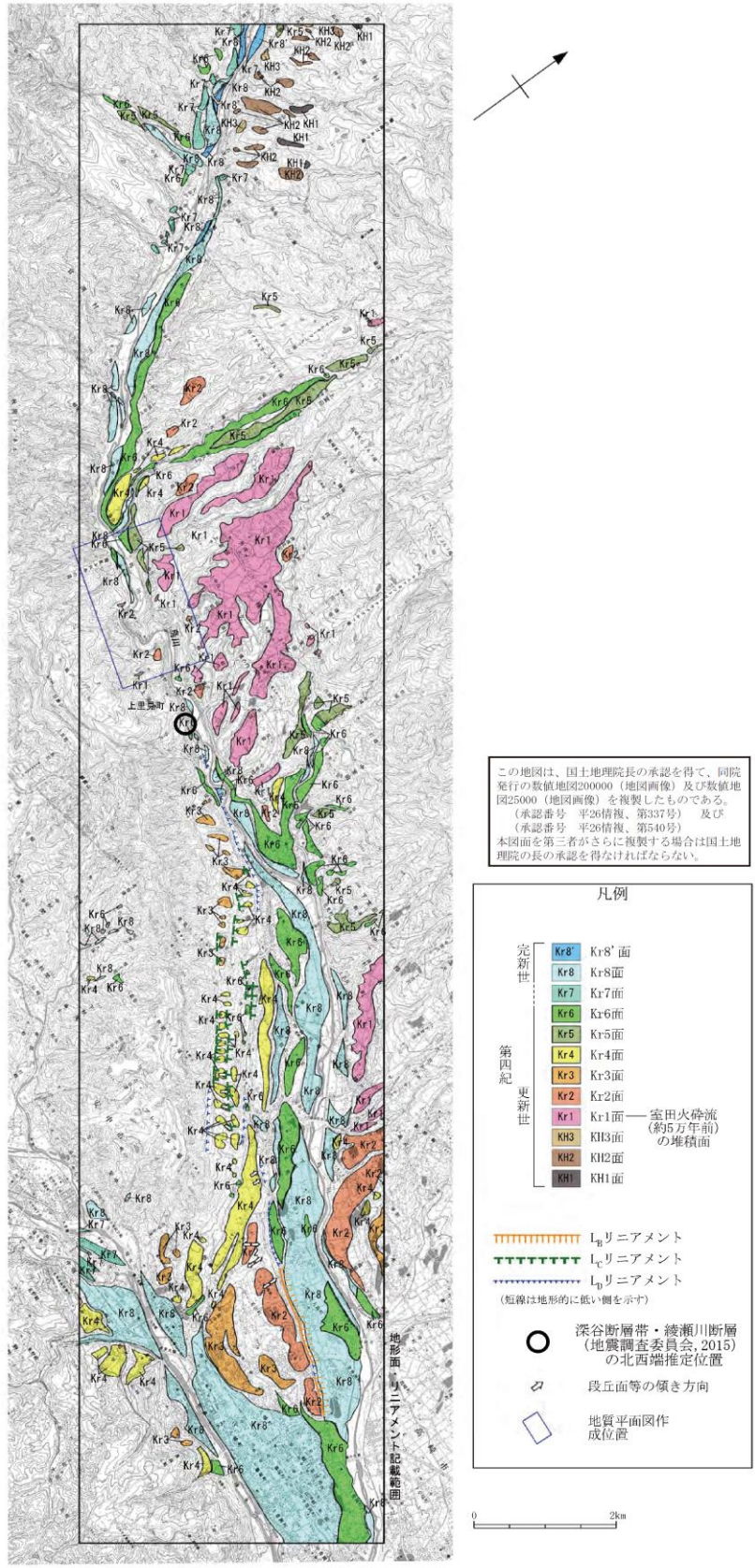


第 3. 2. 144 図 関谷断層南端部付近の変動地形学的調査結果

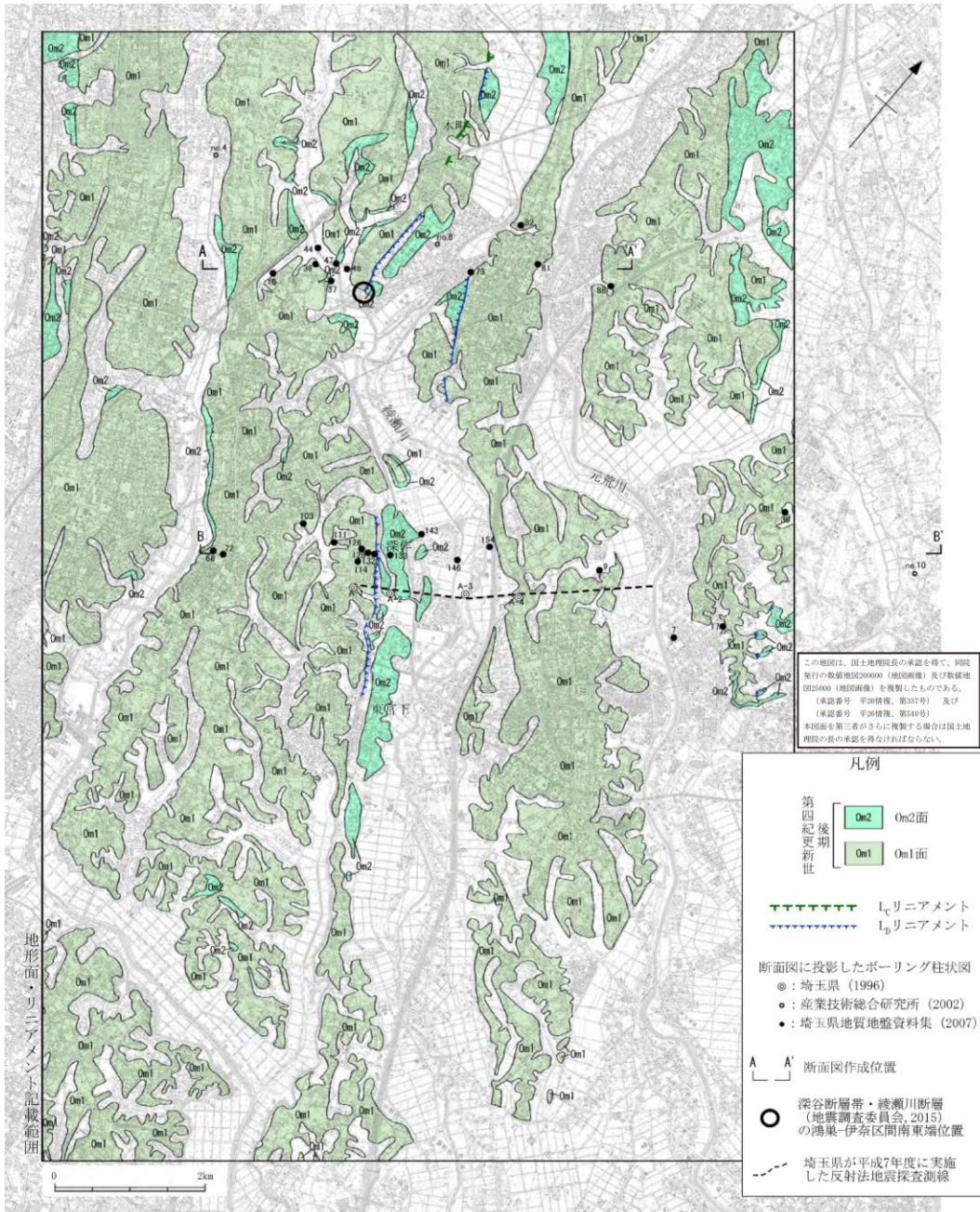


- ①~⑨ : 「深谷断層帯・綾瀬川断層(関東平野北西縁断層帯・元荒川断層帯)の長期評価(一部改訂)(2015)」に記載された調査地点
- Ⓐ~⓪ : 「深谷断層帯・綾瀬川断層(関東平野北西縁断層帯・元荒川断層帯)の長期評価(一部改訂)(2015)」に記載された反射法弾性波探査測線
- : 「深谷断層帯・綾瀬川断層(関東平野北西縁断層帯・元荒川断層帯)の長期評価(一部改訂)(2015)」による断層帯の北西端と南東端
- ⌈ ⌋ : 変動地形学的調査等範囲 (「深谷断層帯・綾瀬川断層(関東平野北西縁断層帯・元荒川断層帯)の長期評価(一部改訂)(2015)」に一部加筆)

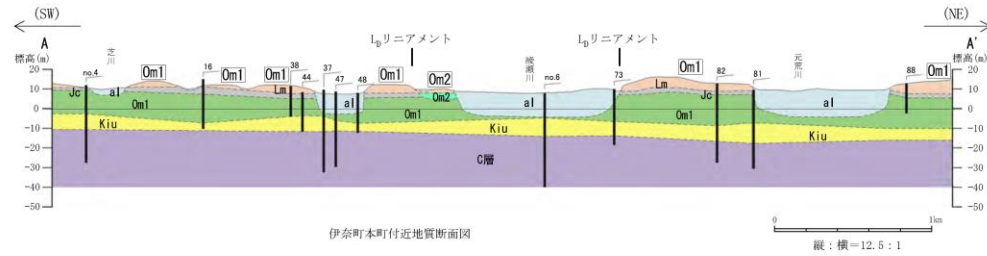
第 3. 2. 146 図 深谷断層帯・綾瀬川断層調査位置図 (「地震調査委員会」(2015)に一部加筆)



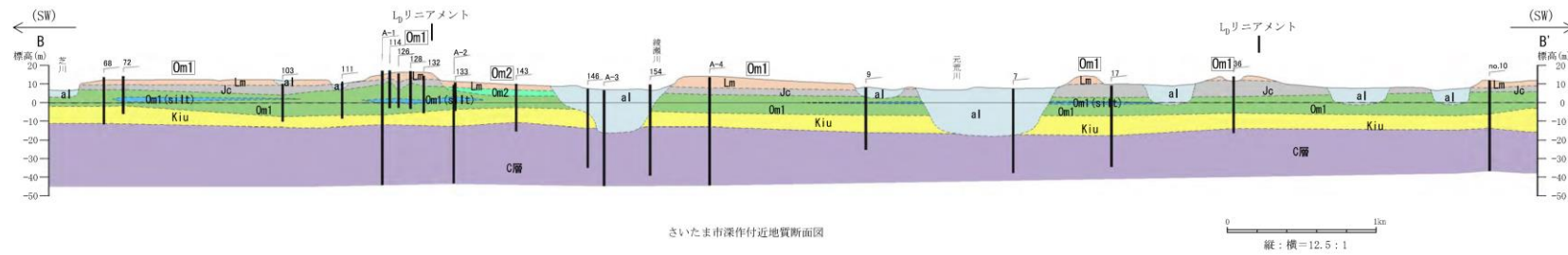
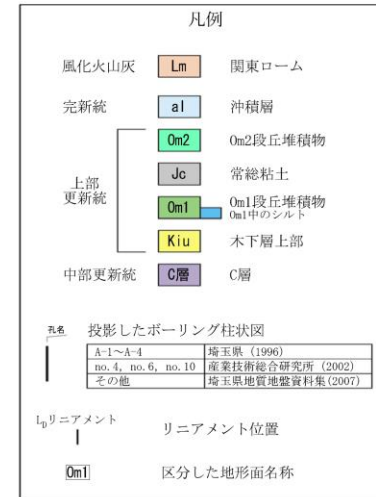
第 3. 2. 147 図 深谷断層帯・綾瀬川断層北西端部周辺の変動地形学的調査結果



第 3.2.149 図 深谷断層帯・綾瀬川断層南東端部周辺の変動地形学的調査結果

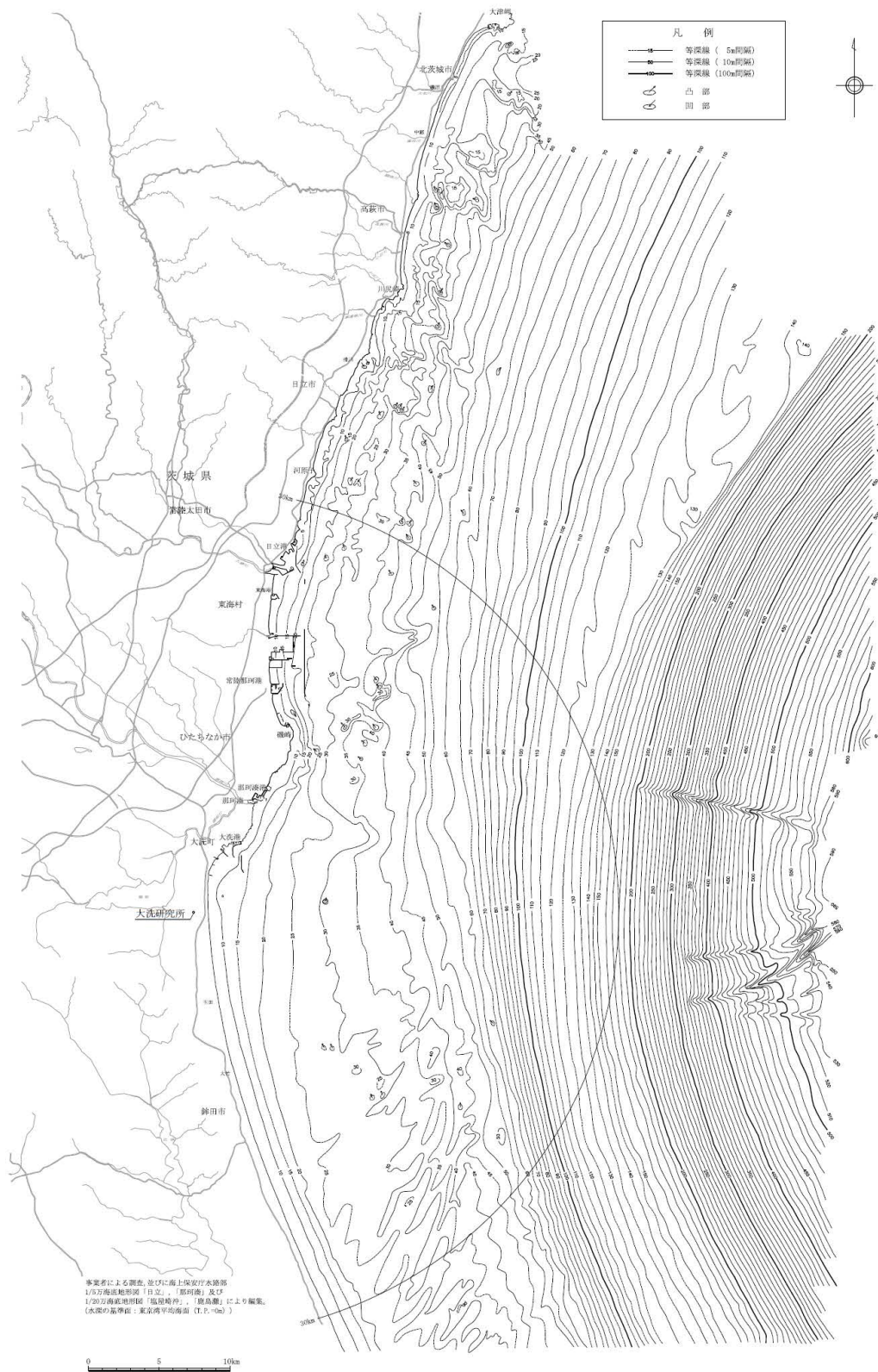


伊奈町本町付近地質断面図

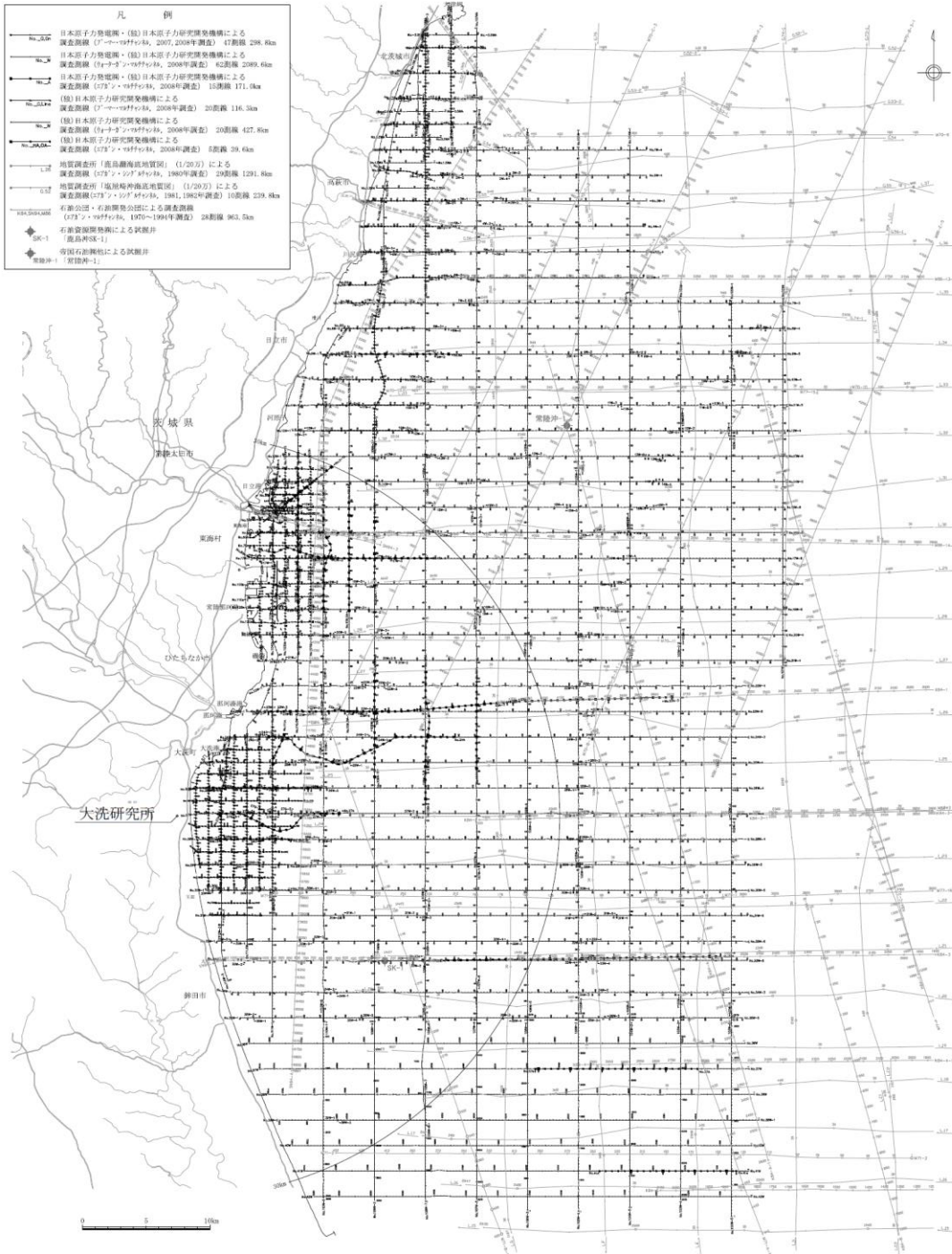


さいたま市深谷付近地質断面図

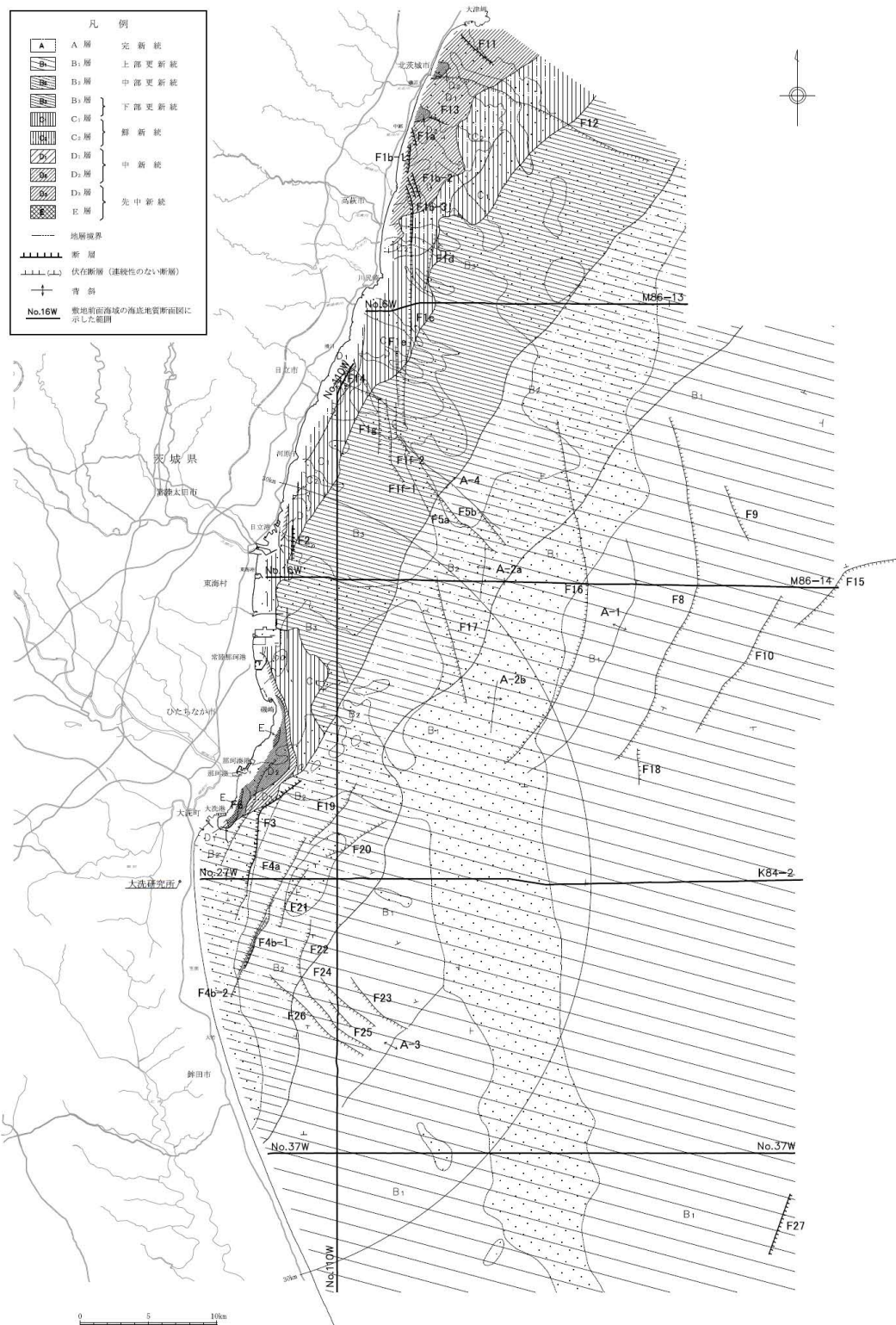
第 3. 2. 150 図 深谷断層帯・綾瀬川断層南東端部周辺の地質断面図



第 3.2.151 図 敷地前面海域の海底地形図

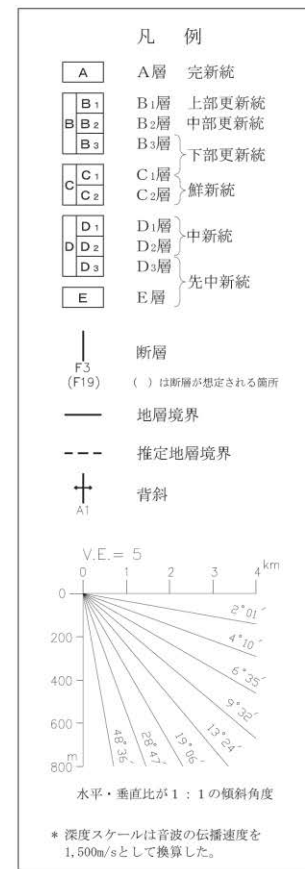
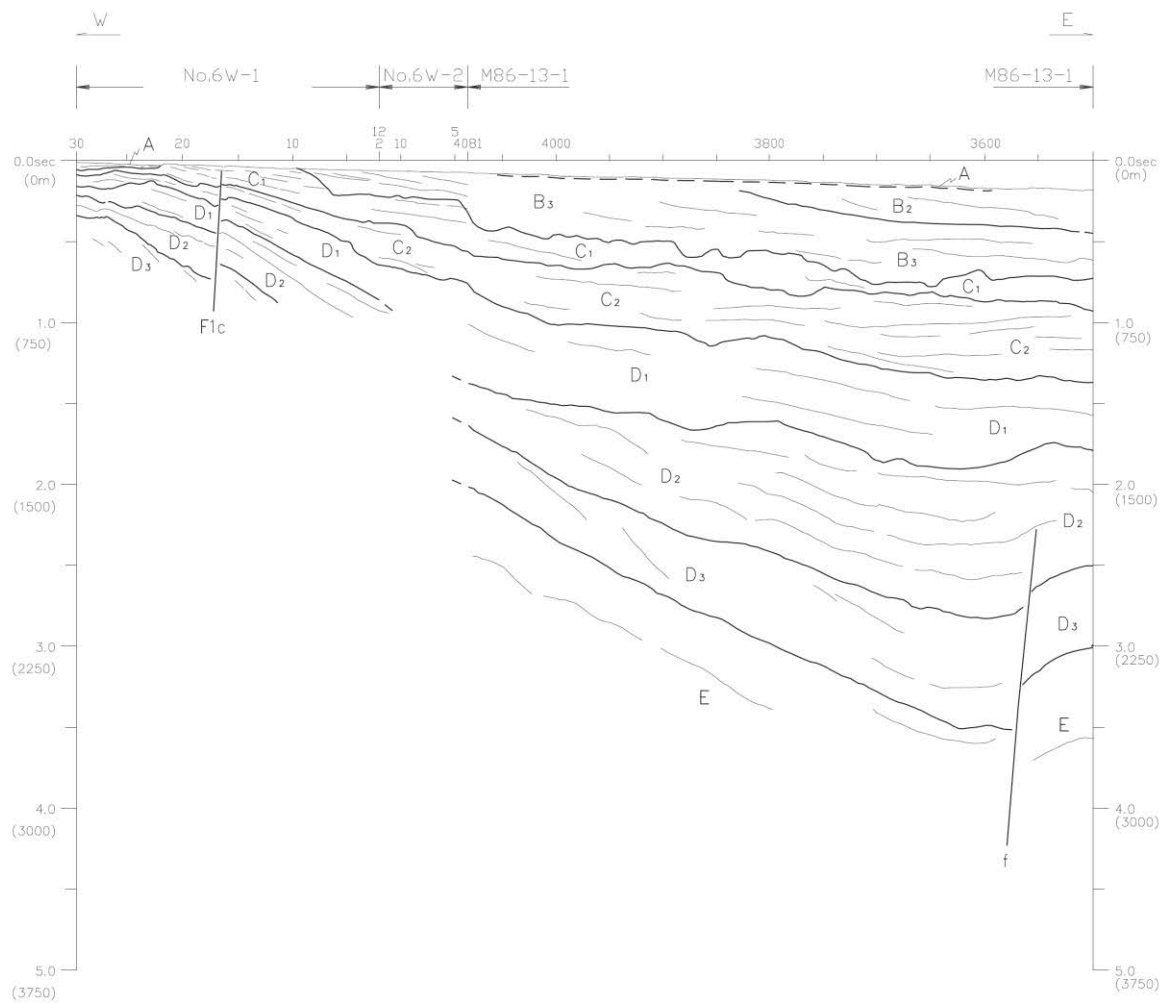


第 3. 2. 152 図 敷地前面海域の海上音波探査測線図

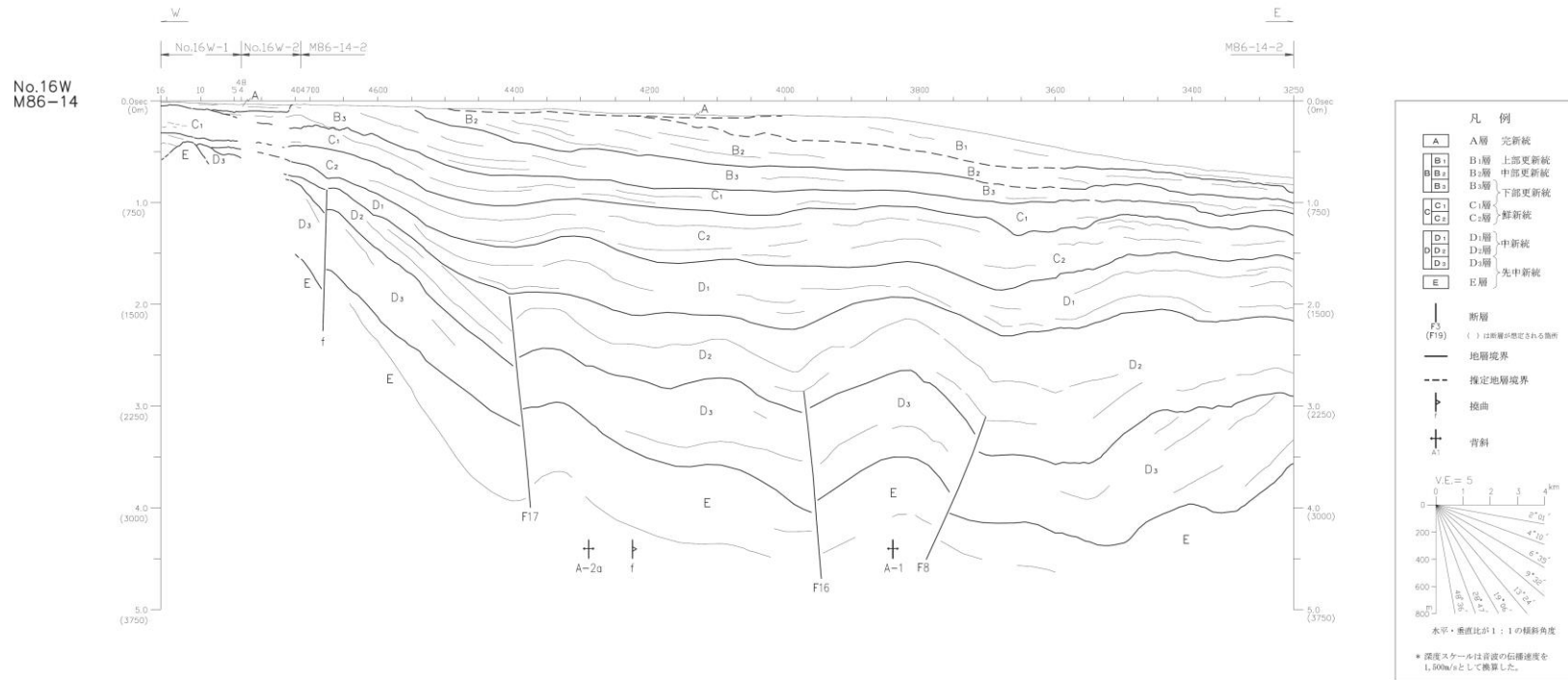


第 3. 2. 153 図 敷地前面海域の海底地質図

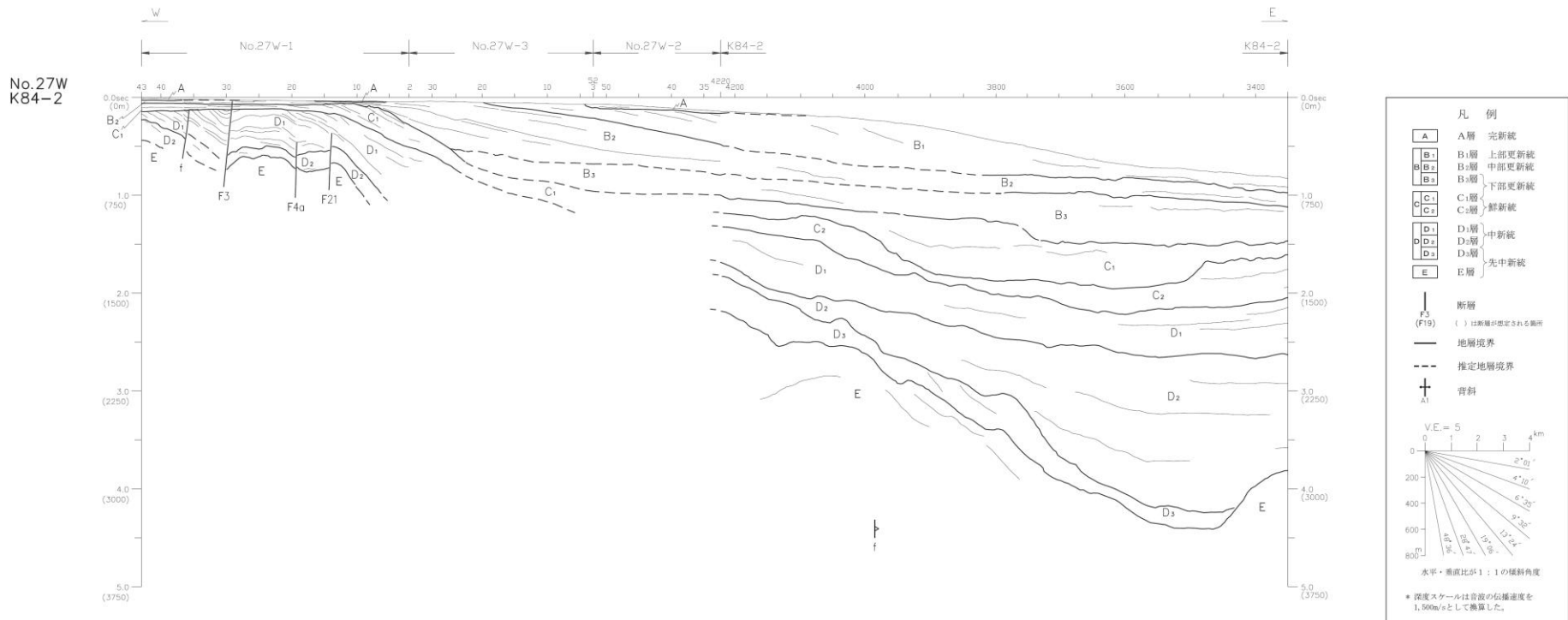
No.6W
M86-13



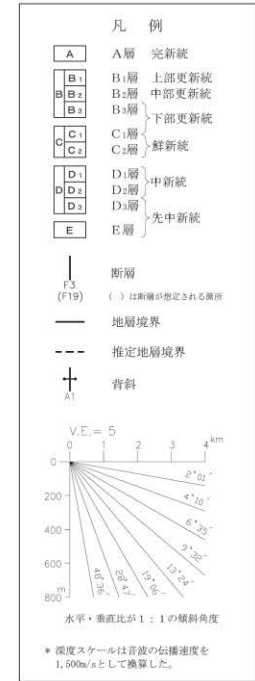
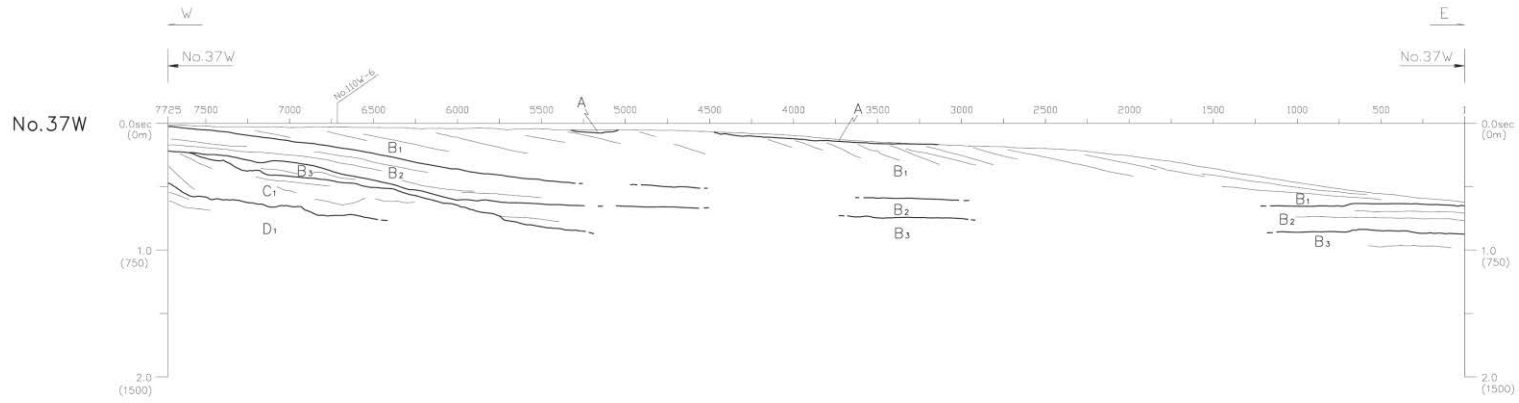
第 3. 2. 154 図(1) 敷地前面海域の海底地質断面図 (その 1)



第 3. 2. 154 図(2) 敷地前面海域の海底地質断面図 (その 2)

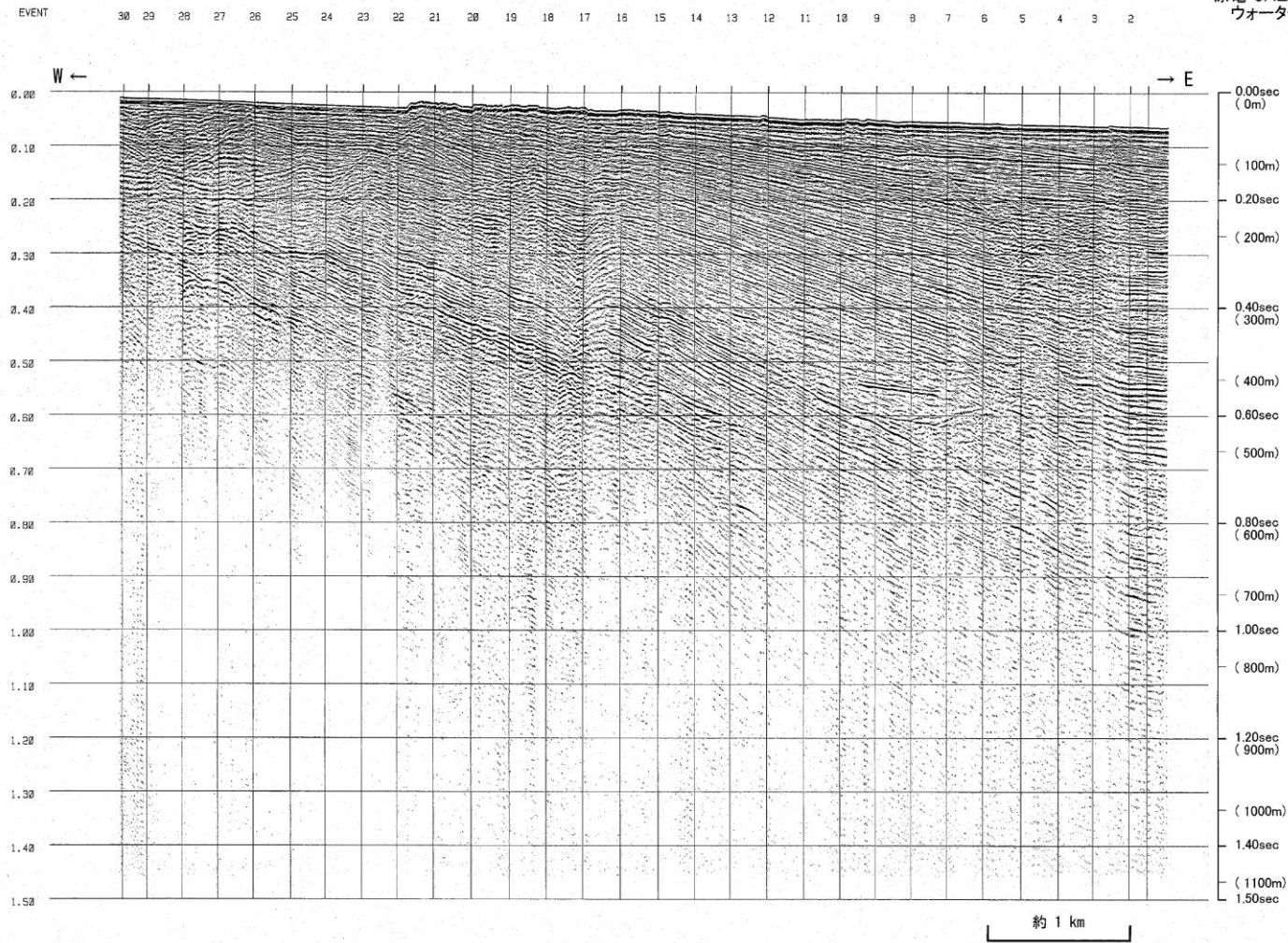


第 3. 2. 154 図(3) 敷地前面海域の海底地質断面図 (その 3)

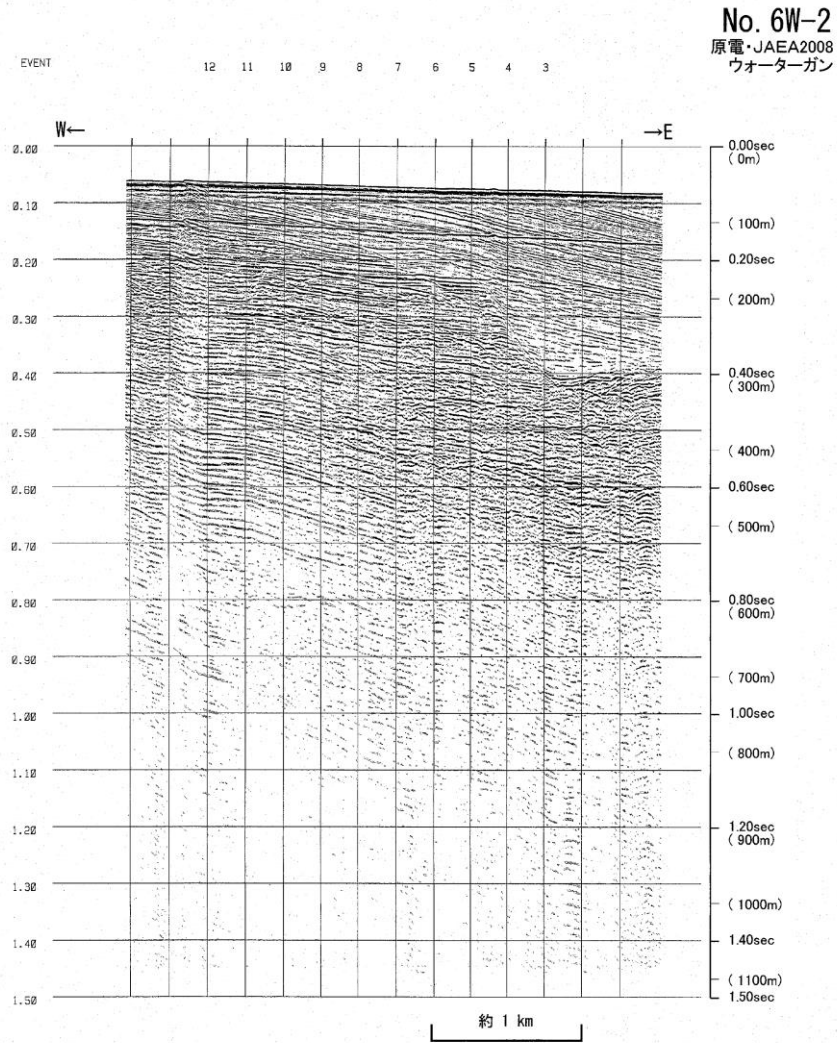


第 3. 2. 154 図(5) 敷地前面海域の海底地質断面図 (その 5)

No. 6W-1
原電・JAEA2008
ウォーターガン

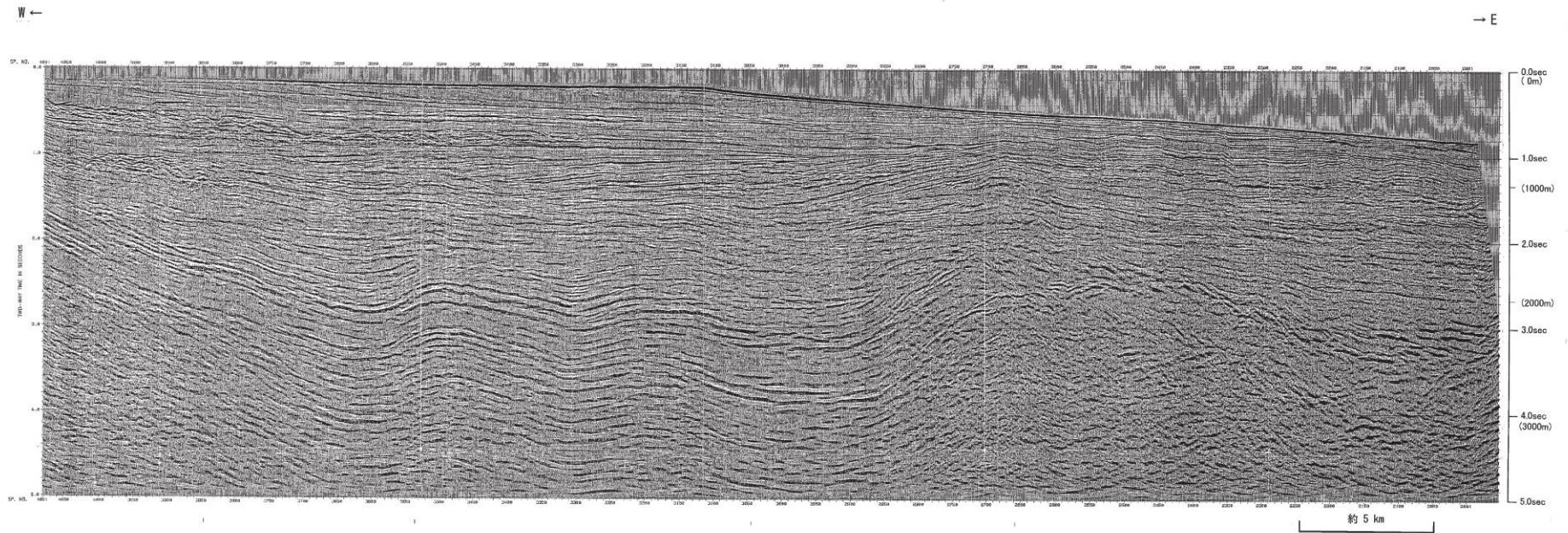


第 3. 2. 155 図(1) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No.6W-1)



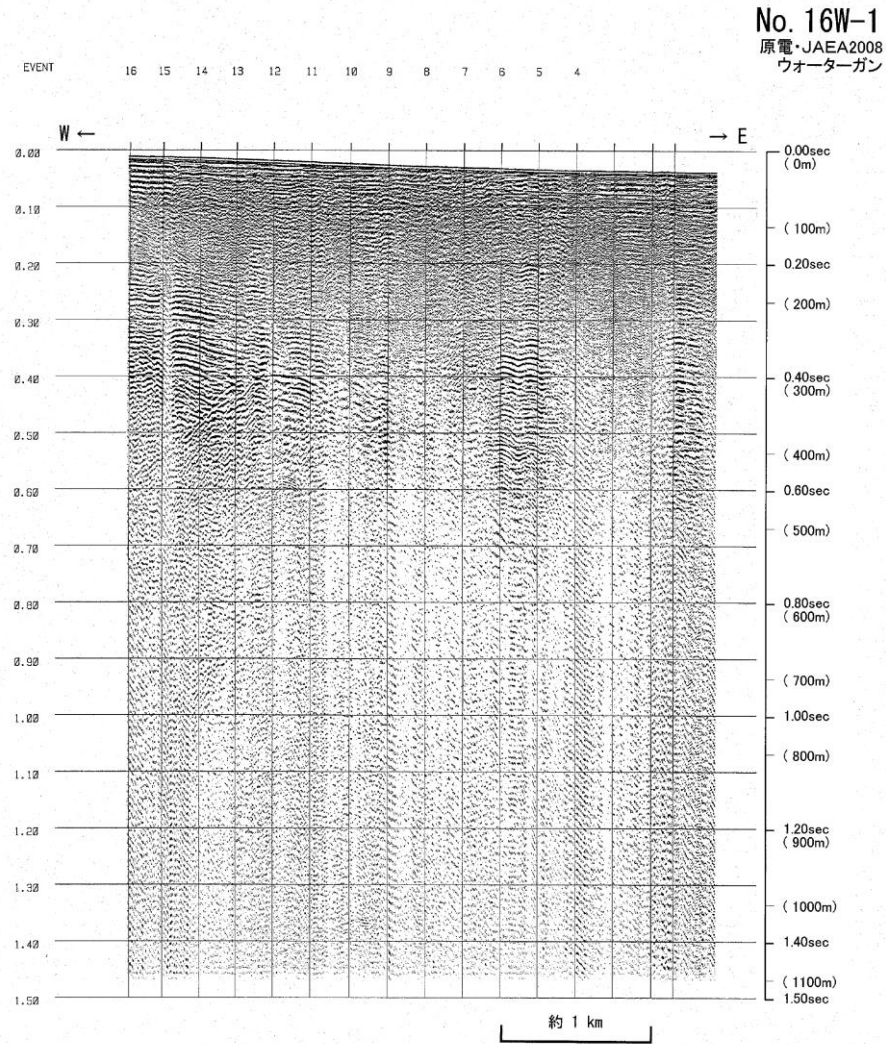
第 3. 2. 155 図(2) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No.6W-2)

M86-13-1
石油公団(1986)
エアガン

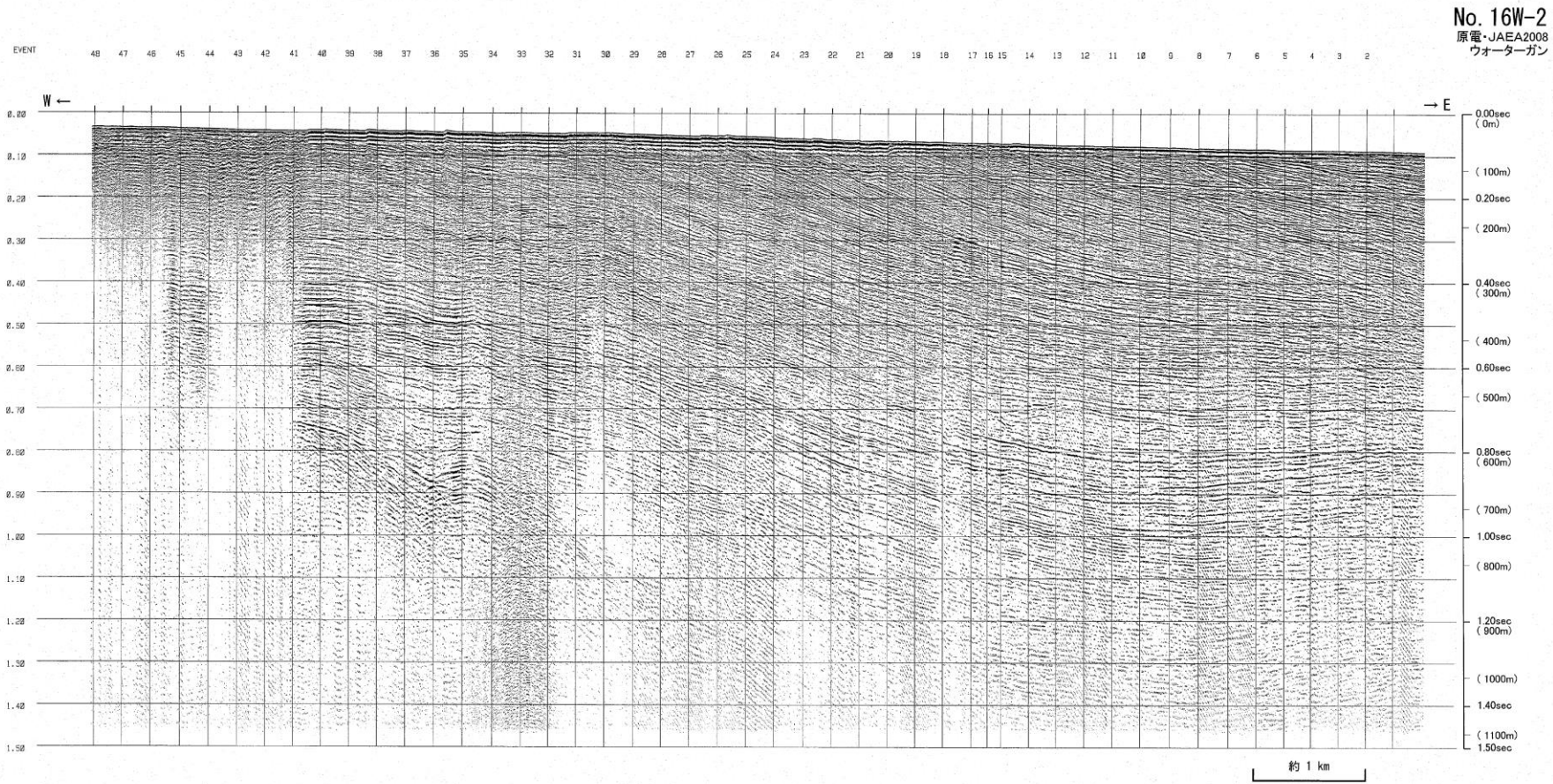


海上音波探査記録は、石油公団（現 独立行政法人
石油天然ガス・金属鉱物資源機構）によるものである。

第 3. 2. 155 図(3) 敷地前面海域の海上音波探査記録(M86-13-1)

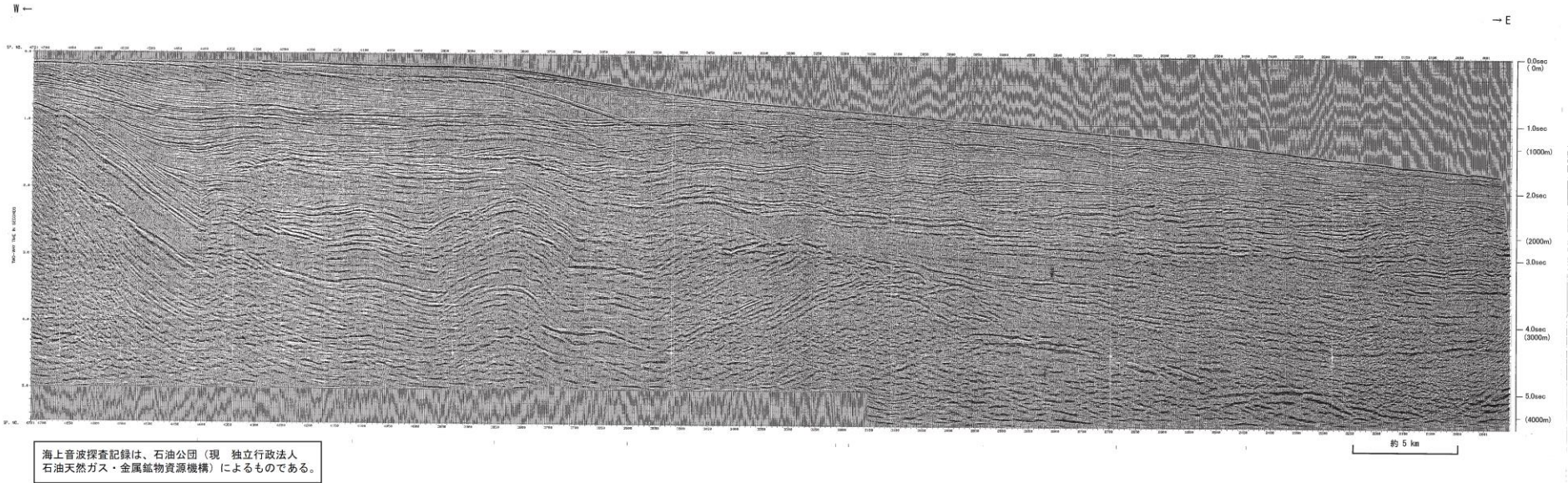


第 3. 2. 155 図(4) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No.16W-1)



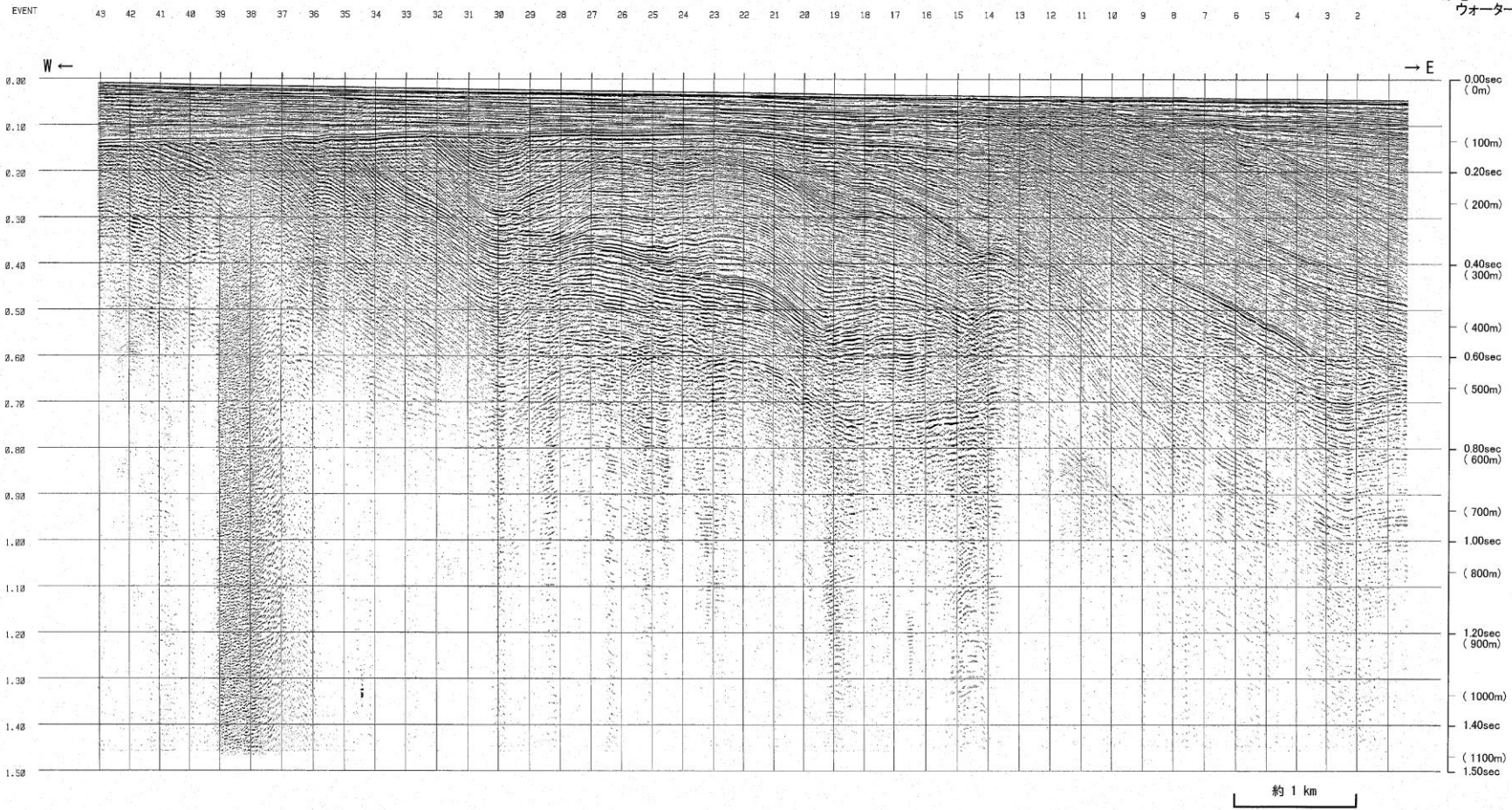
第 3. 2. 155 図(5) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No. 16W-2)

M86-14-2
石油公団(1986)
エアガン

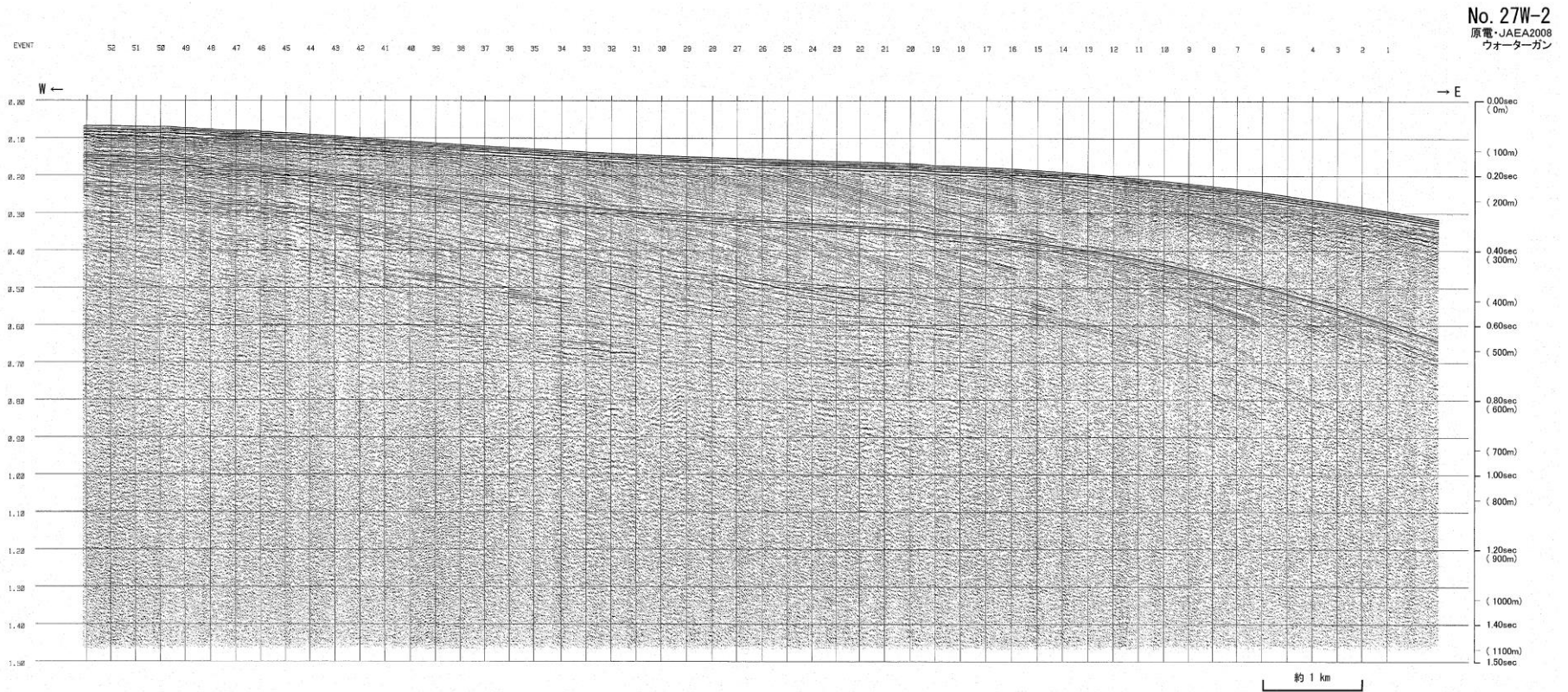


第 3. 2. 155 図(6) 敷地前面海域の海上音波探査記録(M86-14-2)

No. 27W-1
原電・JAEA2008
ウオーターガン

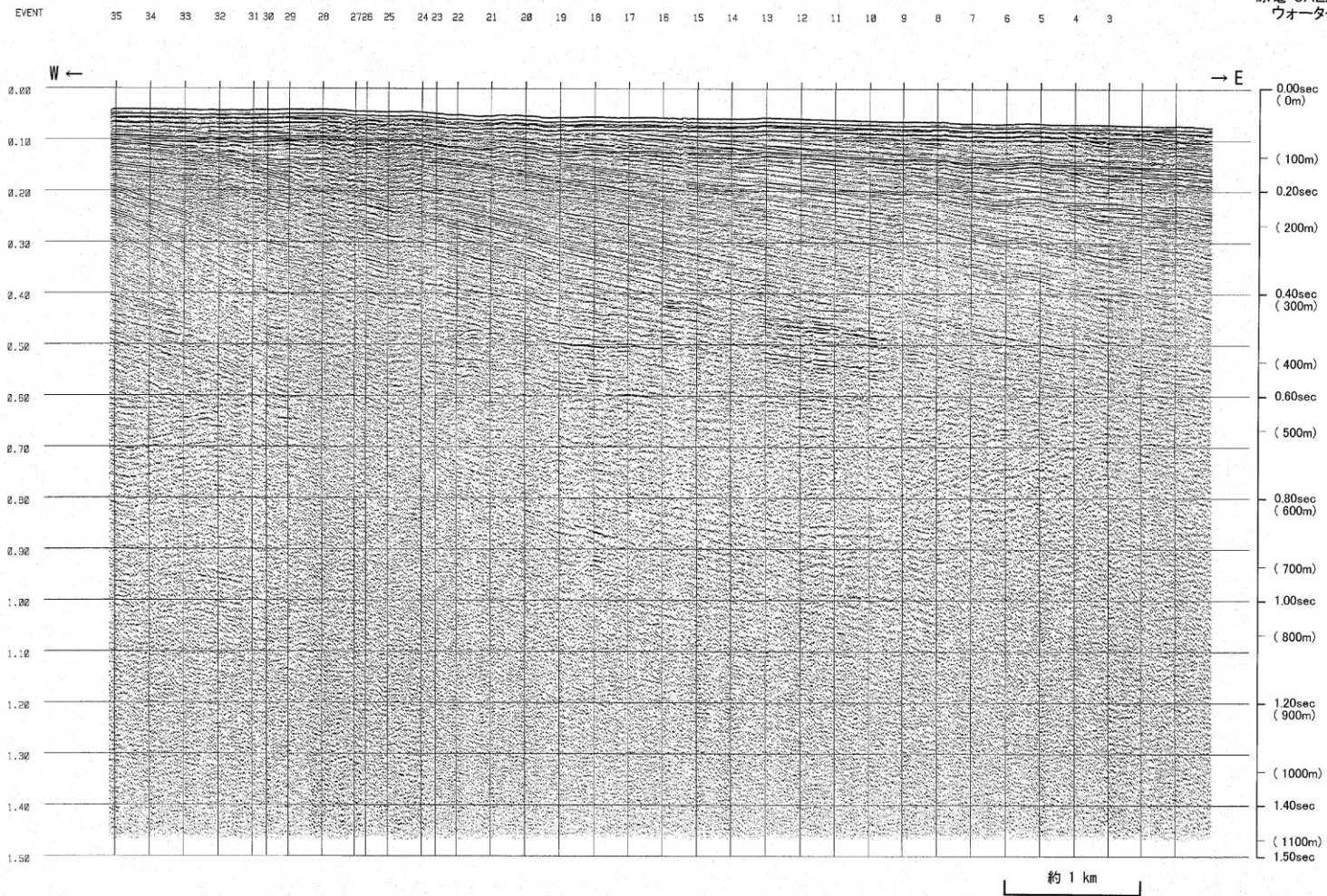


第 3. 2. 155 図(7) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No.27W-1)



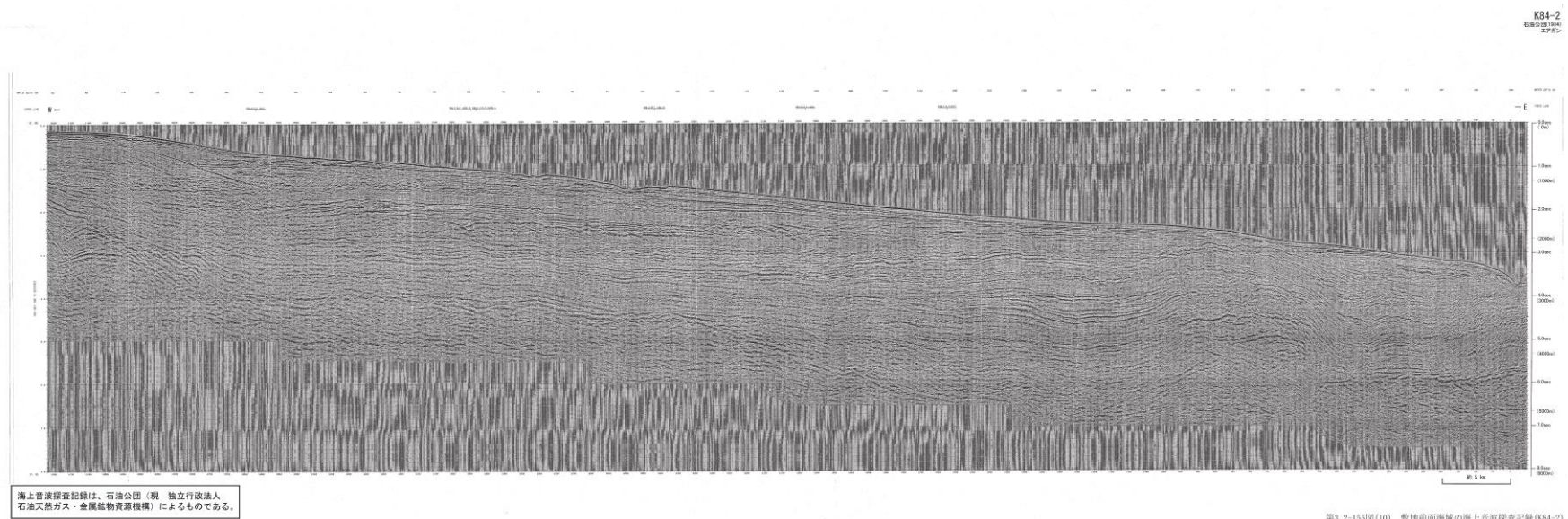
第 3. 2. 155 図(8) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No. 27W-2)

No. 27W-3
原電・JAEA2008
ウォーターガン



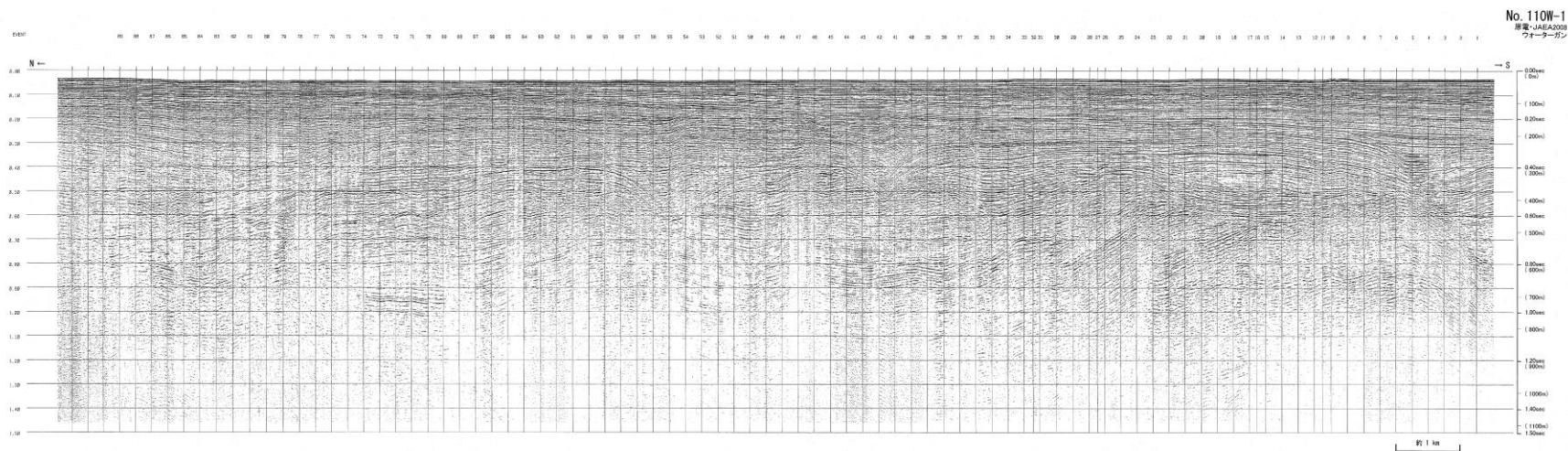
添-1-283

第 3. 2. 155 図(9) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No.27W-3)

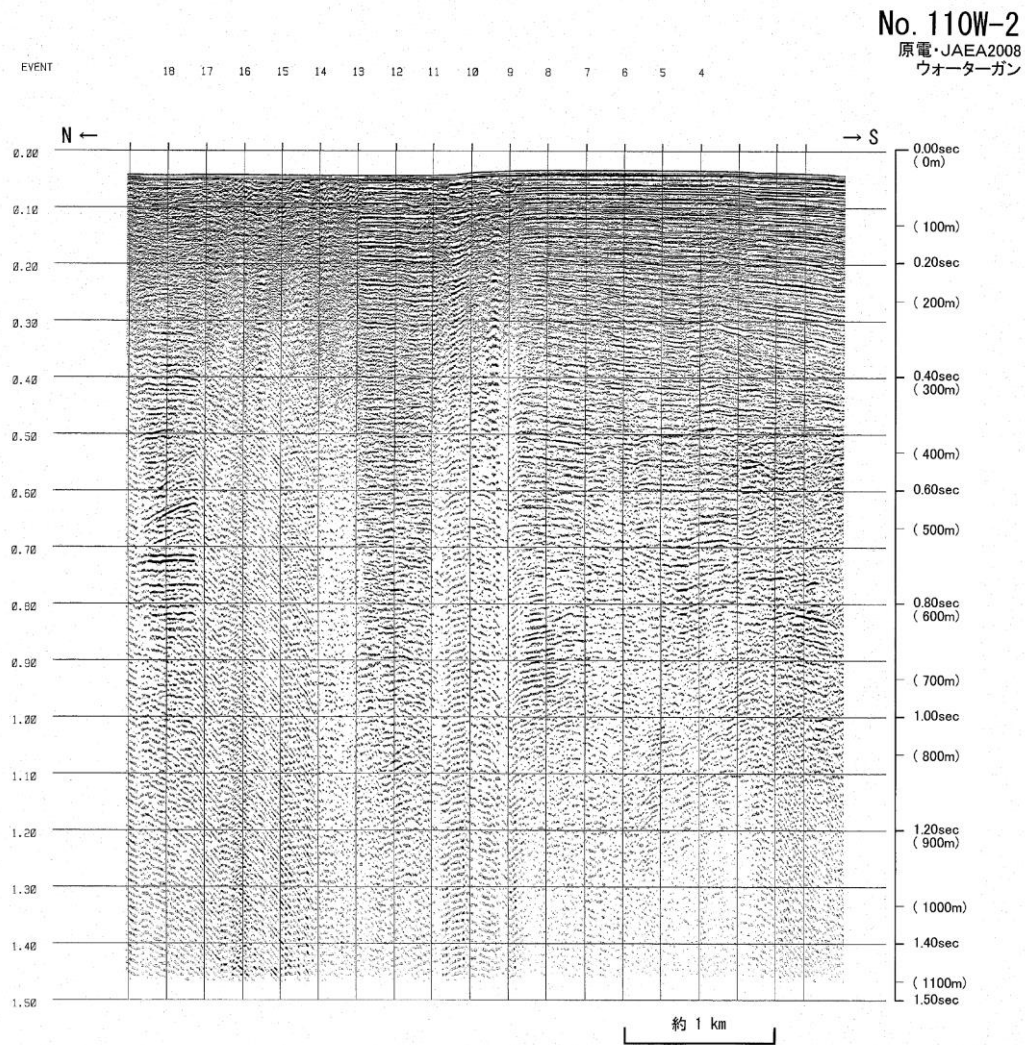


第 3. 2. 155 図(10) 敷地前面海域の海上音波探査記録(K84-2)

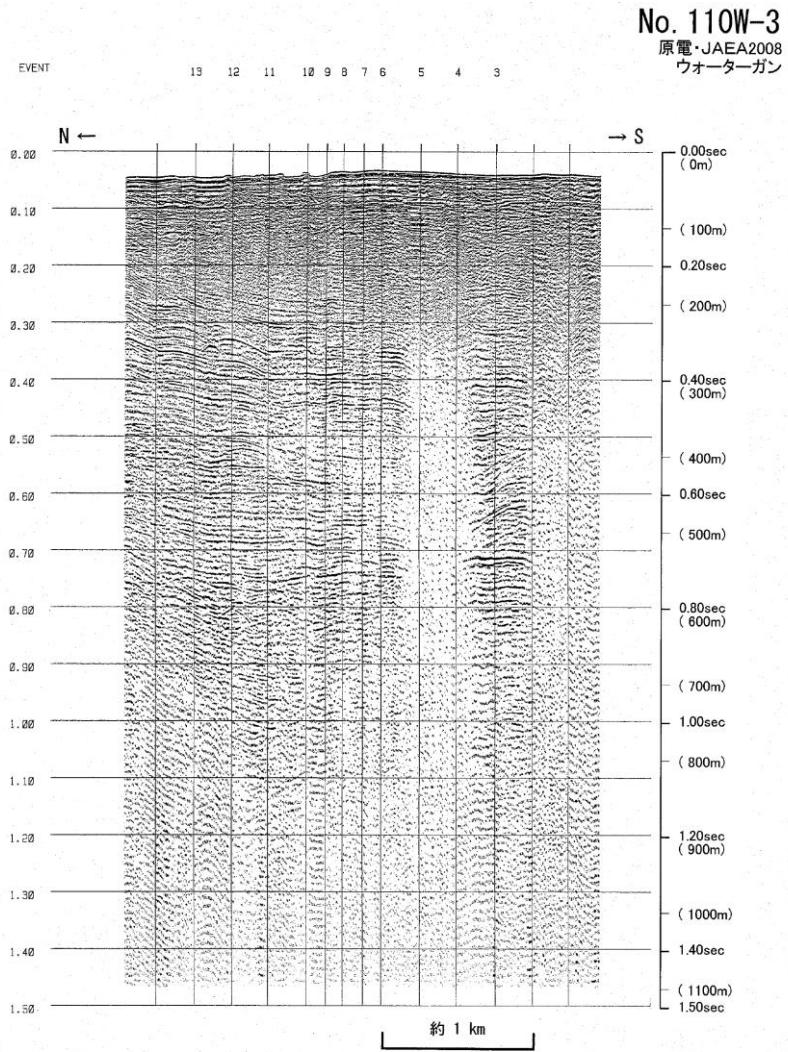
第3.2-155図(10) 敷地前面海域の海上音波探査記録(K84-2)



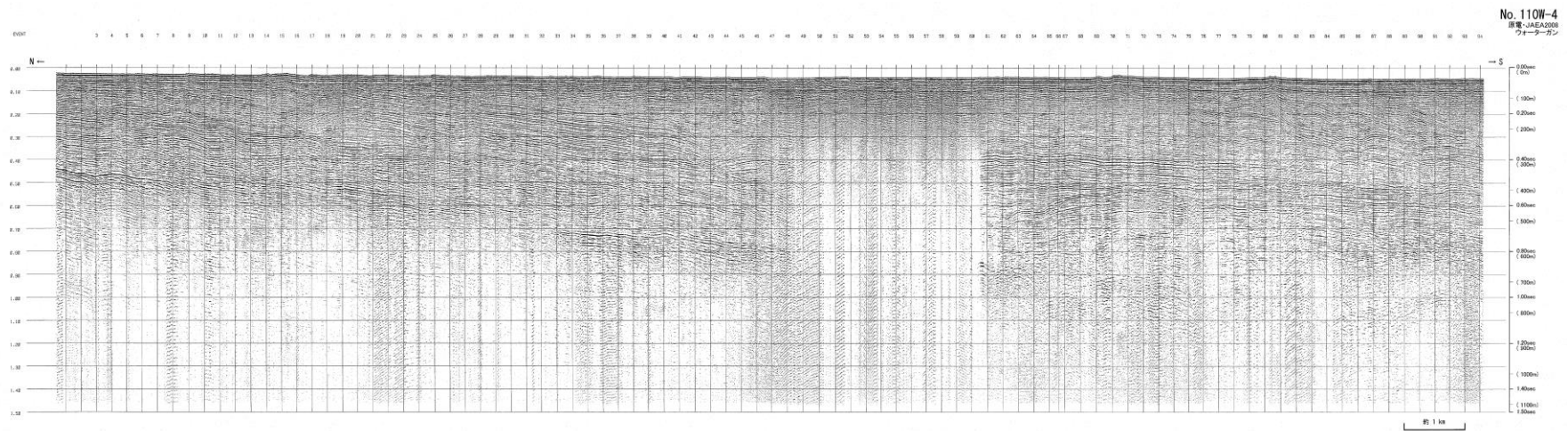
第 3. 2. 155 図(11) 敷地前面海域の海上音波探査記録(No.110W-1)



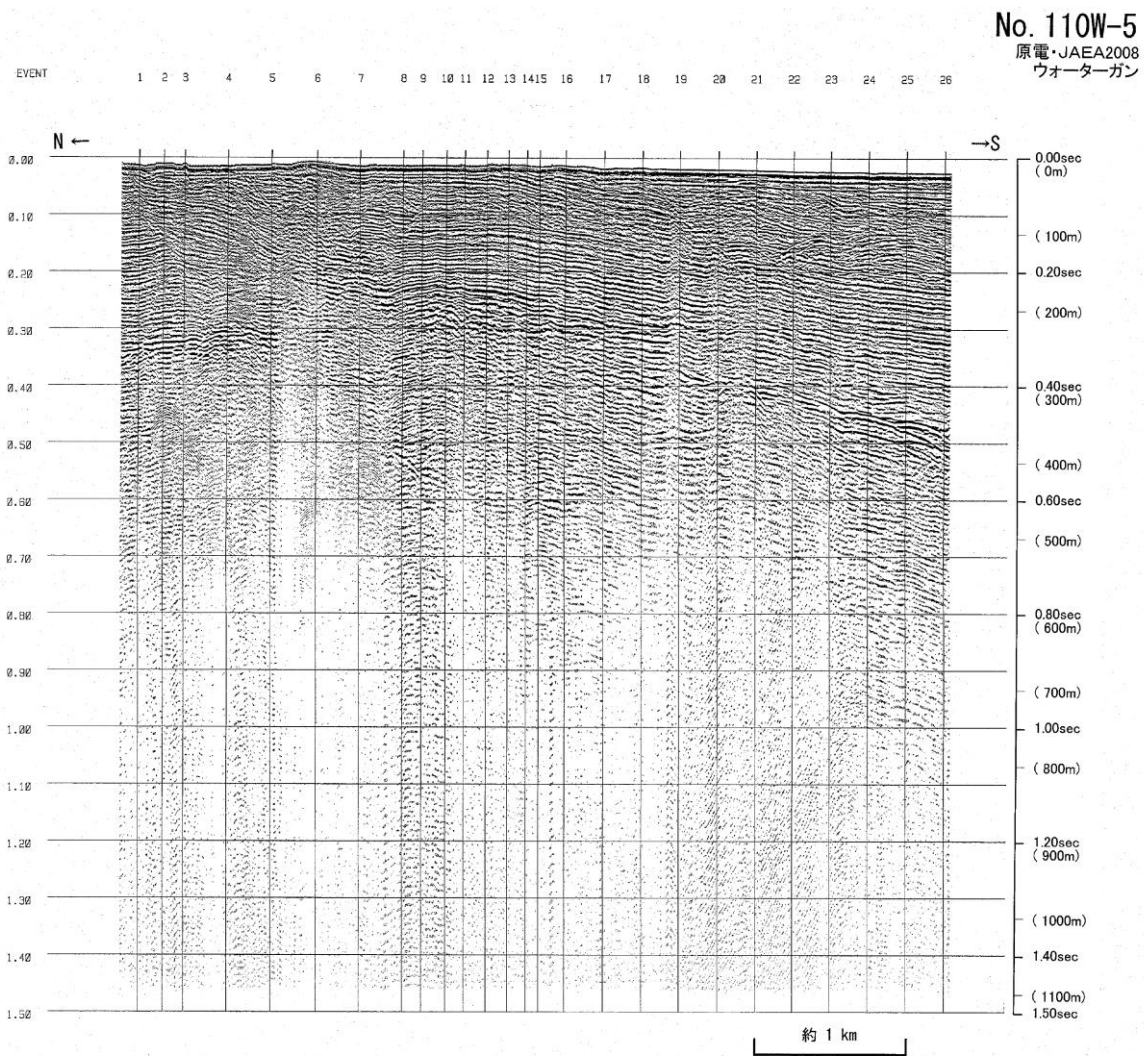
第 3. 2. 155 図(12) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No.110W-2)



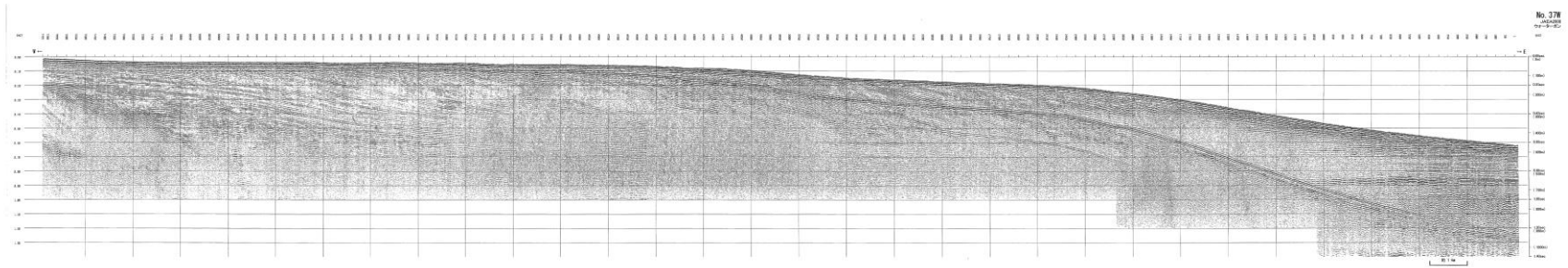
第 3. 2. 155 図(13) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No.110W-3)



第 3. 2. 155 図(14) 敷地前面海域の海上音波探査記録(No.110W-4)

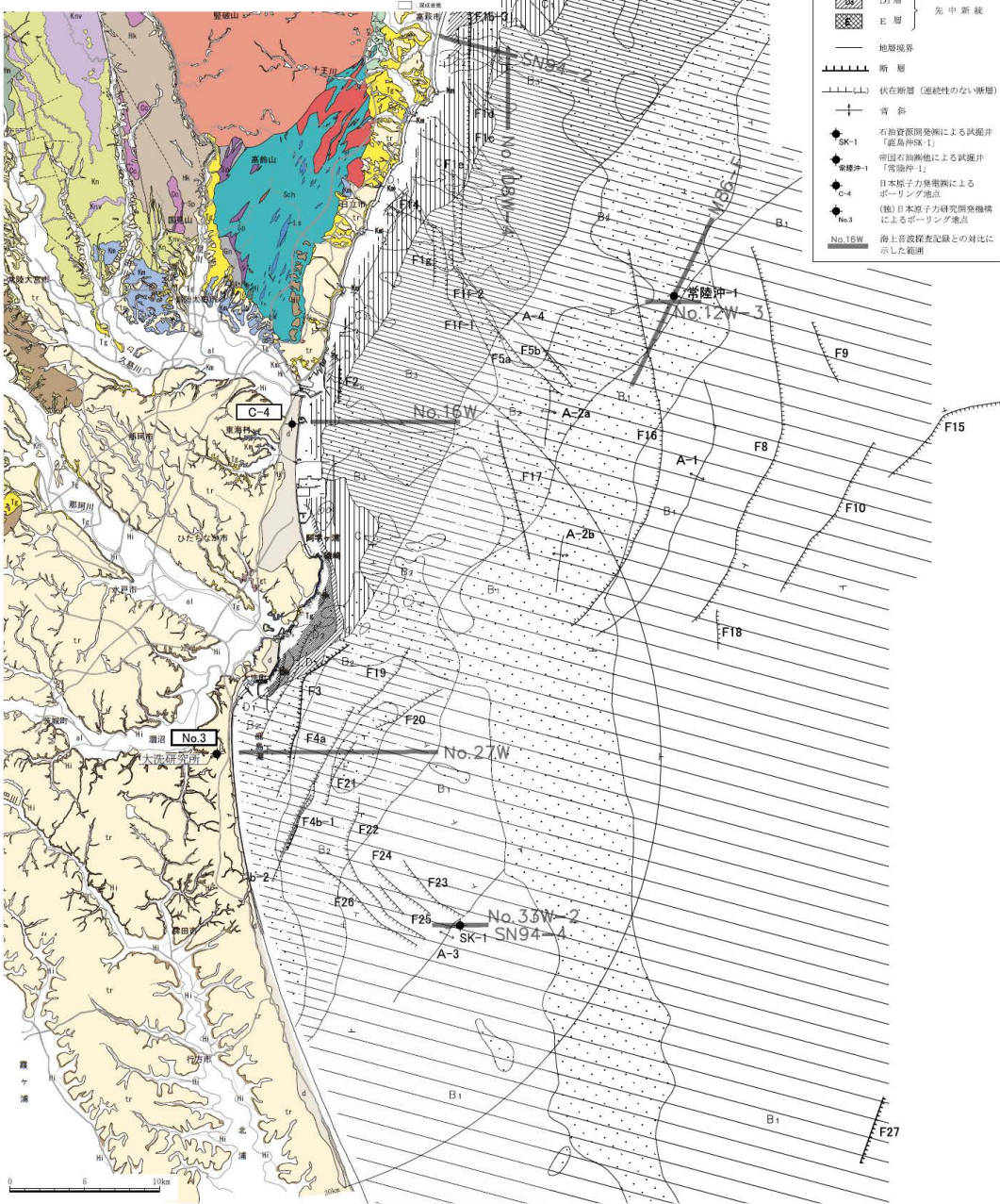


第 3. 2. 155 図(15) 敷地前面海域の海上音波探査記録 (No.110W-5)

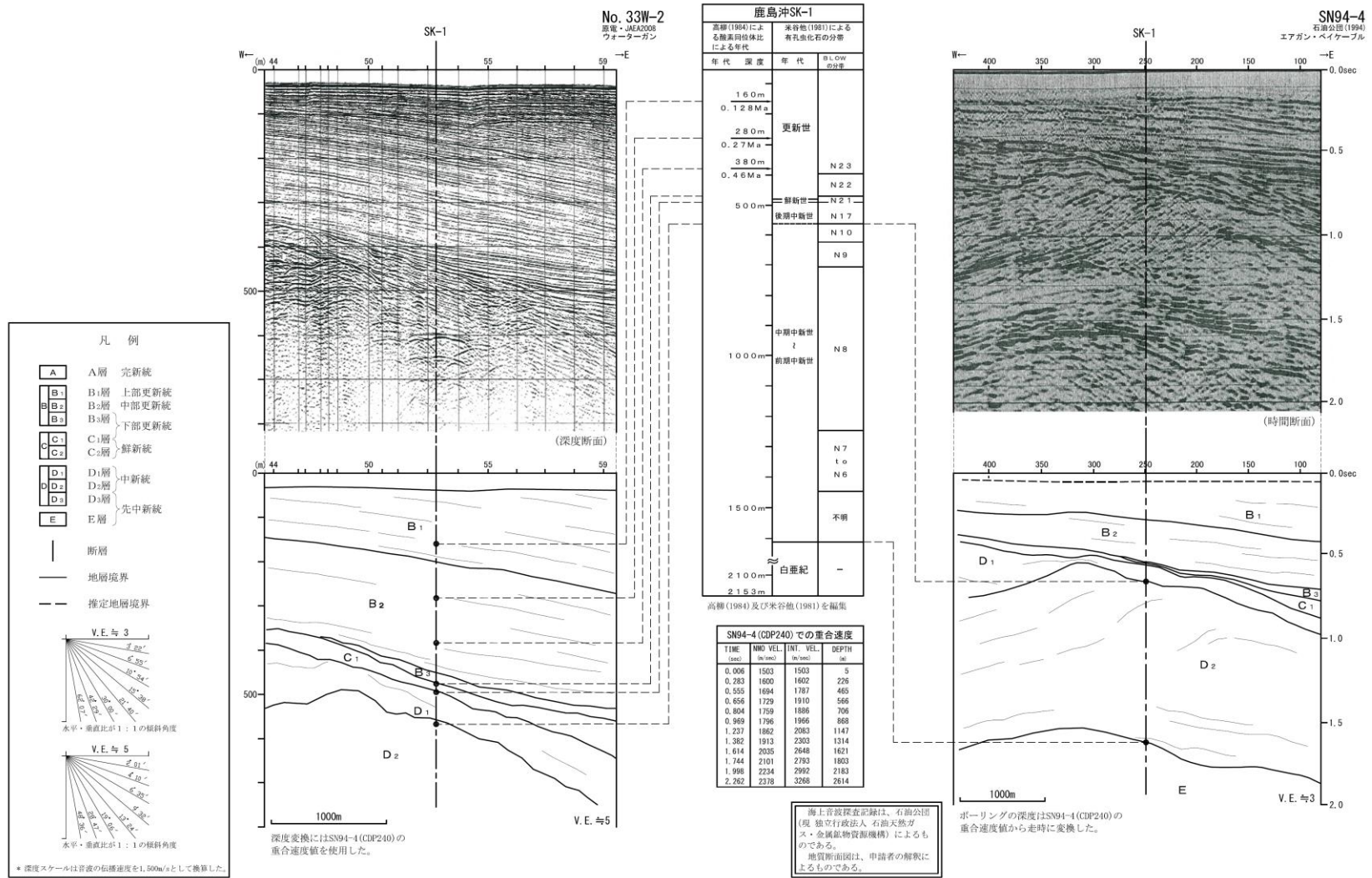


第 3. 2. 155 図(16) 敷地前面海域の海上音波探査記録(No.37W)

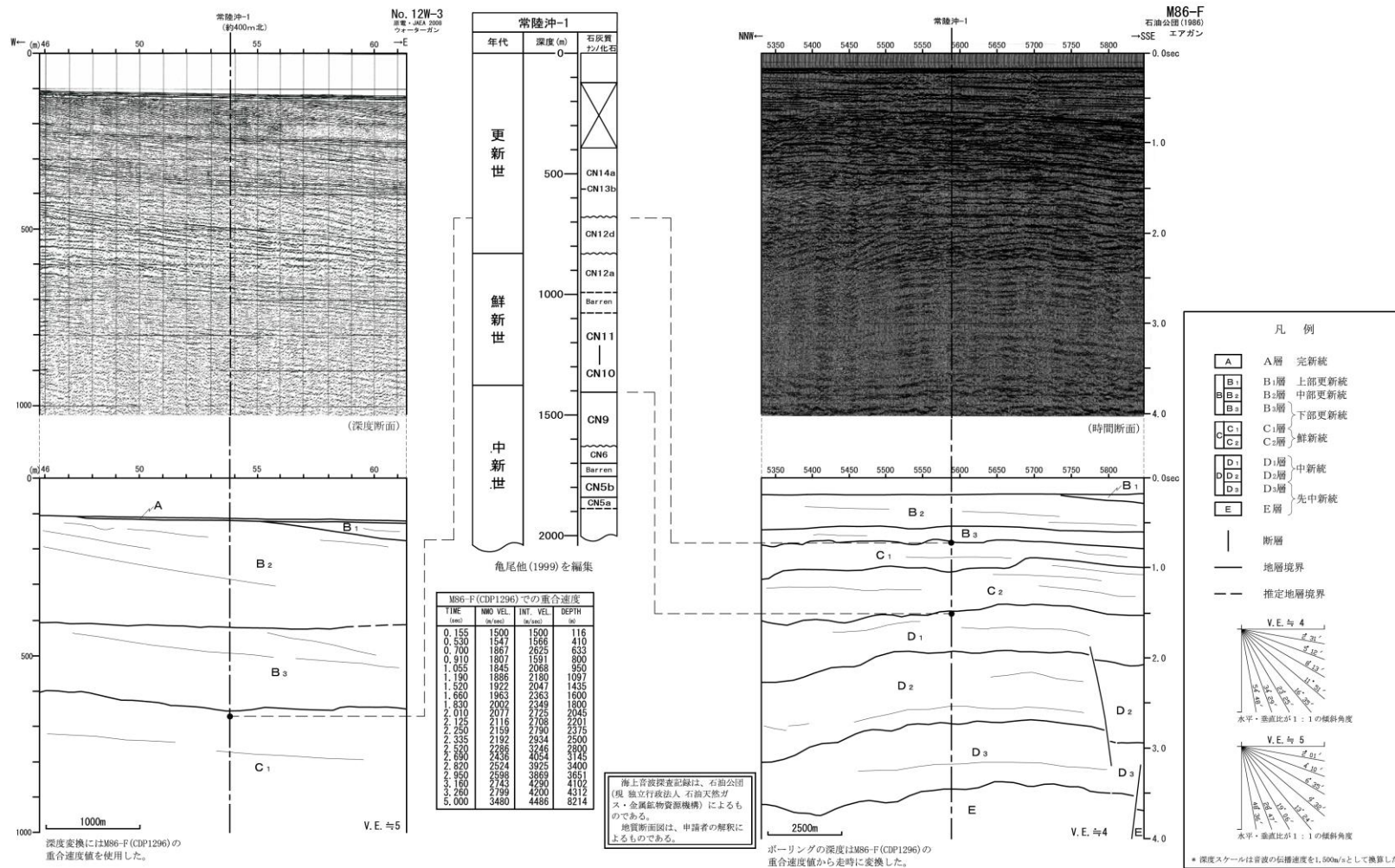
年代階層区分	八景山沖		八景山沖		多摩川沖		扇状地沖	
	地層名	主成分層・層位	地層名	主成分層・層位	地層名	主成分層・層位	地層名	主成分層・層位
更新統	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
更新統	砂丘堆積物	砂・シルト・礫	砂丘堆積物	砂・シルト・礫	砂丘堆積物	砂・シルト・礫	砂丘堆積物	砂・シルト・礫
	美濃川層	砂・シルト・礫	美濃川層	砂・シルト・礫	美濃川層	砂・シルト・礫	美濃川層	砂・シルト・礫
更新統	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
新第三系	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
白垩系	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
ジュラ系	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
三畳系	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
ペルム系	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
石炭系	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫
カンブリア系	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫	沖積層	砂・シルト・礫



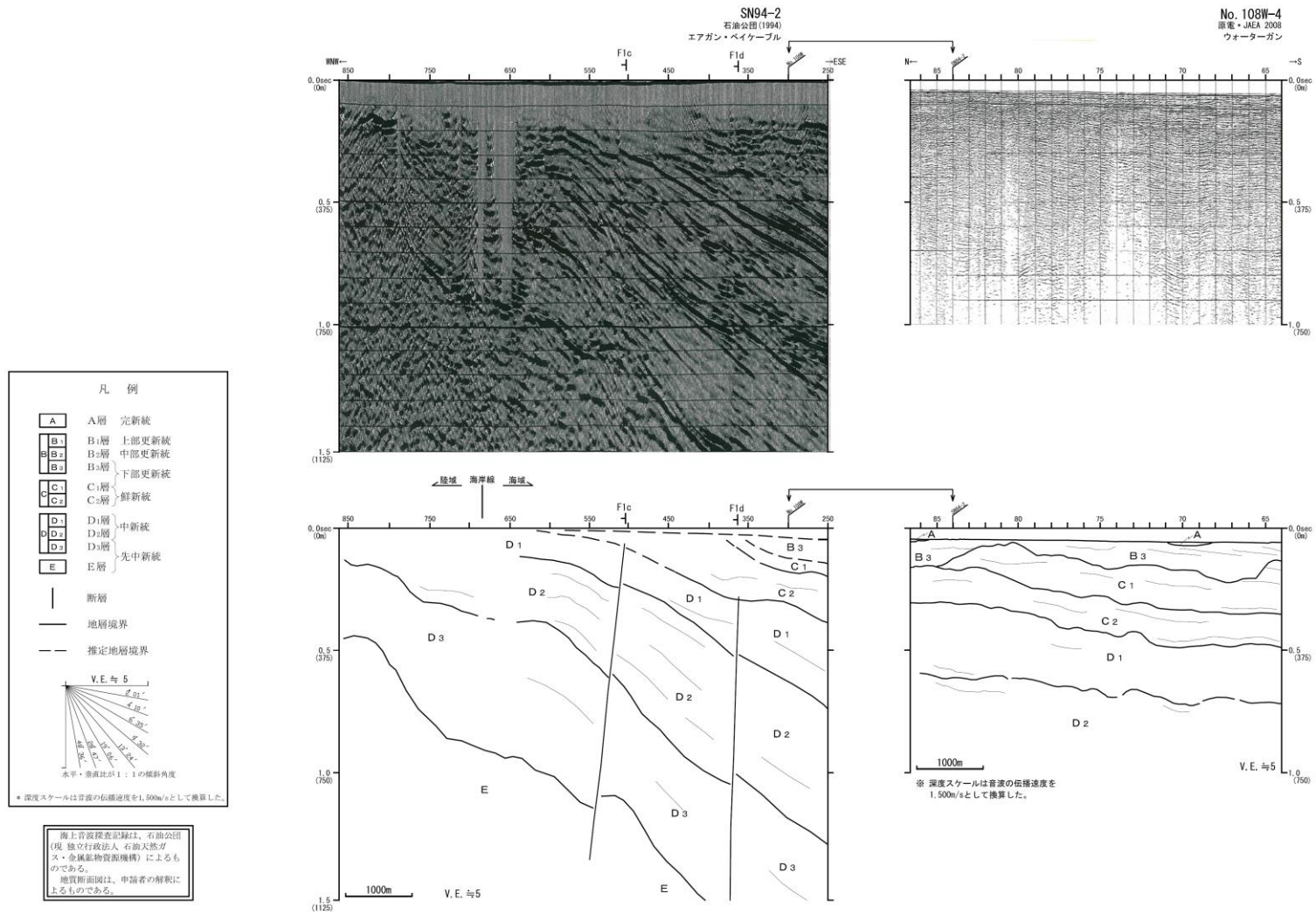
第 3. 2. 156 図 対比した海上音波探査記録の位置図



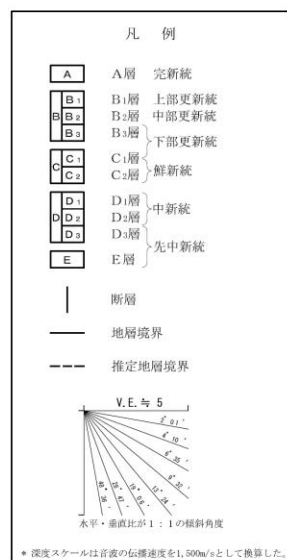
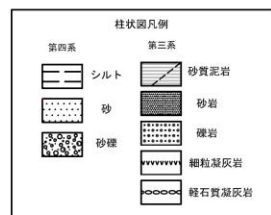
第3.2.157 図(1) 海上ボーリング調査結果と海上音波探査記録の対比 (その1)



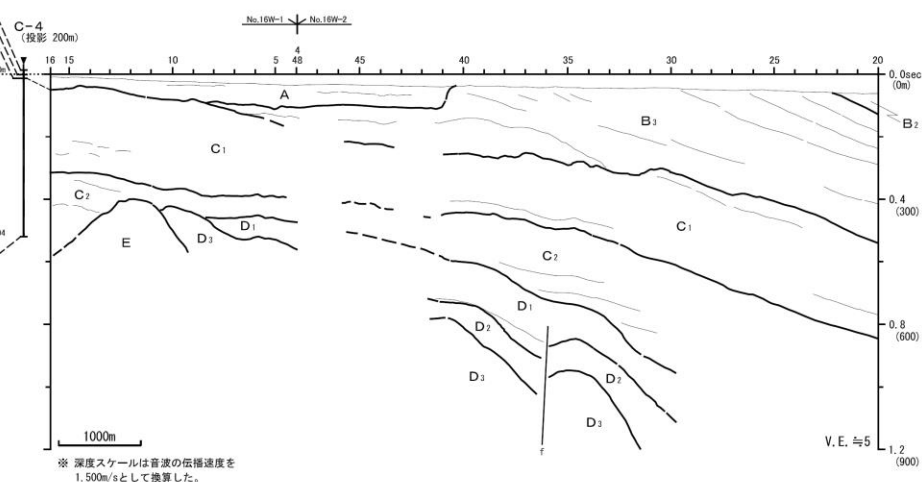
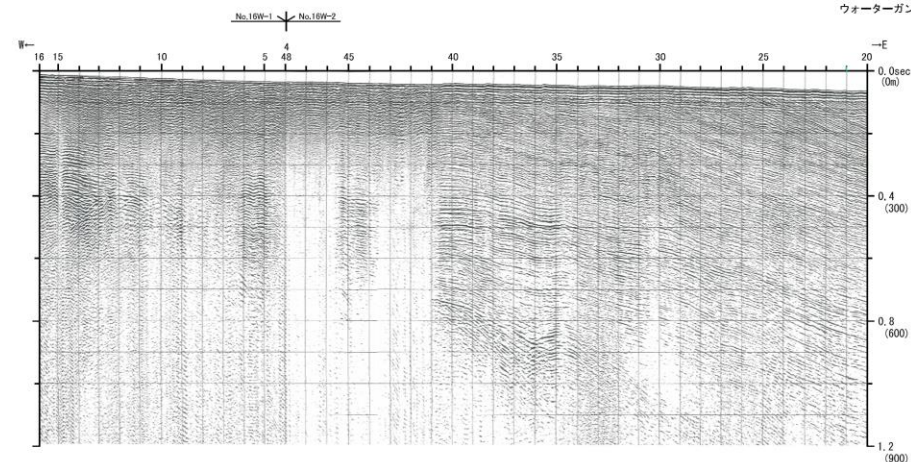
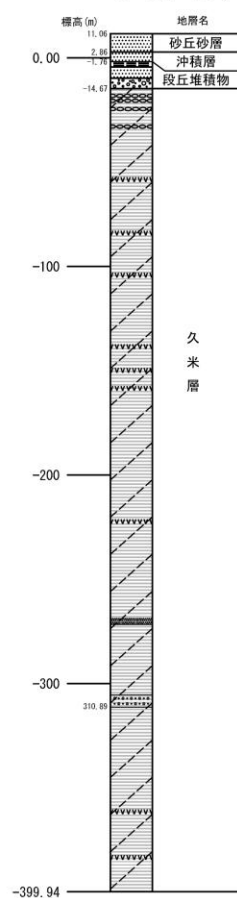
第 3.2.157 図(2) 海上ボーリング調査結果と海上音波探査記録の対比 (その 2)



第 3. 2. 158 図(1) 陸域調査結果と海上音波探査記録の対比 (その 1)

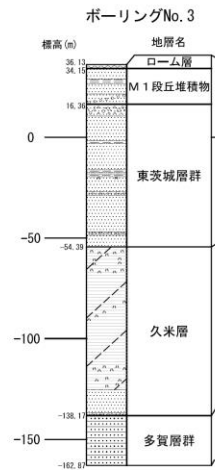
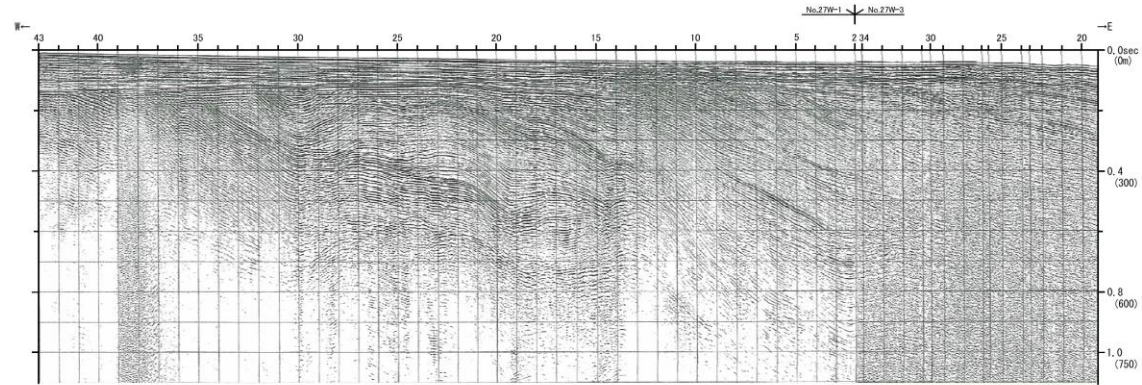
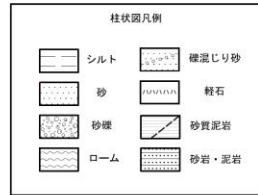


C-4 ボーリング

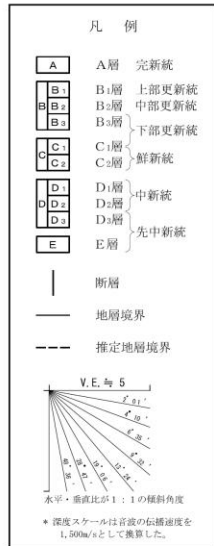
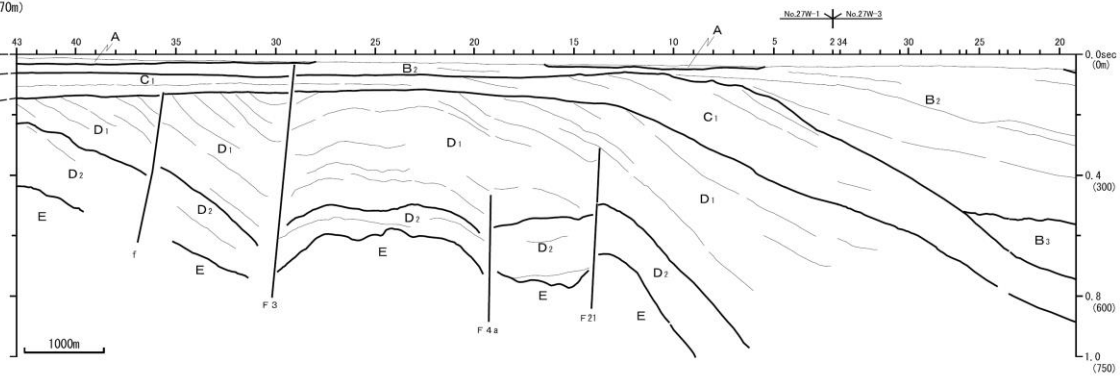


第 3. 2. 158 図(2) 陸域調査結果と海上音波探査記録の対比 (その 2)

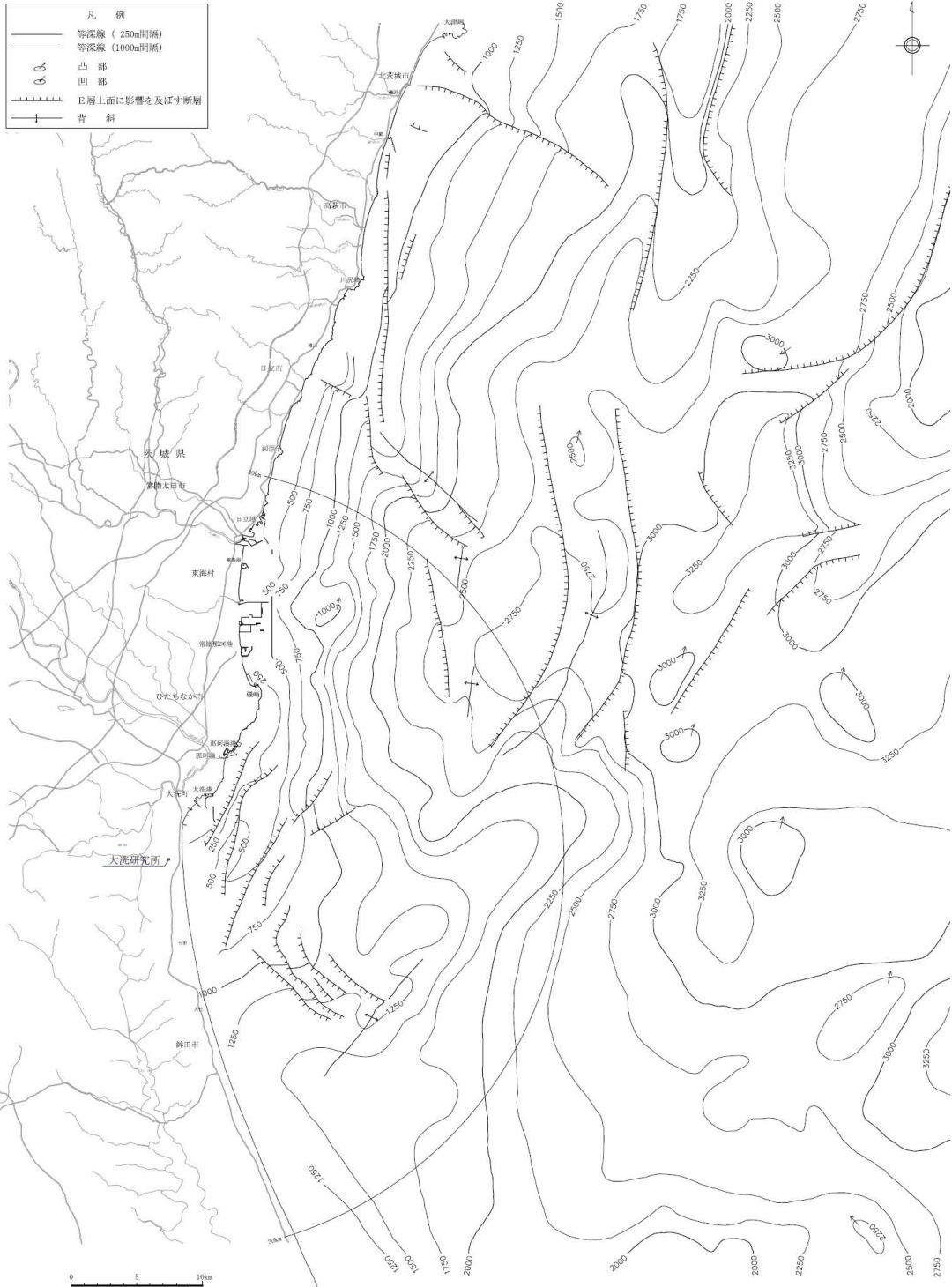
No. 27W-1
No. 27W-3
原電・JAEA2008
ウォーターガン



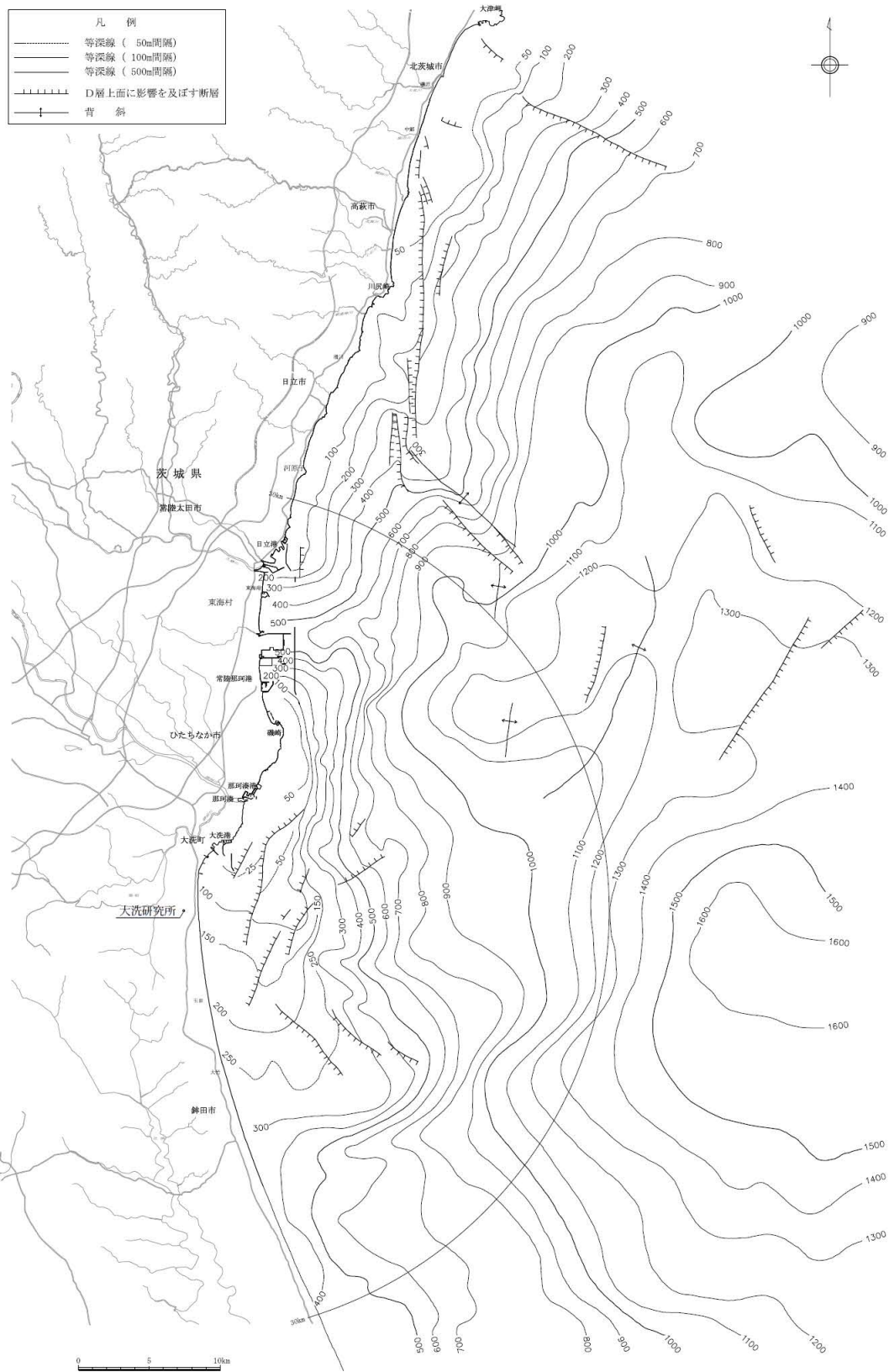
ボーリングNo. 3
(投影 170m)



第 3. 2. 158 図(3) 陸域調査結果と海上音波探査記録の対比 (その 3)



第 3. 2. 159 図 敷地前面海域の E 層上面等深線図



第 3. 2. 160 図 敷地前面海域のD層上面等深線図